

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

**平成 23 年度～平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 京都精華大学 2 大学名 京都精華大学
- 3 研究組織名 国際マンガ研究センター
- 4 プロジェクト所在地 京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)
- 5 研究プロジェクト名 マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職 名
吉村和真	国際マンガ研究センター	センター長

- 8 プロジェクト参加研究者数
- 17
- 名

- 9 該当審査区分
- 理工・情報
- 生物・医歯
- 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
吉村和真	マンガ学部教授・センター長	マンガ/コミックリテラシーの国際比較	グローバルなマンガ研究自体の意義付け
ジャクリーヌ・ベルント	マンガ学部教授・副センター長	美学によるグローバルなマンガ研究の展開	国際会議 5 年計画の全体統括
竹宮恵子	マンガ学部教授	原画 '(ダッシュ) の開発と海外利用	マンガの海外展示手法の開発
清水 勲	センター研究顧問	マンガ/コミック史の国際比較	江戸戯画資料の収集と分類
呉 智英	センター研究顧問	マンガ・リテラシーの思想研究	作品・作家研究と現代マンガ評論
應矢泰紀	センター研究員	マンガと映像の比較メディア論	マンガ・アニメの表現比較
猪俣紀子	センター研究員	マンガとコミックスの比較メディア論	国際会議の企画・運営
倉持佳代子	センター研究員	国際的表現ツールとしてのマンガ活用	ミュージアムを介した研究成果の国際的発信
伊藤 遊	センター研究員	マンガミュージアムの比較文化論	国内外のマンガ関連施設のネットワーク
ジェシカ・杉本・パウエンス	センター外国人研究員	『国際マンガ研究』の翻訳と編集	研究成果の刊行と編集システム開発

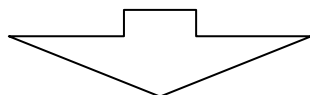
法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

(共同研究機関等)	—	—	—
-----------	---	---	---

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
前頁一覧に同じ	前頁一覧に同じ	前頁一覧に同じ	前頁一覧に同じ



変更時期:平成23年4月1日→伊藤 遊、表 智之<所属の追加>

平成26年4月1日→ジェシカ・杉本・バウエンス<所属の追加>

平成26年4月1日→小川 剛、猪俣紀子<所属の追加+職名変更>

平成23年6月1日→岩下朋世<追加>、平成24年4月1日<所属追加+職名変更>

平成24年4月1日→都留泰作<新規就任>

平成25年4月1日→石田葉月、雑賀忠宏、ユースギョン<新規就任>

新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
センター研究員	京都精華大学非常勤講師 センター研究員	伊藤 遊	国内外のマンガ関連施設の ネットワーキング
センター外国人研究員	龍谷大学准教授 センター学外研究員	ジェシカ・杉本・ バウエンス	研究成果の刊行と編集 システム開発
センター学外研究員	北九州市漫画ミュージアム専門 研究員・センター学外研究員	表 智之	ミュージアムを介した研究成果 公開
センター研究員	崇城大学助教 センター学外研究員	小川 剛	ワークショップの企画・ 立案及びプログラム構築
センター研究員	茨城大学准教授 センター学外研究員	猪俣紀子	国際会議の企画・運営支援
京都精華大学マンガ 学部客員研究員	センター研究員	岩下朋世	ミュージアムを介した研究成果 の国際的発信
センター研究員	相模女子大学講師 センター学外研究員	岩下朋世	ミュージアムを介した研究成果 の国際的発信
京都精華大学マンガ 学部准教授	京都精華大学マンガ学部准教授 センター研究員	都留泰作	ミュージアムを介した研究成果 の国際的発信
神戸大学大学院	センター研究員	雑賀忠宏	研究成果の刊行と編集 システム開発
京都精華大学大学院	センター研究員	石田葉月	ワークショップの企画・ 立案及びプログラム構築
京都精華大学大学院	センター外国人研究員	ユースギョン	ミュージアムを介した研究成果 の国際的発信

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

1990年代後半以降、日本のマンガが文化や産業の面で国際的に高く評価される中で、国内の複数の大学で専門の学科やコース、講座が開設され、マンガ・アニメーション研究は着実に進化してきた。2000年代には、マンガ家の記念館など、産官連携によるマンガ関連施設も増加したが、国内外のマンガ研究者の学術交流や成果公開の場は限定されたままであり、国際的に広がりを見せるマンガ研究のための拠点形成が求められていた。このような背景をふまえ、京都精華大学では平成18年4月に「国際マンガ研究センター」を設置、同年11月には京都市と共同で「京都国際マンガミュージアム」を開館し、先鞭を付けてきた。

本研究プロジェクトでは、国内外のマンガに関する学術的研究の交流と深化を目指して、テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」、ならびにテーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」に取り組むこととした。その目的は、日本に中心的役割が期待されるマンガ研究領域において、世界をリードできる国際的かつ先端的な研究拠点を形成することである。

この二つのテーマに基づく研究活動によって得られる一連の成果は、国内外のマンガ研究動向の把握と推進、マンガの専門性と実務性を兼ね備えた研究者や高度専門職業人の育成など、今後のマンガ研究領域の基盤整備と国際発展にとって大きな意義を有している。

計画の概要は、テーマ1については、国際的なマンガ研究に関する最新の動向をふまえ、年に1回、国際学術会議の開催と紀要『国際マンガ研究』の刊行を実施すること。テーマ2については、京都国際マンガミュージアムの展示・講演等を研究成果公開に活用するとともに、原画ダッシュ資料や作画ワークショップなど、国際展開モデルを開発・蓄積することである。

(2) 研究組織

二つの研究テーマで構成する本プロジェクトは、センター長および副センター長がそれぞれ責任者となり、以下の会議体制にて運営を実施する。

○「センター会議」(構成員:センター長、副センター長、センター研究員、研究顧問、京都国際マンガミュージアム事務局長)センター研究員が各プロジェクトの進捗を報告、センター長は組織全体の責任者として、プロジェクト活動および予算配分、その費用対効果など、全般を把握し統括する。隔月開催を基本とする。

○「研究室会議」(構成員:センター長、センター研究員、学長室学術振興課長、京都国際マンガミュージアム事務局長)センター研究員が各プロジェクトの日常業務を報告、センター長は各プロジェクトの連携調整および予算執行状況等を報告する。学長室学術振興課は、センター活動全体を大学サイドから支援すると同時に予算管理を取り行う。隔週開催を基本とする。

(3) 研究施設・設備等

○京都国際マンガミュージアム(平成18年既設)

- ・建物構造:鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階建
- ・延床面積:5,010㎡(うち研究施設面積:4,825㎡)
- ・使用者数:研究員17名(その他、事務職員9名、派遣職員2名、アルバイト約20名、保守・警備職員2名、清掃員2名)
- ・平均来場者数:約900人/1日
- ・主な研究装置・設備については、項目「17 装置・設備」に記載の通り。

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

研究プロジェクトの計画や目的・意義と関連づけて、当初の目標をどれだけ達成したか記述するとともに、新たに得られた知見などについても具体的に記述してください。

テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

○毎年1回、計5回の国際会議を開催した。場所、日程、全体テーマ、概要は下記の通り。
なお、発表者やタイトルなどについては、別添資料「国際会議チラシ」に記載。

- ① 平成23年度:第3回国際会議、於 韓国・プチョン、漫画映像振興院
9月14日～15日「マンガの社会性-経済主義を超えて-」
～マンガの作品・作家の研究に傾倒しがちな日本と、マンガの市場や流通など経済的側面の研究が目立つ韓国との比較を通じ、とりわけ〈3. 11〉を経験した日本の立場から、いかにマンガと社会を切り結ぶ研究テーマの設定やその国際展開が可能になるかを問うた。
- ② 平成24年度:第4回国際会議、於 神戸大学、京都国際マンガミュージアム
6月1日～3日「〈マンガ・ワールズ〉—サブカルチャー、日本、ジャパノロジー」
～サブカルチャー／ポピュラーカルチャーとしてマンガを論じるうえで、「クールジャパン」という言葉に示されるように、国際的視座を入れることによって強調されてしまう「日本らしさ」が抱える可能性と課題にアプローチ。文化理論としてのマンガ研究の意義を深めた。
- ③ 平成25年度:第5回国際会議、於 インドネシア・バンドン工科大学
6月13日～16日「オルタナティブ・コミック—グラフィック・ダイアリーからマンガスタイルまで」
～マンガとそれに類似する表現や解釈が持つ多様性が、国際的なマンガ受容の広がりとのように関係しているか、実作のワークショップも交えながら、制作者と研究者の双方の立場から情報共有と議論を深めた。特に東南アジアの事例を蓄積することができた。
- ④ 平成26年度:第6回国際会議、於 オーストラリア・ウーロンゴン大学
10月31日～11月2日「マンガ・フューチャーズ-日本内外の制度とファンへのアプローチ」
～性や暴力の表現規制問題をはじめ、マンガの流通や受容をめぐる法的制度とファンの立ち位置をテーマに、近い将来の国際的なマンガ状況がどのような諸問題に直面するか、オーストラリアと日本がおかれた現状とその違いから議論を交わした。
- ⑤ 平成27年度:第7回国際会議、於 京都国際マンガミュージアム
9月25日～27日、「コミコロジー-理論と実践を組み合わせる新《研究》」
～「グローバルなマンガ研究」の深化と拡大に求められる視座と方法について、アーカイブや展覧会、ワークショップなど、京都国際マンガミュージアムが蓄積してきた実績の評価を兼ねる形で、マンガの理論と実践の融合がもたらす可能性と課題を展望した。

- 研究発表者の国籍は、アメリカ、オーストラリア、西欧、東欧、中東、東南アジア各地など計22カ国に渡り、グローバルかつアカデミックにマンガが論じられる最前線の場となった。
- 毎年度開催することで、人的ネットワークが着実に継続発展しており、個人だけでなく大学や関係団体との情報交流の場としてきわめて有効な機会を生み出すことができた。
- 会議終了後毎年1回、計5巻の紀要『国際マンガ研究』を刊行。これは各会議の発表の中から研究論文に値する内容を選出したもので、それぞれ500部を刊行。27年12月現在、第7回会議を基とした第6号を編集中である。国内外の希望者への送付や関連施設への

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

寄贈に加えて、現在第4号までをセンターのホームページ上で pdf ファイルとして公開した（掲載 URL は「13.研究発表の状況」を参照）。執筆者およびタイトルなどについては、別添資料「国際マンガ研究目次一覧」に記載。

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

○研究成果の一般公開については、マンガミュージアム内および海外を含めて計37回の展示会を開催した。

海外のマンガ作品や日本の漫画家の制作現場、日本マンガと海外文化との関わりなど、グローバルなマンガ研究の促進と蓄積が目的であるため、キャプションや図録、リーフレット類は、原則として英訳付きとした。詳細については、別添資料「国際マンガ研究センター主催(または共催)展示一覧」に記載。

○講演会は、毎年3回5年間で計15回の開催計画に対し、平成27年12月現在で計18回の開催結果となった。テーマ別研究会とあわせると計60回の実施、計画の「グローバルなマンガ研究」に資する内容として、予想を超える進捗であった。海外からの招聘ゲストには、フランス、アメリカ、インドネシア、デンマーク、香港などから来日した作家や研究者が出演、現地のマンガ事情などを把握・公開することができた。また、ワークショップは11種の企画を立案、ミュージアム内では、計282回実施し、約 12,000 名が参加した。館外でも計47回、約 1,300 名が参加し、順調に進行した。平成27年12月現在、計画通りその成果をまとめたガイドブックを制作中である。なお、講演およびワークショップの開催報告については、センターのホームページにて写真とともに公開している。詳細については、別添資料「国際マンガ研究センターホームページ内、活動報告事例」に記載。

○マンガ原稿の劣化や紛失の危険を避けるため、微妙な色調整を幾度と重ねて精巧な印刷技術で完成させる複製原画＝「原画´(ダッシュ)」の制作プロジェクトでは、5年間で合計224点を制作(藤井千秋、ちばてつや、花村えい子、平田弘史、ながやす巧、村上もとか、波津彬子等が参加)し、ミュージアム内での展示のほかフランス(平成24年にパリのポンピドゥー・センターで開催された「マンガ・プラネット!」展に出展)やハンガリー、オーストラリア、イギリスと4カ国の海外巡回展を実施したほか、さらなる国際展開の促進を図るため、過去の成果をまとめた作品図録(2,000部、日英併記)および英語版ガイドブック(1,000部)を刊行した。さらに26年には韓国語版ガイドブック(500部)、27年には中国語版ガイドブック(1,000部)を刊行した。日本のマンガが国際的な関心を集めその資料的価値が内外で見直されつつある現在、本研究活動の成果は、将来のマンガ資料の国際展開には欠かせないコンテンツとなっている。その書影および展示会報告については、別添資料「原画´(ダッシュ)関連の出版物」に記載。

○「マンガを用いた異文化交流の手法開発」については、北欧を中心に知的障害者や自閉症の読者向けにやさしく読めるように編集制作された「LLブック」を参考にして、同じ目的の「LLマンガ」制作の研究と開発を進めた結果、そのパイロット版となる刊行本は、特殊教育学会で発表されたほか、平成25年度の国際児童図書評議会障害児図書資料センターの国内推薦図書にエントリーされた。

○研究史料として過去4年間収集してきた「江戸戯画」を活用した成果としては、江戸中期から昭和初期、そして現代のマンガへ至るまでの連続性を見出す研究展示「江戸からたどる大マンガ史展」を実施。複製大量印刷以後という時代区分から、日本のマンガが幕末よりどのような足跡をたどり、発展してきたかを概観できる内容となっている。本展の関連資料には、海外からの関心も高く、国際交流基金の協力により、平成27年の8月から11月に

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

かけてオーストラリア・シドニーでの展覧会が実現した。平成28年以降も、ドイツ国内にて3件の出展が計画されている。

<優れた成果があがった点>

テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

- 毎年開催の国際学術会議は、「グローバルなマンガ研究の確立」にとって必要なテーマの析出と議論の蓄積を目的に計画されていたが、回を重ねるごとに広がるネットワークを活用することで、近年ますます拡大する海外のマンガ研究動向を具体的に把握することができたため、結果的により洗練された有用なプログラムを提示することができた。
- 共通のテーマとして、国際的なマンガ研究にとって必要となる資料、アーカイブのイメージについて議論を深めることができた。日本が収集対象とするマンガは膨大かつ大衆的であるのに対し、海外とりわけ欧米においては、例えば、従来の芸術観に由来する原画尊重の態度に示されるように、収集するマンガの定義や対象がしばしば異なるため、このテーマを集中的に議論できたことは、今後のグローバルなマンガ研究の交流にとって優れた成果となった。

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

- 足かけ5カ年にわたり、マンガミュージアムで各種の展示やワークショップなどを国際展開モデルとして実施・公開してきた過程において、国際交流基金をはじめ国内外の関連機関や研究者からの連携依頼があい次ぎ、それを契機に巡回展やシンポジウムの形でさらに発展型モデルを提示することができた。これにより、本事業の主題である「マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点の形成」に大きく貢献し得た。特に「原画（ダッシュ）」資料と「江戸戯画コレクション」を活用した展示には、海外からのオファーが相次いでおり、以後もいっそうの国際展開が期待できる。
- 成果公開のためのメディア＝拠点として活用してきた京都国際マンガミュージアムは、全体で年間約27万人の来館者があり、そのうち約4万人が海外からという、研究機関としては稀な規模の集客がある施設である。そこで実施される各種イベントの参観者によって、部分的にせよ研究成果が共有され、帰国後にそれぞれの地域や機関に伝播し、例えば展示やワークショップの共催や協力依頼の形で諸成果が循環・展開していることから、国際的なマンガ研究拠点としての認知度は着実に高まった。

<問題点>

テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

- 『国際マンガ研究』編集に際しては、リーダーのほかに、各言語の翻訳者（日本語、英語、韓国語、中国語）、各言語圏のマンガ研究に従事する校閲スタッフ、そして論集のレイアウト・デザインをする担当者による分業体制を整えた。しかし、全体統括する編集者に負担が偏重したり、日本語校閲の点で海外執筆者との調整が難航したりするなど、「グローバルなマンガ研究の最前線」を企図した定期刊行物としての質を担保するには、予想以上に編集体制の細部設計と専門性を備えた人材育成が急務であることが判明した。
- 本支援事業が終了する平成28年度以降は、国際学術会議の毎年開催から隔年開催へ、『国際マンガ研究』の出版からオンライン公開へと、実施手法や媒体を変える予定である

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

が、この間に議論してきたテーマや構築してきたネットワークを継続発展させるための体制作りはまだ整っていない。これに対応する新たな会議体の設置や Web 編集工程の組み直しなど、研究拠点の発展に資する次年度以降の体制改革を着実に進める。

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

- 研究成果公開の手法と位置付けてきた展示や講演、ワークショップについて、開催自体が目的化しているように見えるという問題があった。したがって、その実施から得られる具体的な学術的成果、そこから導かれる新たな研究テーマ、さらにそれをふまえて計画される展示や講演などの論理的繋がりなどを可視化し、あわせて発信するための計画の必要を認識させられた。
- 電子デバイスによる次世代型展示スタイルの模索については、メディア環境の変化が予想以上に目まぐるしく、具体的な研究成果が得られなかった。結果として、海外のデバイス活用との比較研究を進めたほか、マンガだけでなく現代アート領域に視野を広げることで、実験的にマンガ作品をプロジェクションマッピングで表現する(「横山裕一」展)など、メディアアート分野とのコラボレーション上映展示を行うことに限られた。
- ワークショップを担当する指導員にはマンガの作画力と指導力が求められるが、これを両立できる人材は限られる。さらに近年増加する海外需要への対応には、語学力も付加されるため、グローバルな専門人材の育成が急務となっている。そのためのプログラムや教材開発を今年度中にまとめるが、その実践については次年度以降の課題である。

<評価体制>

(研究プロジェクトの目標等に照らした自己評価の実施や、その結果を研究費等の資源の配分へ反映させるためのルールの適切な設定、また、本プロジェクトに係る費用対効果(かけた費用に見合う効果が見られるか)について、どのように分析しているか。また、それらについて、外部(第三者)による評価を受ける体制ができていくか等について記述してください。)

テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」及び

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」共通

- 日常的な活動の進捗報告、それをふまえたプロジェクト実施の分析や適正な予算配分の調整については、隔週開催を基本とする「研究室会議」(構成員:センター長、センター研究員、学長室学術振興課長、京都国際マンガミュージアム事務局長)にて実施。その際、各研究員が報告書(週報)を提出するとともに、ローテーションで議事録を作成し、自己評価のためのエビデンスを蓄積している。
- プロジェクトの目標達成度および費用対効果の評価・検証については、隔月開催の「センター会議」(構成員:センター長、副センター長、センター研究員、研究顧問、京都国際マンガミュージアム事務局長)にて実施。その際、センター研究員が報告書と展示スケジュールをはじめとする二ヶ月ごとのプロジェクト実施計画資料を提示するとともに、ローテーションで議事録を作成し、外部評価のためのエビデンスを蓄積している。
- 最終年度となる平成27年度の国際学術会議の冒頭において、一般公開型の外部評価を目的としたパネルセッション「研究施設としての京都国際マンガミュージアム:IMRC(京都精華大学国際マンガ研究センター)活動報告」を実施した。国際的かつ先端的なマンガ研究に求められるテーマや方法、それを推進するための組織や施設、そこで集積すべき資料群や専門人材の育成方法など、足かけ5カ年の活動実績を報告し、それに対する評価を

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

受けた。出席者は、大学の教員や学生のみならず、関連機関や施設の実務担当者、評論家、記者、市井のマンガファンなど、約50名。その際の質疑応答を含め、結果については項目を整理したうえで、国際マンガ研究センターのホームページにて公表する。

<研究期間終了後の展望>

(本プロジェクト終了後における研究の継続の有無、有の場合は今後の研究方針、無の場合は当該研究施設・装置・設備の活用方針を記述してください。)

テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

- 平成27年度以降も、過去7回に渡る本学術会議開催によって構築された研究者間ネットワークを基盤に、Call for Paper 方式による国際学術会議を京都国際マンガミュージアムで継続的に開催する。これにより、各国・地域へのネットワークの拡大と、名実ともに国際的かつ先端的研究拠点としての国際マンガ研究センターの立場のさらなる充実を図る。
- 『国際マンガ研究』については、オンラインによる発信を中心とした査読媒体として国際学術会議で形成された研究者ネットワークを軸に投稿を募り、平成28年度以降も継続する。また、既刊分については、書籍媒体・オンラインでのデータ形式の両面で国際的な参照を維持し、グローバルなマンガ研究の促進に資する。
- 現状のホームページによる発信は日本語が基調であり、英訳が追いついていない状況にある。次年度以降、英訳対応はもとより、テキスト・画像のレイアウトも含めて、海外からも視聴しやすい環境整備の発展に取り組む計画である。

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

- グローバルなマンガ研究を企図した展示を続ける過程で、米国コロラド大学とタコマ美術館より、日本のマンガ史をテーマとした展示協力依頼があり、改めて比較文化論の基盤になる日本マンガの歴史を通覧する研究展示の需要を確認した。そこで、当初計画の「国際言語としてのマンガ」の要素をマンガ史と組み合わせる形で、「江戸からたどる大マンガ史展」を平成27年11月から開催したが、今後も、さらに幕末から明治の戯画や風刺画などから成る「江戸戯画コレクション」を体系的に収集し、「大マンガ史展」を補強した海外巡回展を見据え、展示内容や手法の研究を継続する。
- 「マンガの収蔵・展示施設の国際比較」については、フランス、韓国、ベルギーなど、これまで調査してきた海外の施設に加え、近年増加傾向にある国内の関連施設も視野に入れ、これ以後も比較文化論やミュージアム論の先端研究をリードする。
- 平成27年度末に、ワークショップの研究成果と実施マニュアルを兼ねたガイドブックを刊行したが、近年の海外におけるマンガワークショップ需要の高まりを考慮し、平成28年度以降は海外普及版の作成に着手する計画である。あわせて、日本語のガイドブックを活用した、専門人材の育成プログラムと実践モデルの開発に向けた研究に取り組む。

<研究成果の副次的効果>

(研究成果の活用状況又は今後の活用計画(実用化・企業化の見通しや、特許の申請があればその申請状況・取得状況等)について、記述してください。)

テーマ1:「グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の戦略的開催」

- 国際会議の蓄積と紀要の定期刊行によって得られた知見や人脈から、派生的な研究会が複数企画・開催され、結果的により密接なネットワーク構築につながっている。また、こうし

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

たネットワークは、オーストラリアで開催された第6回国際学術会議をきっかけとして誘致された「EDO GIGA」展(平成27年8月～11月 於シドニー国際交流基金ギャラリー)のように、新たなマンガに関わる展示企画につながった。

- 平成24年度に公表を計画していた「国際マンガ研究関連リスト」については、文化庁メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業の一つ「マンガ・アニメーション研究マッピングプロジェクト」にて、センター長と副センター長が監修を務め、国際会議実施で得たネットワークに基づく「マンガ研究者・評論家リスト」として日英併記で作成され、公開された。

テーマ2:「マンガミュージアムを活用した成果公開およびその成果の国際展開研究」

- 海外の作家や研究者を招いたイベントを継続し、人脈だけでなく関連の書籍現物や情報が集約されることで、海外マンガに接触できる場所としてのマンガミュージアムの認知度も向上した。その副次的効果として、海外マンガの邦訳版ランキング「ガイマン賞」を、北九州市漫画ミュージアム、明治大学米沢嘉博記念図書館と共に、平成25年度より開催している。
- 海外向けワークショップを継続する中で、国際交流基金、大学の交換留学プログラム、JTB グローバル・マーケティングなど、外部からの連携や業務の依頼が着実に増加しており、本支援事業終了後の自立的事業展開に必要となるスキルとノウハウが蓄積できた。
- マンガミュージアムでの展覧会制作・公開を重ねた副次的成果として、文化庁メディア芸術祭イタリア・ルッカ展(平成26年)をはじめ、複数のマンガ展示の企画制作を依頼されるなど、当センターによるマンガ展が一定のスタンダードとして評価されるレベルになったことで、この分野におけるシンクタンクとしての役割・機能としての社会的認知が飛躍的に向上した。

テーマ1、テーマ2共通

- 文化庁「メディア芸術コンソーシアム構築事業(平成22年度～平成26年度)」に、国内のマンガ領域研究拠点として、京都精華大学国際マンガ研究センターおよび京都国際マンガミュージアムからセンター長、副センター長、センター研究員が参画、当該コンソーシアムの構築に向けたアドバイザーや個別プロジェクトの実務者を複数担当したが、その基盤はいずれも本支援事業で培った手法や開発モデルによるものである。また、同じ文化庁にて平成27年度より新たに開始された「メディア芸術連携促進事業」でも、センターが申請者を務めるマンガの資料収集と人材育成に関する二本のプロジェクトが採択された。
- 平成26年度に設立された「MANGA マンガ・アニメ・ゲームに関する議員連盟」が開催する「MANGA ナショナル・センター構想に関する有識者会議」の全4回にセンター長が出席し、この5カ年の事業実績をふまえ、マンガ研究センターおよびマンガミュージアムの学術的・社会的役割や国際交流拠点としての可能性・必要性について説明した。さらに、平成27年12月18日に当議連がとりまとめた緊急動議にて、この領域に関する国際的な中核施設の必要性が主張されているが、その先行事例として京都精華大学と京都国際マンガミュージアムの名称が明記されるなど、「マンガに関する国際的かつ先端的な研究拠点の形成」を目的とした本支援事業の成果は社会的評価を得たレベルであると確信している。

12 キーワード(研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載して下さい。)

- | | | |
|---------------------|-------------------------|-------------------|
| (1) <u>マンガ研究</u> | (2) <u>比較文化論</u> | (3) <u>メディア論</u> |
| (4) <u>ミュージアム研究</u> | (5) <u>現代文化論</u> | (6) <u>美学・美術史</u> |
| (7) <u>アーカイブズ研究</u> | (8) <u>研究成果公開モデルの開発</u> | |

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1: 吉村和真、「マンガの《現在》につながる道:マンガ・リテラシー形成と変容」、『立命館言語文化研究』第24巻2号、査読無、2013年、33頁～48頁。
- 2: 倉持佳代子、吉村和真、「漫画家・やなせたかしの履歴書」、『ユリイカ増刊号』、査読無、青土社、2013年、226頁～234頁。
- 3: 小川剛、久保直子、伊藤遊、*「文化施設で〈マンガワークショップ〉をするということ—京都国際マンガミュージアムにおける実践報告から—」、『京都精華大学紀要』第42号、査読無、京都精華大学、2013年、89頁～107頁。
- 4: ジャクリーヌ・ベルント、2012_“Facing the Nuclear Issue in a »Mangaesque« Way: Revisiting Barefoot Gen after 3.11,” *Cinergie* (Italian online journal on cinema and related media), <http://www.cinergie.it/?p=1840> [in English; peer-reviewed]. 査読有。
- 5: 小川剛、*「マンガ教育の国際化に向けて—海外版ワークショップ〈マンガの描き方教室〉の実施報告—」、『京都精華大学紀要』第41号、査読無、京都精華大学、2012年、85頁～110頁。
- 6: 吉村和真、「鉄腕アトム」に込められた手塚治虫の思想—〈宇宙人〉を迎えるために—、『慶應義塾大学アート・センター Booklet20』、査読無、2012年、66頁～83頁。
- 7: 伊藤遊、村田麻里子、山中千恵、谷川竜一「広島市まんが図書館における来館者調査—マンガを「図書館」で扱うとはどういうことなのか」、『京都精華大学紀要』第41号、査読無、京都精華大学、2012年、111頁～127頁。
- 8: 猪俣紀子、伊藤遊、山中千恵、吉村和真、「マンガを誰が、何のために集めるのか—フランスの〈マンガミュージアム〉CIBDI の事例から」、『京都精華大学紀要』第39号、査読有、京都精華大学、2011年、211頁～224頁。
- 9: 山中千恵、村田麻里子、伊藤遊、谷川竜一、*「韓国漫画映像振興院における来館者調査—来館者の物理的・社会文化的・個人的コンテクストをめぐって—」、『人間学研究』第13号、査読無、中部人間学会、2015年、47頁～64頁。
- 10: 伊藤遊、*「ポピュラー文化ミュージアムの困難と可能性」、『歴博』第188号、査読無、国立歴史民俗博物館、2015年、28頁～29頁。
- 11: 村田麻里子、オレリアン・パスキエ、山中千恵、伊藤遊、「アングレーム国際 BD フェスティバル韓国漫画展「枯れない花」にみる場と展示の〈政治〉」、『関西大学社会学部紀要』第46巻第1号、査読無、関西大学社会学部、2014年、57頁～81頁。

<図 書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1: 吉村和真、「手塚治虫—逆風が育んだ「マンガの神様」」、『ひとびとの精神史 第4巻 東

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

- 京オリンピック 1960年代』所収、岩波書店、2015年、95頁～120頁。
- 2: 都留泰作、『〈面白さ〉の研究 世界観エンタメはなぜブームを生むのか』、角川書店、2015年、304頁。
- 3: 京都精華大学 SEIKA マンガ教育研究プロ編、竹宮恵子他著、『マンガで読み解くマンガ教育』、阿吽社、2014年、254頁。
- 4: ヤマダトモコ、芳賀直子、図書の家、岩下朋世、倉持佳代子、『バレエ・マンガ—永遠なる美しさ』、太田出版、2013年、144頁。
- 5: 岩下朋世、『少女マンガの表現機構—ひらかれたマンガ表現史と「手塚治虫」』、NTT出版、2013年、330頁。
- 6: 吉村和真、福間良明、山口誠『複数の「ヒロシマ」—記憶の戦後史とメディアの力学』、青弓社、2012年、394頁。
- 7: 竹宮恵子、倉持佳代子、岩下朋世、*『少女マンガの世界 原画' (ダッシュ) 10年の軌跡』、京都精華大学国際マンガ研究センター、2011年、88頁。
- 8: ジャクリーヌ・ベルント編・著、*『美術フォーラム21』24号、特集「漫画とマンガ、そして芸術」、醍醐書房、2011年、117頁。
- 9: 伊藤遊、谷川竜一、村田麻里子、山中千恵、*『マンガミュージアムへ行こう』岩波書店、2014年、215頁。

<学会発表>

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1: 吉村和真、おざわゆき、こうの史代、西島大介、ヤマダトモコ、日本マンガ学会第15回大会シンポジウム「「はだしのゲン」の多面性」、第2部「マンガ家が読む「ゲン」」、広島市アステールプラザ、2015年6月28日。
- 2: 伊藤遊、山田奨治、谷川健司、高馬京子、白石さや、日本マンガ学会第15回大会「マンガ・アニメと〈戦い〉-社会・文化とのインタフェースを考える」、研究発表(ラウンドテーブル)、アステールプラザ、2015年6月27日。
- 3: 吉村和真、呉智英、ヤマダトモコ、村上もとか、安彦良和、日本マンガ学会第12回大会シンポジウム「マンガとアジア」、第2部「いま、アジアを描く」、北九州市漫画ミュージアム、2013年7月7日。
- 4: ジャクリーヌ・ベルント、2013/01/23-25 International Workshop *Women's Manga in Asia: Globalizing Different Cultures and Identities*; Women's Manga Research Project (JSPS KAKENHI Grant Number 24320047), The Department of Japanese Studies at the University of Sydney + The Art Gallery of New South Wales,
paper "Invisibly Asian? On Representation and Affect in Women's Manga"
会場: シドニー大学日本学科・ニューサウスウェールズ美術館での国際会議「アジアにおける女性マンガ」、司会、研究報告「不可視のアジア? 女性マンガにおける表象と情動をめぐって」
- 5: ジャクリーヌ・ベルント、2012/11/30-12/02 *Mechademia Conference on Manga, Anime and Media Theory from Japan: "World Renewal: Counterfactual Histories, Parallel Universes and Possible Worlds"*; Panel organizer, paper on "Subversion impossible? Rediscovering

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

- manga's critical potential after 3-11," Seoul, Dongguk University,
ソウル東国大学校、国際学術会議「日本発のアニメ・マンガ・メディア論をめぐる第3回メカ
デミア会議」、パネル企画・司会、研究報告「転覆不可能？3.11以後再発見されるマンガの
批評性をめぐって」
- 6: 倉持佳代子、マンガ・ライブラリー10周年記念シンポジウム・キーノートスピーチ「原画'
(ダッシュ)を通じた日本の少女マンガ史(英語発表)」、オーストラリア・モナシュ大学・日本
研究センター、2012年11月23日。
- 7: ジャクリーヌ・ベルント、2012/11/12 International Conference "Teaching Japanese Popular
Culture"; National University of Singapore, Dept. of Japanese Studies, keynote teaching
demonstration "Reading Manga"
<http://www.fas.nus.edu.sg/jps/research/jps2012.htm>
<http://wiki.nus.edu.sg/display/TJPCC/Jacqueline+B Berndt>
シンガポール国立大学日本学科、国際学術会議「日本ポピュラー文化を教える」、キー
ノート・模擬講義「マンガの読み方」
- 8: 吉村和真、都留泰作、藤澤和子、岩澤亜希、日本特殊教育学会第50回大会 自主シン
ポジウム、*「LL(やさしく読める)マンガの制作」、つくば国際会議場、2012年9月30日。
- 9: ジャクリーヌ・ベルント、2012/06/28-30 International Conference "Interkulturelle
Schauplätze in der Großstadt/Intercultural Sites in the Global City", Bonn University,
Comparative Literature/Culture Research; paper "Sichtbarmachen: Postnukleare
Landschaften im Manga" (ドイツ語)
ボン大学比較文学文化研究所、国際シンポジウム「大都会における異文化交流の場」、
研究報告*「可視化するマンガ:都市の核風景論」
- 10: ジャクリーヌ・ベルント、2012/06/21 17th International Conference on Cultural Economics
in Kyoto (ACEI 2012)
http://www.jace.gr.jp/ACEI2012/social_program/visit_to_the_manga_museum.html
lecture on "Locally Global: The Kyoto International Manga Museum as a Mirror of
Japanese Comics Culture"
第17回国際文化経済学会、特別講演(京都国際マンガミュージアムにて)
*「ローカルな形でのグローバル性:日本マンガ文化の鏡像としての京都国際マンガミュー
ジウム」
- 11: ジャクリーヌ・ベルント、2012/05/17-19 International Symposium "Asian American
Graphic Narratives", Hong Kong University
(<http://www.amstudy.hku.hk/news/graphic2012/index.html>)
paper "The media-cultural element: Two graphic novels by Japanese American authors
read in Japan"
香港大学での国際シンポジウム「アジア系アメリカ人によるコミック物語」
「メディア文化という要素:日本(語)で読む日系アメリカ人作家による2つのグラフィック・
ノベル」
- 12: ジャクリーヌ・ベルント、2012/03/24 International Conference・国際会議「Women and
Manga: Connecting With Cultures Beyond Japan/女性とマンガ:日本を越え、つながりゆく
文化」; 科学研究費 Women's Manga Research Project (JSPS KAKENHI Grant Number

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

24320047), ベトナム日本文化交流センター;会場:ハノイ女性博物館

The Japan Foundation The Japan Foundation Center for Cultural Exchange in Vietnam, asianbeat of Fukuoka Prefectural Government, Shojo Manga Power Project;

paper “Gendering Comics: Possibilities and Limitations of “Women’s Manga”・研究報告「ジェンダー化されるコミック:『女性マンガ』の可能性と限界」

13: 吉村和真、金水敏、ヤマダトモコ、こうの史代、日本マンガ学会第11回大会 シンポジウム「マンガと地域(ローカリティ)」、第2部「全国に広がる地方/地元マンガ」、かるぽーと高知、2011年7月3日。

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

※ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

- 国際マンガ研究センターホームページでは、これまでの研究展示、公開研究会・シンポジウムなどの内容・成果を <http://imrc.jp> 上で報告。国際会議の研究論文(日英)については、無料でPDFを一般公開している。また、一部の研究発表はU-streamによるリアルタイム映像配信を行っている。この映像以外にも試聴用に編集した記録映像やオリジナル映像などが「YouTube」にアーカイブされている。(参照: www.yutubecom.com.)
- Berndt, J., eds, 2011, *Intercultural Crossovers, Transcultural Flows: Manga/Comics (Global Manga Studies, Vol.2)*, Kyoto Seika University International Manga Research Center. <http://imrc.jp/lecture/2010/11/2.html>
- ジャクリーヌ・ベルント編、2012、『日韓漫画研究(国際マンガ研究 3号)』、京都精華大学国際マンガ研究センター <http://imrc.jp/lecture/2011/10/3.html>
- ジャクリーヌ・ベルント編、2013、『日本マンガと「日本」——海外の諸コミックス文化を下敷きに(国際マンガ研究 4号)』、京都精華大学国際マンガ研究センター <http://imrc.jp/lecture/2012/06/4.html>

<これから実施する予定のもの>

国際マンガ研究センターホームページ(<http://imrc.jp>) 上での情報更新

国際会議研究論文(日英)の無料PD 公開の継続

その他の研究発表 U-stream による映像配信の継続(www.yutubecom.com.)

国際マンガ研究 <http://imrc.jp/lecture/html> のアップデート

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

○新聞記事

吉村和真、伊藤遊、表智之、倉持佳代子、猪俣紀子、『朝日新聞』夕刊、「みんなのマンガ学」連載(毎週)、2008年4月～2013年3月。

吉村和真、伊藤遊、猪俣紀子、倉持佳代子、『朝日新聞』夕刊、「いまどきマンガ塾」連載(毎月)、2013年4月～現在。

吉村和真、伊藤遊、猪俣紀子、倉持佳代子、清水勲、『中日新聞』朝刊、「中部マンガ研究所」連載、2012年4月～～2015年3月。

○雑誌記事

吉村和真、伊藤遊、表智之、倉持佳代子、猪俣紀子、ジェシカ・杉本・バウエンス、『GALAC』、「マンガ」、2009年4月～2013年3月。

倉持佳代子、『ダ・ヴィンチ』、「出版ニュースクリップ コミック」、2012年5月～現在。

吉村和真、伊藤遊、倉持佳代子、雑賀忠宏

『現代用語の基礎知識』、「マンガ」、自由国民社、2011年～現在。

○作品解説

伊藤遊、猪俣紀子、倉持佳代子、「池田理代子主要作品解説」、『池田理代子の世界』、朝日新聞出版、2012年、179頁～210頁。

吉村和真、伊藤遊、岩下朋世、倉持佳代子、「諸星大二郎作品解説」、『文藝別冊 諸星大二郎』、河出書房新社、2012年、203頁～233頁。

伊藤遊、表智之、猪俣紀子、岩下朋世、「高橋葉介作品解説」、『文藝別冊 高橋葉介』、河出書房新社、2013年、195頁～225頁。

伊藤遊、岩下朋世、倉持佳代子、『LOVE and... わたしのマーガレット展公式図録』わたしのマーガレット展プロジェクト、2014年。

○インタビュー

杉本ジェシカ、猪俣紀子、Kawaii!: Japan's Culture of Cute, Kyoto International Manga Museum、Prestel(ドイツ)、2013年、24頁～27頁。

○シンポジウム再録

諸星大二郎、呉智英、伊藤遊(構成)、「諸星大二郎の神話世界」、『文藝別冊 諸星大二郎』、河出書房新社、2012年、126頁～137頁。

○その他企業との連携実績

展覧会企画協力: 飛鳥新社、講談社、集英社、小学館、徳間書店、早川書房、
パイ・インターナショナル、マガジンハウス、ワニマガジン社等。

ワークショップ連動企画: 株式会社セルシス、株式会社 TOO、株式会社ワコム等。

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

—該当なし—

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

—該当なし—

<「中間評価時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

○国際会議等で取り上げているテーマは興味深く、妥当性はあるが、マンガ研究全体の中でなぜそれらのテーマが選択されているのかがわかりにくい。研究の具体的目標と意義を設定した上で、それぞれの研究成果を位置づけることが必要ではないか。

○漫画という新しい分野の特殊性から、展示やイベント等の開催が重要であることは理解できるが、それにとどまらず、学術的な研究成果をより強く意識した事業展開を期待したい。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

○中間評価において指摘された、各種活動(展示・イベント等)とマンガに関する学術研究上の深化という目的との関わりについては、最終年度となる平成27年度の第7回国際学術会議「コミコロジー —理論と実践を組み合わせる新《研究》」の中核テーマに設定し、成果公開と兼ねて広く議論を喚起した。アーカイビング・展示・ワークショップなど、従来の論文形式での成果発表とは異なる活動の学術的意義について、それぞれパネルセッションを設け、ポスト・メディア時代における〈マンガ〉という対象自体の脱領域性を扱うものとして、アニメや文学、映像といった領域との関わりあいを巡る理論的な議論を展開した。

○こうした問題設定のもと、マンガミュージアムを中心とする各種活動、アメリカでのコミックス・ワークショップや欧州・日本でのアーカイビングの状況、日本の現代芸術を視野に入れた展覧会の現況などをとりあげた、第7回会議の議論から改めて浮き彫りになったのは、〈マンガ〉という新しい対象と向き合う試行錯誤自体が、従来のアカデミックな制度の歴史やあり方を問い直す契機となり得るということ、そして、学術的成果発信のメディアとしての展覧会やワークショップ、アーカイブの存在意義であった。

○伝統的な学術的成果発信のメディアとしての論文と、その広報機会としての展示等という関係ではなく、会議中では「プラクティカル・スカラーシップ」という言葉で表現された、それ自体が学術的実践でもあるような展覧会・ワークショップ・アーカイビングのあり方こそが、〈マンガ〉という現在進行形のメディアには求められるという意見が明確に示された。それはまた、従来のような専門の研究者のみならず、一般の人々をも参加者として巻き込んでいくような、対話的かつオープンな知の構築の仕方であるということも指摘された。

○上記の内容を含め、第7回国際学術会議で得られた知見は、『国際マンガ研究』第6号としてWEB上で公開予定だが、留意事項として指摘された点は、〈マンガ〉という名称を冠する研究領域にとって本質的かつ恒常的なテーマであると認識している。したがって、次年度以降も、国際マンガ研究センターでは不断に問い続けていくことを付言しておきたい。

法人番号	261015
プロジェクト番号	S1191012

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(受託事業収入等)	
平成23年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	33,969	25,115	13,998	0	0	0	-5,144 データベース作成受託事業
平成24年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	36,253	21,298	17,962	0	0	0	-3,007 海外ワークショップ受託事業
平成25年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	32,313	18,751	13,765	0	0	0	-203 資料貸出等事務費収入
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	35,432	18,923	16,512	0	0	0	-3 資料貸出等事務費収入
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	33,860	17,710	16,250	0	0	0	-100 資料貸出等事務費収入
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	171,827	101,797	78,487	0	0	0	-8,457
総計	171,827	101,797	78,487	0	0	0	-8,457	

17 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）
 《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
京都国際 マンガミュージアム	平成 18年度	4,825㎡	15室	52名	780,864	348,736	文科省

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
研究センターネットワーク システム	H18年度	基幹スイッチCatalyst 3750-24一式	948点	24h365日	22,091	11,045	文科省
(研究設備)							
学術研究資料保存設備	H18年度	据置棚2連6連一式	176点	8h約300日	35,977	23,985	文科省
画像情報展示用設備A	H18年度	画像ディスプレイA-1	126点	8h約300日	32,696	19,157	文科省
立体資料展示用設備B	H18年度	展示台 I-B-1	1,337点	8h約300日	32,602	21,081	文科省
(情報処理関係設備)							
研究センター基盤システム	H18年度	検索及びIndex生成 サーバDL380G4一式	299点	24h365日	28,631	13,404	文科省

18 研究費の支出状況（千円）

年 度	平成 23 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	3,833	研究展示・保存用資材費等	2,300
光熱水費	0	—	—
通信運搬費	668	出版物発送費	410
印刷製本費	940	学術研究出版物印刷費	840
旅費交通費	8,821	学術会議参加渡航費	7,500
報酬・委託料	6,520	展示パネル制作費等	4,560
(貸借料・その他)	1,952	原画借用費、資料購入費	1,845
計	22,734		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	441	アルバイト料	441
教育研究経費支出	0		
計	441		
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	0		
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号

261015

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,673	研究展示・保存用資材費等	1,600
光 熱 水 費	0	—	—
通 信 運 搬 費	1,708	出版物発送費	1,020
印 刷 製 本 費	636	学術研究出版物印刷費	570
旅 費 交 通 費	4,156	学術会議参加費	3,530
報 酬 ・ 委 託 料	19,353	展示パネル制作費等	13,550
(貸借料・その他)	2,214	原画借用費、資料購入費	2,050
計	30,740		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,456	アルバイト料	1,456
教育研究経費支出	0		
計	1,456		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	1,900	研究標本購入費	1,900
計	1,900		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,890	研究展示・保存用資材費等	1,890
光 熱 水 費	0	—	—
通 信 運 搬 費	667	出版物発送費	571
印 刷 製 本 費	1,674	学術研究出版物印刷費	1,674
旅 費 交 通 費	3,451	学術会議参加費	1,805
報 酬 ・ 委 託 料	16,936	展示パネル制作費等	9,160
(貸借料・その他)	526	原画借用費	468
計	25,144		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	2,468	アルバイト料	2,025
教育研究経費支出	0		
計	2,468		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	4,900	研究標本購入費	4,900
計	4,900		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号

261015

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,722	研究展示・保存用資材費等	2,534
光 熱 水 費	0	—	—
通 信 運 搬 費	844	出版物発送費	844
印 刷 製 本 費	1,154	学術研究出版物印刷費	1,154
旅 費 交 通 費	3,343	学術会議参加費	1,632
報 酬 ・ 委 託 料	20,215	展示パネル制作費等	8,215
(貸借料・その他)	1,093	原画借用費、資料購入費	1,013
計	29,371		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,131	アルバイト料	947
教育研究経費支出	0		
計	1,131		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	4,930	研究標本購入費	4,930
計	4,930		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,800	研究展示・保存用資材費等	2,800
光 熱 水 費	0	—	—
通 信 運 搬 費	400	出版物発送費	400
印 刷 製 本 費	1,900	学術研究出版物印刷費	1,900
旅 費 交 通 費	2,800	学術会議参加費	2,800
報 酬 ・ 委 託 料	18,900	展示パネル制作費等	18,900
(貸借料・その他)	700	原画借用費、資料購入費	700
計	27,500		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,200	アルバイト料	756
教育研究経費支出	0		
計	1,200		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	3,900	研究標本購入費	3,900
計	3,900		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

— 別添資料 —

- | | | |
|---|----------------------|--------|
| ① | 第3回～第7回国際学術会議チラシより抜粋 | 1 ページ |
| ② | 『国際マンガ研究』1巻～5巻目次 | 5 ページ |
| ③ | 国際マンガ研究センター主催展示一覧 | 2 ページ |
| ④ | 活動報告事項例ホームページより抜粋 | 14 ページ |
| ⑤ | マンガ作画ワークショップ「ガイドブック」 | 4 ページ |
| ⑥ | 原画ダッシュ出版物・展示紹介 | 3 ページ |
| | 原画ダッシュ目録一覧 | 8 ページ |
| ⑦ | メディア掲載リスト・記事一覧 | 16 ページ |

第3回～第7回国際学術会議チラシより抜粋



<別添資料> 第6回 国際学術会議チラシ



<別添資料> 第7回 国際学術会議チラシ

『国際マンガ研究』 1巻～5巻目次

国際会議論集目次一覧

国際マンガ研究1『マンガにおけるオルタナティブの多面性』

■ 目次 ■

序文——文化構造的コミックス研究をめざして……ジャクリンヌ・ベルント	1
第1部 マンガ／コミックス研究の検討	15
1 グローバル化時代における、国際的マンガ研究への挑戦 ……テイエリ・クルンステン／野田謙介 訳	17
2 コミックスの文化的認知と学術研究の関係について ——基調講演へのコメントをかえて……森田直子	29
3 絵・言葉・コマ——マンガとBD、コミックスの共通性と差異について ……夏目房之介	39
4 「マンガ」という自明性——カラバコス島に棲む日本のマンガ言説 ……小田切博	53
5 SF研究からみたマンガ／コミックス研究 ——ジャンル、トランスメディア、トランスナショナル……鈴木繁	69
6 グローバルな規模でコミックスを研究すること ……バヌカル・ルフェーブル／杉本輝吾 訳	85
第2部 マンガ／コミックスにおける作者と読者	97
7 「マンガを描くこと」をマンガ家たちはいかに描いたのか ——マンガ生産行為の真正性に関する言説としての「マンガ家マンガ」 ……椎賀忠宏	99
8 美学のフェールブック——コミックスの社会的正確性をめぐって ……トーマス・ベッカー／椎賀忠宏 訳	109
9 同人誌研究に見出せるマンガ研究の可能性……ネラ・ノッパ	125
10 反映／投影論から生産的フォーラムとしてのジャンルへ ——ヤオイ考察からの提言……清口影子	141
11 「男」が「少女マンガ」を読むということ……伊藤公明	165
12 フランスの少女向け媒体におけるBD……猪俣紀子	173
13 理想的な現代女性を描く——李慧珍と『十三點半鐘』 ……黄少儀 (ウエイチ・ウキツ) / 吉原ゆかり 訳	185
第3部 歴史的記憶のメディアとしてのマンガ／コミックス	195
14 シンガポールとマレーシアのコミック ……チェンジュ・リム / 中田直太郎 訳	197
15 戦場の彼方に位置づく戦争コミック ——アンネ・フランスのコミックにおけるトランスナショナルな養育をめぐって ……チーヌ・リベンヌ / 竹内真帆 訳	213
16 「はだしのゲン」と「原爆文学」 ——原爆体験の再記憶化をめぐって……川口隆行	229
17 情動はいかに作動するか ——「はだしのゲン」における想像のポリティクス……加治原健司	241
18 マンガ爆弾——「はだしのゲン」の行間 ……トマス・ラメール / 大畑晴美 訳	259
あとがき——「「はだしのゲン」のリメイク版を海外で刊行する」ことの意味と方法 ……吉村和真	313

国際マンガ研究2 『Intercultural Crossover, Transcultural Flows: Manga/Comics』

Table of Contents

Introduction Jaqueline BERNDT	1
1: Particularities of boys' manga in the early 21st century: How <i>NARUTO</i> differs from <i>DRAGON BALL</i> ITO GO	9
2: Subcultural entrepreneurship, path dependencies and fan reactions: The case of <i>NARUTO</i> in Hungary Zoltan KACSUK	17
3: The <i>NARUTO</i> fan generation in Poland: An attempt at contextualization Radoslaw BOLALEK	33
4: Transcultural Hybridization in Home-Grown German Manga Paul M. MALONE	49
5: On the depiction of love between girls across cultures: comparing the U.S.- American webcomic <i>YU/ME: dream</i> and the yuri manga "Mata-sama ga miteru" Verena MASER	61
6: Gekiga as a site of intercultural exchange: Tatsuini Yoshinori's <i>A Drifting Life</i> Roman ROSENBAUM	73
7: The Eye of the Image: Transcultural characteristics and intermediality in Urasawa Naoki's transcultural narrative <i>20th Century Boys</i> Felix GIESA & Jens MEINRENKEN	93
8: Cool Premedialisation as Symbolic Capital of Innovation: On Intercultural Intermediality between Comics, Literature, Film, Manga, and Anime Thomas BECKER	107
9: Reading (and looking at) <i>Mariko Parade</i> —A methodological suggestion for understanding contemporary graphic narratives Maahveen AHMED	119
Epilogue Steff RICHTER	135

■ 目次 ■

序文—学術的漫画研究をめぐる日韓交流を志して			
序文—第3回国際学術会議「漫画の社会性—経済主義を越えて」			
—後記 漫画研究の多様性とその発展に期待して			
バック・ソクフアン (朴錫煥) / 梁仁貴 訳	11		
第1部 韓国漫画の特性への接近	17		
1 北米コミックス市場から見た日本マンガと韓国マンガ	19		
小田切博			
2 模倣海賊版から考える漫画表現形式の拡散	37		
—韓国純情漫画作家の事例から			
山中千恵			
第2部 漫画と女性：少女・純情・ヤオイ	59		
3 純情漫画の原点としてのオム・ヒジャ	61		
—少女漫画特有の表現との関係から			
キム・ソウオン (金素暎)			
4 純情漫画のいくつかの美学的地形図	77		
ハン・サンジョン (韓尚整) / 朴珍暎 訳			
5 少女マンガを支えた読者共同体のゆくえ	93		
—1990年代の『リぼん』から			
倉持佳代子			
6 「他者」としてのヤオイ	109		
—1990年代における韓国同人文化の監督をめぐる			
キム・ヒョジン (金孝眞)			
7 社会批評との関係から見たグローバルな「腐女子」漫画文化	135		
—その可能性と限界			
ジェシカ・パウエンス=杉本			
第3部 漫画の諸ジャンル	149		
8 韓日の新聞漫画の比較論	151		
—「林巨正」と「窓八武士道」を例に			
イム・ヘジョン (任憲貞)			
9 線から捉えなおす「劇画」	175		
—さいとう・たかをを中心に			
竹内美帆			
10 「学習マンガ」研究序説	201		
—教育・キャラクター・リアリティ			
伊藤遊			
11 韓国のウェブトゥーン	227		
バック・スイン (朴秀眞)			
第4部 「芸術」の名において紙面の彼方へ	243		
12 デジタル社会における融合化が漫画というジャンルに	245		
もたらす代業の研究			
ハン・チャソク (韓昌完) / 梁仁貴 訳			
13 規範芸術としての漫画からみた、韓国漫画展の争点と	259		
実践戦略			
チヨ・ヒユン (趙姫汎) / 山中千恵 訳			
14 「芸術」に挑戦するマンガ	289		
—井上雄彦「最終のマンガ展」を例に			
ジャクリーヌ・ベルント			
日韓近代漫画年表	295		
バック・ジンヒ (朴珍姬) / 竹内美帆 / 鈴木翠			
執筆者プロフィール	307		

■ 目次 ■

序文		
ジャクリーヌ・ベルント	3	
第1部 台湾		
1 台湾の漫画審査制度と日本漫画のアンダーグラウンド化展開 李衣豊	13	
2 台湾漫画家 AKRU との出会い 日本的にみえる表現についての一考察 池田美香	25	
3 台湾の男性同性愛者による BL 漫画の批判的受容 周典芳	41	
第2部 東南アジア		
4 コミックスを「政治化」する「影響」論と「様式」論 インドネシアのコミックス言説について フエリアニ・シホンビンダ／石川優 訳	59	
5 タイコミックスの歴史 多様なマンガ文化の間で形成された表現 トジラカーン・マシマ	85	
6 ベトナムの漫画文化—その過去と現在の概説— グエン・ホン・フック	119	
7 ベトナムの若者文化—漫画を中心に— フラム・ホアン・フン	145	
8 フイリピン・コミックスの“死”について カール・イエアン・ウイ・チェン・チュア クリスティアン・ミシエル・サントス／西原麻里 訳	159	
9 かわいらしさとおぞましき、そして憂鬱のラブリンデ シンガポール・マンガ家 FSC 大城房美	181	
第3部 西欧		
10 フランスとイタリアにおける「日本」と「マンガ」のイメージ マンガ読者／非読者調査の第1次主要結果報告 マルコ・ペリテッリ／小林翔 訳	197	
11 フランスにおけるマンガ研究 猪俣紀子	235	
12 フランスのマンガ市場と腐女子 ジェシカ・バウエンス＝杉本	249	
13 「イペロ・マンガ」 スペインでの主流からニッチとしての女性マンガとガフオタクまで ホゼ＝アンドレス・サンティアゴ・イグлезias／雑賀忠宏 訳	265	
執筆者プロフィール	305	

■ 目次 ■

序文	3
ジャクリーヌ・ベルント	3
1 欧米圏のオルタナティブ・コミックスにおける 自然的作品についての論争	13
市毛史郎	13
2 米国における女性オルタナティブ・コミックス人の展望	39
—— クラフツック・ノベルにおける自伝文学の潮流	39
中垣恒太郎	39
3 「無視」と「隠微な愉しみ」のあいだ	61
—— 「エロマンガ」という領域を論じることの意義	61
永山薫・雑賀忠弘 (対談)	61
4 トゲのある政治漫画	79
—— ポスト3.11の日本のカートゥーン	79
ロナルド・スチュアート	79
5 「漫画」と「連環画」の間	115
—— 張光宇の連環漫画『西遊漫記』について	115
焦凡	115
6 星の瞳に映るオルタナティブ	149
—— 「典型的」少女マンガの再評価をめざして	149
門傳昌章&ルイーゼ・クレーサー／秦美香子 訳	149
7 純情漫画革命	177
—— 雑誌としての『九番目の神話』	177
李信燦	177
8 受容者の見出すオルタナティブ性	199
—— やおい活動における「芸能・オタク」の役割から	199
鈴木翠	199
9 観察者として位置づけられる読者	221
—— 山本ルンパルのマンガにおけるナラティブ・ストラテジー	221
山口恵	221
10 『愛すべき無理難題 マーラー漫画/ベーク』	241
キュレーションのコンセプト	241
雁矢泰紀	241
ニコラス・マーラー「スシとスキ」	255
11 ニコラス・マーラーの作品がほのかす	261
オーストリアにおける「日本」	261
クラウディア・シュミット	261
ニコラス・マーラー「地獄が満席ならば文学者は地上に戻ってくる」	285
感想文集『古典絵画の巨匠たち』をめぐる	293
執筆者プロフィール	307

国際マンガ研究センター主催展示一覧

別添

国際マンガ研究センター主催(または共催)展示一覧

平成23年度(4月1日)～平成27年度(3月31日)

会期	展示会タイトル	開催場所	備考
平成23年	4月29日(金・祝)～6月5日(日)	MM 2F ギャラリー4	
	5月24日(火)～6月19日(日)	MM 1F エントランス	
	5月28日(土)～7月3日(日)	MM 2F ギャラリー1・2	
	8月20日(土)～29日(月)	紀伊國屋画廊	東京新宿紀伊國屋書店4階
	11月26日(土)～翌年1月29日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	9月10日(土)～10月24日(月)	MM 2F ギャラリー4	
	1月5日(木)～2月5日(日)	MM 2F ギャラリー4	
	2月27日(月)～3月4日(日)	フランス・パリ	ポンピドゥー・センター内
	3月3日(土)～5月6日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	3月6日(火)～3月8日(木)	ハンガリー・ブダペスト	ハンガリー現代美術館及び日本文化センター内 協力:国際交流基金
平成24年	5月26日(土)～7月17日(火)	MM 2F ギャラリー6	
	7月26日(木)～8月19日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	8月18日(土)～9月9日(日)	MM 1F エントランス	
	8月25日(土)～9月23日(日)	MM 2F ギャラリー6	
	11月23日(金)～11月26日(月)	オーストラリア・メルボルン	モナシユ大学日本文化センター内 協力:国際交流基金

会 期		展示会タイトル	開催場所	備考
平成 25年	16	3月7日(木)～6月16日(日) スケッチトラベル展	MM 2F ギャラリー6 ほか館内各所	
	17	6月22日(土)～10月22日(火) 原画(ダッシュ)展示シリーズ「凛々しく可愛らしく」	MM 2F ギャラリー4・6	
	18	6月29日(土)～9月29日(日) 諸星大二郎原画展：不熟1970-2012	MM 1F エントランス	
	19	7月13日(土)～9月23日(月・祝) バレエ・マンガ ～永遠なる美しさ～	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	20	10月31日(木)～翌年2月11日(火) 「小野佐世男展 ～モダンガール・南方美人・自転車娘～」	MM 2F ギャラリー4・6	
	21	3月1日(土)～5月18日(日) 「手から手へ展～絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ～」	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	22	3月15日(土)～5月25日(日) 「ヌーベル・バンド・デシネ展 フレンチコミックスでつながるアーティスト」	MM 2F ギャラリー6	
	23	3月23日(日)～6月8日(日) 「Kyoto MaGiC 恋！咲く！マーガレット～ 「マイル/ピッチ」と「君に届け」のフェアッション～」	MM 2F ギャラリー4	
	24	4月28日(月)～5月9日(金) 「竹宮恵子監修 原画」展示シリーズ 凛々しく可愛らしく	文房堂ギャラリー	東京・神田
	25	5月31日(土)～8月31日(日) 「土田世紀全原画展——43年、18,000枚。」	MM 2F ギャラリー1・2・3・6	
平成 26年	26	11月1日(土)～翌年2月1日(日) 「青池保子 華麗なる原画の世界～「エロイカ」から「ファルコ」まで～」	MM 2F ギャラリー4・6	
	27	12月2日(火)～翌年2月8日(日) 「愛すべき無理難題 -マラー-漫画パークー」	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	28	3月7日(土)～5月31日(日) 「横山裕一 <これをネオ壁面と呼ぶ> 集合する名士とけもの」	MM 2F ギャラリー6	
	29	4月25日(土)～7月5日(日) 「知られざる中国<連環画>～これも「マンガ」?～」	MM 2F ギャラリー4	
	30	6月6日(土)～9月6日(日) 「マンガと戦争展 6つの視点と3人の原画から」	MM 2F ギャラリー1・2・3・6	
	31	6月18日(木)～7月14日(火) 「萩尾望都 原画展」	MM 1F エントランス	
	32	6月27日(土)～8月31日(月) 「ミュージアムの怪談 イリス・デ・ムイ展」	MM 館内9箇所	
	33	7月16日(木)～8月4日(火) 「諸星大二郎 原画展 マッドメンの世界」	MM 1F エントランス	
	34	8月13日(木)～11月2日(月) 「EDO GIGA: Comical Woodblock Prints from Japan」	オーストラリア・シドニー	国際交流基金ギャラリー 協力：国際交流基金
	35	10月1日(木)～11月1日(日) 「Shojo Manga: World of Japanese Girls' Comics」	イギリス・ケンダル	Brewery Arts Centre (ブルワリーアートセンター)
平成 27年	36	11月14日(土)～翌年2月7日(日) 「江戸からたどる大マンガ史展～鳥羽絵・ポンチ・漫画～」	MM 2F ギャラリー1・2・3	
	37	11月21日(土)～翌年2月9日(火) 「竹宮恵子監修 原画」展示シリーズ 青年マンガの世界」	MM 2F ギャラリー4・6	

活動報告事例ホームページより抜粋

講演会・研究会報告

LECTURE MEETING AND
SOCIETY REPORT

● 講演会・研究会報告

LECTURES AND RESEARCH
MEETING REPORTS

- ▶ 2016年
- ▶ 2015年
- ▶ 2014年
- ▶ 2013年
- ▶ 2012年
- ▶ 2011年
- ▶ 2010年
- ▶ 2009年
- ▶ 2008年
- ▶ 2007年

● カテゴリトップへ戻る
BACK TO CATEGORY TOP

講演会・研究会報告

LECTURE MEETING AND SOCIETY REPORT



ANIMEのアイデンティティ：表現・物語・メディア

Anime Identity: Style, Narrative, Medium

開催日時 2015.4.25 (SAT)

会場 京都国際マンガミュージアム 多目的AVホール

主催：京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター 協力：科研費挑戦的萌芽研究「デジタル時代における〈声〉の様態と経験に関する領域横断的研究」 担当：ジャクリヌ・ベルント / 應矢泰紀

講演会・研究会要旨

ABOUT THIS LECTURE MEETING

講演会趣旨

これまでの研究で対象化されてきた「アニメーション」ではなく、「アニメ」と設定することでみえてくることを期待する研究プログラム。特に物語の構造や、独特な動き、声などの表現手法の具体的分析から、メディア理論や哲学、心理学に基づいた研究発表を国内外の研究者7名が行った。他にも「アニメ」表現の分析を行う対談も催した。

詳しい内容に関しては以下のとおり。

第1部 研究発表（日本語への逐次通訳あり）

司会：ジャクリヌ・ベルント（京都精華大学マンガ研究科）

コメンテータ：顔暁暉（シンガポール国立大学日本学科）

- 「Anime Aesthetics: A System of Conventionalized Performative Elements
[アニメという表現：形式上の《約束》とそのパフォーマンスによるシステムをめぐる]」
Stevie Suan / スティービー・スアン（京都精華大学マンガ研究科）
- 「Playful Limits: Rethinking Differences between Anime and Games through Gurren Lagann
[戯れの限界：『天元突破グレンラガン』を例に考察するアニメとゲームの相違点]」
Selen Çalik / セレン・チャルク（京都精華大学マンガ研究科）
- 「Animetic Potentiality and the Boundaries of the Narrative
: An Attempt at Involving Bergson, Simondon and Deleuze in Anime Studies
[物語の限界から見たアニメの可能性：アニメ研究に活かすベルクソン、シモンドン、ドゥルーズ]」
Alba G. Torrents / アルバ・トレンツ（バルセロナ自治大学/国際交流基金研究生）

通訳：杉本・ジェシカ・バウンエンス（龍谷大学国際文化学科）

第2部 対談（英語への逐次通訳あり）

「《アニメ》とは？ 可動性 [モビリティ]、メディア、可塑性」

司会：ジャクリヌ・ベルント（京都精華大学マンガ研究科）

Alexander Zahlten / アレクサンダー・ツァールテン（ハーバード大学東アジア学科）

Kim Joon Yang / キム・ジュニアン（新潟大学人文学部）

第3部 研究発表 (英語への逐次通訳あり)

司会：ジャクリーヌ・ベルント (京都精華大学マンガ研究科)

コメンテータ：津堅信之 (京都精華大学マンガ学部)

- 「Meme as Convention, as Seen in Anime Style and Form」
[様式と形状からみる《お約束》になったミーム：心理効果の匠と凝り固まり]
應矢泰紀 (京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター)
- 「Voice as an Identifying Element of Anime: On the Performances of Voice Actress Sakakibara Yoshiko」
[アニメ・アイデンティティの一要素としての音声：声優榊原良子の演じるキャラクターを中心に]
小林翔 (京都精華大学マンガ研究科)
- 「Anime in Amateur Production: The Case of the «Union of Animation Research Circles»」
[アマチュア作品にみるアニメの受容：《アニメーション研究会連合》を中心に]
森下豊美 (京都精華大学マンガ研究科)
- 「Rotoscope and «Anime»: The Aku no Hana (Flowers of Evil) series」
[ロトスコープと《アニメ》：『悪の華』を中心に]
石田美紀 (新潟大学人文学部)

(文責：應矢泰紀2015.5.3)

講演会・研究会風景

LECTURE SNAP



その他資料など

MATERIALS

[告知ページはこちら](#)

[▶ トップページ](#) [▶ 講演会・研究会](#) [● ANIMEのアイデンティティ：表現・物語・メディア](#)

[▶ 個人情報保護方針](#) [▶ お問い合わせ](#) [▶ サイトマップ](#)

COPYRIGHT (C) INTERNATIONAL MANGA RESEARCH CENTER ALL RIGHTS RESERVED.

講演会・研究会報告

LECTURE MEETING AND
SOCIETY REPORT

講演会・研究会報告

LECTURES AND RESEARCH
MEETING REPORTS

- ▶ 2015年
- ▶ 2014年
- ▶ 2013年
- ▶ 2012年
- ▶ 2011年
- ▶ 2010年
- ▶ 2009年
- ▶ 2008年
- ▶ 2007年

カテゴリトップへ戻る

BACK TO CATEGORY TOP

講演会・研究会報告

LECTURE MEETING AND SOCIETY REPORT



【シンポジウム】第6回国際学術会議「マンガ・フューチャーズ-日本内外の制度とファンへのアプローチ」

6th International Scholarly Conference "Manga Futures- Institutional and Fan"

開催日時 2014.10.31 (FRI) -11.2 (SUN)

会場 オーストラリア・ウーロンゴン大学

共催：オーストラリア・ウーロンゴン大学 京都国際マンガミュージアム 京都精華大学国際マンガ研究センター

講演会・研究会要旨

ABOUT THIS LECTURE MEETING

第6回国際学術会議「マンガ・フューチャーズ-日本内外の制度とファンへのアプローチ」は、性や暴力の表現規制問題をはじめ、マンガの流通や受容をめぐる法的制度とファンの立ち位置をテーマに開かれた。近い将来の国際的なマンガ状況がどのような諸問題に直面するか、オーストラリアと日本がおかれた現状とその違いから議論を交わす場となった。

(文責：ユースギョン2016.5.28)

講演会・研究会風景

LECTURE SNAP



その他資料など

MATERIALS

会議プログラム

Friday 31 October 2014

17:00 Exhibition Opening

Protean Borders: Trans-cultural Encounters with Japanese Popular Culture
 Closed event for conference delegates and invited guests

Saturday 1 November 2014

10:00 – 10:45 Keynote 1

Chair: Mark McLelland

Censoring Manga in the 21st Century
Kirsten Cather, University of Texas at Austin

11:00 – 12:00 Plenary Panel 1

Chair: Jaqueline Berndt, Kyoto Seika University

Gender and Manga Representation of Sexuality: Focusing on Female Readers in Japan
Yukari Fujimoto, Meiji University

Manga Under Siege: The Legal Framework, Arguments Against “Pornographic Manga” in Japan, and Strategies For Resistance
Takashi Yamaguchi, Link Law Office, Kito and Partners

Between Ignorance and Cant: Finding a Way to Analyze Ero-Manga
Tadahiro Saika, International Manga Research Center
Kaworu Nagayama, Manga critic, writer and editor

14:15 – 15:45 Plenary Panel 2: Legal Issues and Censorship

Chair: James Welker, Kanagawa University

The End of “Cool Japan”? Ethical, Legal, Political and Cultural Challenges for Japanese Popular Culture Researchers and Teachers
Mark McLelland, University of Wollongong

Canada Customs vs. the Borderless World: Manga, Anime and Child Pornography
Sharalyn Orbaugh, University of British Columbia

A Love That Dare Not Speak Its Name Aloud: Chinese Boys’ Love Fandom in the 2014 ‘Cleaning the Web’ Campaign
Ling Yang, Xiamen University
Yanrui Xu, Ningbo Institute of Technology, Zhejiang University

16:05 – 17:05 Artist Talk

Picturing Manga’s Future in a Global World
Keiko Takemiya, Kyoto Seika University

17:05 – 17:30 Keynote 2

Chair: Vera Mackie, University of Wollongong

Manga Studies as a Field of Scholarship: Present Constraints and Future Prospects
Jaqueline Berndt, Kyoto Seika University

Sunday 2 November 2014

9:30 – 10:30 Concurrent Panels: Session 1

Session 1a: Manga and War

Chair: Kirsten Cather, University of Texas at Austin

Censoring Gen: an examination of attempts to remove Barefoot Gen from Japanese school libraries
Ronald Stewart, Prefectural University of Hiroshima

Reading manga in the discourse of popular memory: the analysis of animalization and the grotesque in war manga
Kaori Yoshida, Ritsumeikan Asia Pacific University

Session 1b: Moe Politics

Chair: Rowena Ward, University of Wollongong

“Moe” Politics : The structural friction between society and corporeality / immortality form of character

cter
Yuzuru Nakagawa, Japan Institute of the Moving Image

Moe and the Limits of the Cute
Keith Russell, The University of Newcastle

10:45 – 12:15 Concurrent Panels: Session 2

Session 2a: Cultural Economies

Chair: Kristine Michelle (Khursten) Santos
Dojinshi and other fanworks as an upcoming growth area for transcultural cultural economies
Nele Noppe, University of Leuven

After the boom: The impact of anime-manga fan culture in Hungary on the wider geek culture and its subcultural producers
Zoltan Kacsuk, Kyoto Seika University

Negotiating religious and fan identities: yaoi and fujoshi guilt
Jessica Sugimoto, Ryukoku University

Session 2b: Representation of “Outsiders”

Chair: Thomas Baudinette, Monash University

Close Encounter: The online “amateur” manga about

international marriage My Lovely Chinese Wife by Inoue Jun’ichi’
Shige (CJ) Suzuki, Baruch College - CUNY

Ethical and Philosophical Challenges of George Akiyama: Ashura, Zeni Geba and Manga Culture in the 1970s
Kotaro Nakagaki, Daito Bunka University

Beyond Individual Authorship: New Perspectives for a Multilayered Analysis of Manga and Anime
Oliver Kuehne, Freie Universitaet Berlin

13:30 – 15:00 Concurrent Panels: Session 3

Session 3: Fannish Subversion

Chair: Rebecca Suter, University of Sydney
The power of Trunks-ation: conflation and subversion in Dragon Ball Z Abridged
Michelle Kent, Monash University

Even a Monkey Can Understand Fan Activism: Bill 156 and the Dōjin Public
Andrea Horbinski, University of California - Berkeley

The Poetics of Boy Love: Transfiguring Masculinities in Yaoi Parodies of Final Fantasy VII
Kathryn Hemmann, George Mason University

Session 4: Shōjo Manga

Chair: Vera Mackie, University of Wollongong

Little ladies: The aesthetics of shōjo manga and their incorporation into the lolita fashion style
Megan Russel, University of New South Wales

Valiant and Beautiful: Rethinking gender and aesthetics in shōjo manga
Masafumi Monden, University of Technology, Sydney

Shōjo Manga Presenting Taboos and the Future: Incest and Women
Fusami Ogi, Chikushi Jogakuen University

15:00 – 15:30 Plenary Panel 3: Whose Queer Media?

Chair: Sharalyn Orbaugh, University of British Columbia

An Examination of the Diverse Fandom of the Cross-Media Yuri Genre
James Welker, Kanagawa University

15:45 – 17:15 Plenary Panel 4: Manga culture and Japanese Studies

Chair: Sharalyn Orbaugh, University of British Columbia

Death Note, Student Crimes, and the Power of Universities in the Global Domination of Manga
Alisa Freedman, University of Oregon

Scholar girl meets manga maniac, media specialist, and cultural gatekeeper
Laura Miller, University of Missouri - St. Louis

Is There Room for Lolicon in Cool Japan
Patrick Galbraith, Duke University

『マンガにおけるオルタナティブの多面性』（国際マンガ研究 vol. 5、ジャクリーヌ・ベルント編）オンライン修正版（2015年7月26日改訂）

※以下の各論文はPDFとしてダウンロードが可能です。

序文 ジャクリーヌ・ベルント

- 1 欧米圏のオルタナティブ・コミックスにおける自伝的作品についての論考
市毛史朗
- 2 米国における女性オルタナティブ・コミックスの展望——グラフィック・ノベルにおける自伝文学の潮流
中垣恒太郎
- 3 「無視」と「隠微な愉しみ」のあいだ——「エロマンガ」という領域を論じることの意義
永山薫・雑賀忠宏
- 4 トゲのある政治漫画——ポスト3.11の日本のカートゥーン
ロナルド・スチュワート
- 5 「漫画」と「連環画」の間——張光宇の連環漫画『西游漫記』について
焦凡
- 6 星の瞳に映るオルタナティブ——「典型的」少女マンガの再評価をめざして
門傳昌章&ルーシー・フレージャー/秦美香子 訳
- 7 純情漫画革命——雑誌としての『九番目の神話』
李信暎
- 8 受容者の見出すオルタナティブ性——やおい活動における「芸能・ナマモノ」の役割から
鈴木翠
- 9 観察者として位置づけられる読者——山本ルンルのマンガにおけるナラティブ・ストラテジー
山口恵

※以上の国際会議の論集とは別に併記された展示報告については以下のとおり

- 10 『愛すべき無理難題 マーラー漫画パーク』キュレーションのコンセプト
應矢泰紀
- 11 ニコラス・マーラーの作品がほのめかすオーストリアにおける「日本」
クラウディア・シュミット

感想文集『古典絵画の巨匠たち』をめぐる

論集全体のダウンロードはこちら



展覧会報告

EXHIBITION REPORTS

展覧会報告

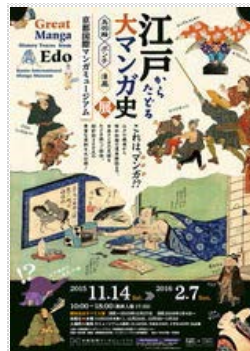
EXHIBITION REPORTS

- ▶ 2015年
- ▶ 2014年
- ▶ 2013年
- ▶ 2012年
- ▶ 2011年
- ▶ 2010年
- ▶ 2009年
- ▶ 2008年

メイン展示紹介
MAIN EXHIBITIONカテゴリトップへ戻る
BACK TO CATEGORY TOP

展覧会報告

EXHIBITION REPORT



企画展

江戸からたどる大マンガ史展 ～鳥羽絵・ポンチ・漫画～

Great Manga History Traces from Edo

期日	2015.11.14 (SAT) ～2016.2.7 (SUN)
開催日数	67日
料金	無料 (ミュージアムへの入場料は別途必要)
会場	京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー1・2・3
主催	主催：京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

協力：竹中木版・竹笹堂

監修：清水勲 (漫画・風刺画史研究家。マンガミュージアム研究顧問)

担当研究員：倉持佳代子、石田葉月

展覧会要旨

ABOUT THIS EXHIBITION

マンガを多くの人々が楽しむ「大衆メディア」であることを前提として、印刷出版文化が発達した江戸中期の「戯画」を出発点に、昭和初期の雑誌にいたるまでの流れを展示した。展示されたほとんどの資料は、国際マンガ研究センター/京都国際マンガミュージアムの所蔵品で、本展が初公開の資料が大多数であった。これらは元々、当センターの研究顧問である清水勲氏から譲り受けたものであり、展示の構成も氏の紡ぐ漫画史が参考にされている。

浮世絵の展覧会がブームとなっている昨今、美術史の文脈ではなく、「漫画史」の文脈から江戸戯画を見せることにより、鑑賞の幅を広げることができたのではないだろうか。また、江戸だけでなく、明治以降に発達した雑誌文化や漫画家についても展示の中で言及し、江戸から現代のマンガに至るまでの連続性を見出すことができた。

(文責：倉持佳代子2016.5.23)

展示構成

EXHIBITION COMPOSITION

はじめに

- (1) マンガのはじまり?～江戸中期の戯画・商品としての量産マンガの誕生～
 - 1-1 江戸の出版～鳥羽絵本の登場と様々な戯画スタイル
 - 1-2 江戸のヒットメーカー・歌川国芳と風刺画
 - 1-3 江戸戯画で多用された表現
 - 1-4 歌川広景「江戸名所道化尽」
 - 1-5 河鍋暁斎の「暁斎百図」
- (2) ポンチ・漫画の時代へ～職業漫画家の誕生～
 - 2-1 最後の戯画錦絵の時代
 - 2-2 西欧からの影響と雑誌ブーム

- 2-3 ポンチ本から漫画本へ
 - 2-4 大正時代の漫画家と雑誌
 - 2-5 大正時代の漫画本
 - (3) 昭和初期～戦中、ストーリー漫画の台頭
 - 3-1 昭和初期の漫画雑誌とナンセンス漫画の流行
 - 3-2 昭和戦前の漫画本
- まとめにかえて～漫画・マンガ・MANGA

前期：2015.11.14～12.27、後期：2016.1.4～2.7にて木版画については全入替した。

上記の構成に合わせて総計341点を展示

- ・江戸時代の戯画・戯画本 149点（前期後期わけて展示）
- ・明治戯画錦絵 30点（前期後期わけて展示）
- ・明治・大正・昭和初期の漫画雑誌160点
- ・戯画本3冊を閲覧できるipad
- ・映像「木版画の作り方～竹筴堂・職人たちの技」
- ・映像「北斎漫画より すずめ踊りアニメーション」

展示会風景

EXHIBITION PHOTO



関連イベント・資料など

RELATED EVENTS & INFORMATION

■ 関連展示

「EDO GIGA COMICAL WOODBLOCK PRINTS FROM JAPAN」
場所：オーストラリア・シドニー、国際交流基金アートギャラリー
期間：前期（2015.8.13～9.1）、後期（2015.10.13～11.2）
内容：40点（前期・後期各20点）

■ 関連展示

「江戸からたどる大マンガ史展 出張版」
場所：京都伊勢丹 3階エスカレーターホール
日程：2016.1.6～1.12
内容：江戸戯画21点（初公開）

■ 関連ワークショップ

「めざせマンガ博士！ 江戸戯画から学ぶマンガのひみつ」
場所：京都国際マンガミュージアム1階 吹き抜けホール
日程：展示期間中の土日祝日
内容：同展の内容をワークショップ専用ミニブックにて学ぶ。掲載されたクイズや作画体験を経て、マンガミュージアム認定の「マンガ博士」の称号を参加者に与える。

■ 関連ワークショップ

「木版画で江戸戯画・年賀状をつくろう！」
場所：京都国際マンガミュージアム 1階多目的映像ホール
日程：2015年11月28日（土）14：00～16：00
料金：1,500円（材料費）
内容：竹筴堂の職人を講師に迎え、江戸戯画モチーフの木版画で年賀状を作成する。

■ 関連イベント

講演会「江戸戯画と現代マンガ」

場所：京都国際マンガミュージアム 3階研究室 1

日程：2015年12月12日（土）14：00～16：00

会場：京都国際マンガミュージアム 3階 研究室1

出演：清水勲

内容：（1）日本漫画史の中の江戸戯画・風刺画

（2）現代マンガと江戸戯画勲

（3）MMの「江戸戯画コレクション」が生まれるまで

■新聞寄稿

・倉持佳代子<「大衆メディア」の足跡 多面的に迫る>『SANKEI EXPRESS 2015年11月23日（月）』

・倉持佳代子<「大衆メディアへの道」>「いまどきマンガ塾」『朝日新聞（関西版夕刊）2015年11月27日（金）』

■告知ページ

日本語版：http://www.kyotomm.jp/event/exh/manga_history.php

英語版：http://www.kyotomm.jp/english/event/exh/manga_history_eng.php

■大マンガ史ちらし(PDF)

▶ [トップページ](#) ▶ [展覧会](#) ■ [江戸からたどる大マンガ史展 ～鳥羽絵・ポンチ・漫画～](#)

▶ [個人情報保護方針](#) ； ▶ [お問い合わせ](#) ； ▶ [サイトマップ](#)

COPYRIGHT (C) INTERNATIONAL MANGA RESEARCH CENTER ALL RIGHTS RESERVED.

展覧会報告

EXHIBITION REPORTS

展覧会報告

EXHIBITION REPORTS

- ▶ 2016年
- ▶ 2015年
- ▶ 2014年
- ▶ 2013年
- ▶ 2012年
- ▶ 2011年
- ▶ 2010年
- ▶ 2009年
- ▶ 2008年

メイン展示紹介

MAIN EXHIBITION

カテゴリトップへ戻る

BACK TO CATEGORY TOP

展覧会報告

EXHIBITION REPORT



企画展

原画'(ダッシュ) 展示シリーズ 青年マンガの世界展

Genga'(Dash) Exhibition Series The World of Manga for Men

期日	2015.11.21 (SAT) ~ 2016.2.9 (TUE)
開催日数	64日
料金	無料 (ミュージアムへの入場料は別途必要)
会場	京都国際マンガミュージアム 2階 ギャラリー4・6
主催	主催：京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム

監修：竹宮恵子

協力：平田弘史、ながやす巧、村上もとか、有限会社トランキライザープロダクト
担当研究員：ユースギョン、倉持佳代子

展覧会要旨

ABOUT THIS EXHIBITION

恒例である精巧な複製原画のプロジェクト・原画'(ダッシュ)の新作を発表する展覧会。本プロジェクトは、竹宮恵子の監修の下、破損や散逸のおそれのある日本のマンガの偉大な足跡を、現状のままアーカイブする目的で進められているものである。

本プロジェクトではこれまで少女マンガの作家を中心に進めてきたが、今回、初めて青年マンガに着手した。参加した作家は、平田弘史、ながやす巧、村上もとかの3名。いずれも青年マンガ史を語る上で欠かせない人物である。制作時期については、ながやす作品は2013年9月～2014年4月、平田作品は2014年9月～2015年4月、村上作品は2014年12月～2015年4月であり、制作時期の原画の状態をそのまま再現している。過去手がけてきた少女マンガの原画とは違う線や色合いの再現に新たな制作ノウハウを蓄積することができた。

本展では、上記で制作した平田弘史(32点)、ながやす巧(32点)、村上もとか(35点)の新作発表と、竹宮恵子の所蔵作品20点のお蔵出しの機会となった。青年マンガを手がけたことにより、過去の原画'(ダッシュ)展では来なかった客層も呼びこむことができ、プロジェクト自体の幅広い周知につながった。

(文責：倉持佳代子2016.5.23)

展示構成

EXHIBITION COMPOSITION

- ・平田弘史 原画'(ダッシュ) 32点
- ・ながやす巧 原画'(ダッシュ) 32点
- ・村上もとか 原画'(ダッシュ) 35点
- ・竹宮恵子 原画'(ダッシュ) 20点
- ・ながやす巧「壬生義士伝」に登場する名刀「大和守安定」の再製作品(真剣)
- ・出展作家関連雑誌



関連イベント・資料など

RELATED EVENTS & INFORMATION

■ 関連イベント

平田弘史 サイン会

日程：2015年12月6日（日）14：00～16：00

会場：京都国際マンガミュージアム 1階多目的映像ホール

■ 関連イベント

ながやす巧 サイン本お渡し会

日程：2016年1月10日（日）14：00～16：00

会場：京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール

■ 関連イベント

村上もとか×竹宮恵子 トークショー&サイン会

日程：2016年1月31日（日）14：00～17：30

会場：京都国際マンガミュージアム 1階 多目的映像ホール

■ 新聞寄稿

・ユースギョン<オリジナルの魅力、限りなく追求 原画'展示シリーズ「青年マンガの世界」> 『SANKEI EXPRESS 2015年1月4日（月）』

■ 関連資料

出展リストは[こちら](#)

■ 告知ページ

日本語版：<http://www.kyotomm.jp/event/exh/dash2015.php>

英語版：<http://www.kyotomm.jp/english/event/exh/dash2015eng.php>

講演会・研究会報告

LECTURE MEETING AND
SOCIETY REPORT

講演会・研究会報告

LECTURES AND RESEARCH
MEETING REPORTS

- ▶ 2016年
- ▶ 2015年
- ▶ 2014年
- ▶ 2013年
- ▶ 2012年
- ▶ 2011年
- ▶ 2010年
- ▶ 2009年
- ▶ 2008年
- ▶ 2007年

カテゴリトップへ戻る

BACK TO CATEGORY TOP

講演会・研究会報告

LECTURE MEETING AND SOCIETY REPORT



マンガと戦争展 6つの視点と3人の原画から 小林よしのり×呉智英対談

開催日時	2015.7.19 (SUN) 14:00-16:00
会場	多目的映像ホール
出演者	小林よしのり (マンガ家) / 呉智英 (評論家、「マンガと戦争展」監修)
参加者数	200名

主催：京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター 担当：伊藤遊

講演会・研究会要旨

ABOUT THIS LECTURE MEETING

「マンガと戦争展——6つの視点と3人の原画から」の関連イベントとして企画された本対談は、マンガに描き出されてきた戦争のイメージの幅広さを通じて、戦後日本における戦争をめぐる感受性のありかたを再構築するという「マンガと戦争」展のねらいに基づきながら、『新・ゴーマニズム宣言Special 戦争論』等によって「マンガによって戦争をどう語るか」をめぐる大きな議論を呼んだマンガ家・小林よしのり氏を招き、評論家・呉智英氏を聞き手として開催されたものである。

対談は「マンガ家としての小林よしのり」のキャリア、および作品の変遷を中心として進められた。デビュー当時の生活や編集者とのやりとりなど裏話の数々が飛び出すなかで、呉氏は「ゴーマニズム宣言」を、実際にマンガ作品が社会的な事件となり、社会を動かしたというマンガ史上でも重要な出来事として位置づけていた。「ゴーマニズム宣言」をめぐるのは、オウム真理教事件との関わりから、賛否両論を巻き起こした『新・ゴーマニズム宣言Special 戦争論』の反響にまで話が及んだ。

対談の終盤において、戦後70周年を迎えるなかで、戦争をめぐるさまざまなことがわからなくなってきてしまっているという呉氏に同意しつつ、小林氏はさまざまな視点から戦争を描くこと自体の重要性と、マンガで戦争を描くことはその悲惨さを描き出すだけに留まらず、勇壮美や兵器知識などさまざまな側面も含みこまれているのだということも強調していた。「戦争のなかではとんでもない不合理な言葉が出てくる。“どうすればよかったのか”というところまで含めて、そういうものを描いてみたい」——「リアリズム」という言葉を用いつつそう語る小林氏の試みは、近年の作品『卑怯者の鳥』のうちにも見出すことができるだろう。

(文責：雑賀忠宏2016.5.23)

講演会・研究会風景

LECTURE SNAP



ワークショップ報告

WORKSHOP REPORTS

● 期間限定ワークショップ報告

SHORT-TERM WORKSHOP REPORTS

- ▶ 2014年
- ▶ 2013年
- ▶ 2010年
- ▶ 2009年
- ▶ 2008年
- ▶ 2007年
- ▶ 2006年

● グループ向け ワークショップメニュー

GROUP WORKSHOPS MENU

- ▶ プライベートレッスン
プレミアムワークショップ
- ▶ マンガ家アシスタント体験
- ▶ 缶バッジをつくらう！
- ▶ 4コママンガ教室

● 出張ワークショップ報告

EXTERNAL WORKSHOP REPORTS

● カテゴリトップへ戻る

BACK TO CATEGORY TOP

ワークショップ開催の ご依頼を受け付けています

国際マンガ研究センターでは、シンクタンク事業の一貫として、出張・グループ向けにワークショップの開催を行っております。以下よりお気軽にお問い合わせ下さい。



● ワorkshopについて問い合わせる

期間限定ワークショップ報告

SHORT-TERM WORKSHOP REPORTS



とびだす！！マミーのグリーティングカードをつくらう！！

開催期間	2014.10.4 SAT-12.23 SUN 開催期間中の土・日・祝日のみ開催※10.12は除く
開催日数	27日
料金	無料
対象	全年齢
参加者数	1111名
会場	京都国際マンガミュージアム1階 吹き抜けホール（ワークショップコーナー）

ワークショップ概要

ABOUT THIS WORKSHOP

京都国際マンガミュージアムのオリジナルマスコット「マミー」をモチーフにしたポップアップ型のグリーティングカードを作るワークショップを開催。平面状から立体に起こす方法を学び、創作の楽しさに触れることを目的とした。参加者は「えむえむセット」「期間限定セット」「カスタムセット」の三種類のデザインから好きなシートを1枚選び（制作物参照）、机の上の「つくりかたシート」を見ながらカードを制作。三種類の中で、一番難易度が高かったのは「カスタムセット」で、カードのデザインを考えるとところから参加者の方に体験してもらった。「どんなものを飛び出させたいだろうか？」「どんなデザインのカードにしようか」「誰に贈ろうか」と、楽しそうにカードを作っている方が多く、さらに、「えむえむセット」「期間限定セット」に手を加えて、スタッフも驚くような素晴らしいオリジナルのカードを作っている参加者もいるなど、全体的に創作に意欲的な方が多かったのが印象的だった。

（文責：石田葉月 2015.12.11）

ワークショップ風景

EVENT PHOTOS



制作物・ワークショップ風景

WORKS & SNAPS



関連イベント・資料など

RELATED EVENTS & INFORMATIONS

告知ページは[こちら](#)から

主催：京都国際マンガミュージアム、京都精華大学国際マンガ研究センター

▶ [トップページ](#) ▶ [ワークショップ](#) ▶ [期間限定ワークショップ報告](#) ■ [とびだす!! マミューのグリーティングカードをつくろう!!](#)

▶ [個人情報保護方針](#) ▶ [お問い合わせ](#) ▶ [サイトマップ](#)

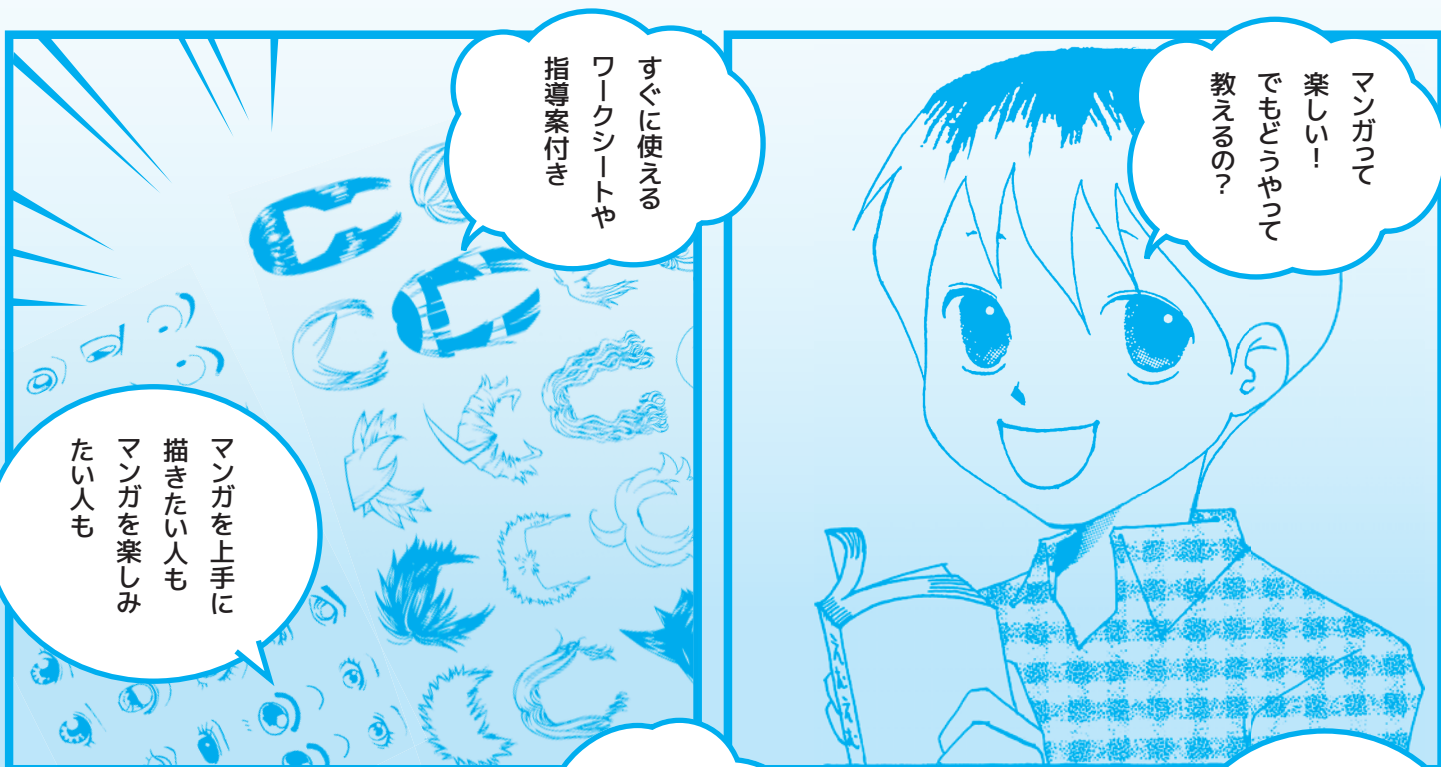
COPYRIGHT (C) INTERNATIONAL MANGA RESEARCH CENTER ALL RIGHTS RESERVED.

マンガ作画ワークショップ「ガイドブック」

新マンガ教育 ガイドブック

マンガを使って楽しく学ぼう

—京都国際マンガミュージアム体験型学習プログラム「えむえむワークショップ」の実例から—

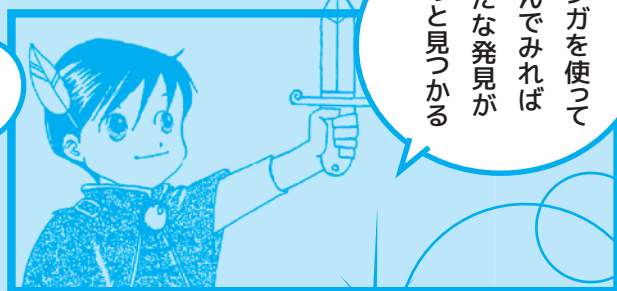


すぐに使える
ワークシートや
指導案付き

マンガを上手に
描きたい人も
マンガを楽しみ
たい人も



京都国際マンガ
ミュージアムで
実施してきた
教育プログラム
から選りすぐり
を紹介！



本書で使用する画材

えんぴつ

HB か B くらいが使いやすいです。
シャープペンシルでも構いません。



消しゴム

メーカーは問いません。好みの消しゴムを使用してください。



ミリペン

本書では、0.1mm~0.5mm の太さが使いやすいです。
メーカーによって、水性・耐水性とがありますので、用途に合わせて使い分けてください。



ペン先

本書では、G ペンを使用します。G ペンは初心者でも使いやすいペン先です。ペン軸に差し込んで使用します。



ペン軸

ペン軸の先にあいている穴にペン先を差し込んで使用します。
メーカーによって穴が 1 つのものと 2 つのモノがあります。使用するペン穴のカーブに合ったペン軸を使いましょう。



インク

ペン先を付けて使用します。インクは墨汁でも構いません。メーカーによって、水性・耐水性とがありますので、用途に合わせて使い分けてください。



筆ペン

文字を書く時に使用しますが、広い面を黒く塗りつぶすのにも適しています。



色えんぴつ

12 色くらいあると良いでしょう。



定規

本書では、15cm~30cm くらいの長さの定規が使いやすいです。



<紙の種類>

普通紙

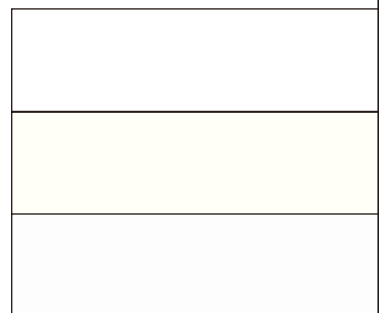
アイデアスケッチやワークシートに使用します。

上質紙

ワークシートに使用します。

マンガ専用原稿用紙

マンガの画材を使用する時は、この紙を使うと描きやすいのでオススメです。





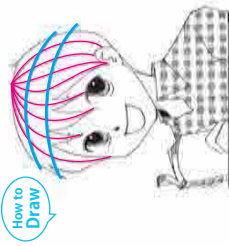
マンガ家アシスタント体験

日本のマンガ家はマンガがお話を考え始めてからお店に作品が並ぶまで1週間という早さなので、先生がマンガを描く時間は2、3日ぐらいしかありません。なので、マンガ家さんには必ずアシスタント（お手伝い）さんがつきます。

今回はそのアシスタントさんになって、マンガ家さんの原稿を完成させましょう。アシスタントとはいえ、その作業は消しゴムをかけることから、背景の作画まで多岐にわたります。マンガ特有の効果もたくさんありますので、アシスタントをしながらマンガの効果についても学んでいきましょう。

ツヤバタ

筆を使って、髪の毛の光が当たっているところを塗り残すことで、髪の毛のツヤを表現する技法です。



- ①髪に光が当たっている範囲を決めて上下に2本、鉛筆で線を描きます。(水色の線)そして、つむじからの髪の毛の流れに何本か描きます。(ピンクの線)
- ②髪の毛の流れ(ピンクの線)に沿って描いていきます。光が当たっている部分(水色の線)のあたりで、描く線の長さをランダムにすると自然なツヤバタになります。
- ③上下ともツヤバタが描けたら、塗り残している部分を塗りつぶします。インクが乾いたことを確認して、鉛筆の線を消したら完成です。

！ワンポイントアドバイス！

筆の特性を活かして、「入り」や「抜き」を使うと、よりきれいなツヤバタに仕上がります。



描き順 (左→右)

最初を細く、後を太く描きます。最初を太く、後を細く描きます。

ふきだし

登場人物のセリフを表現する手法です。形を変化させることで、キャラクターの感情も表現することができます。

強い驚き



フキダシを尖らせることで、強い驚きや声の大きさを表現できます。



声に出ない驚き
フキダシに○を2~3個つけることで、声に出していない、心の中の声になります。



流動線

人や物が動くスピードを表現する技法です。線の描きかたによって、速さだけでなく感情を表現することもできます。

ダッシュ

スタートダッシュをしているような勢いよく走り出している状態を表現できます。



のんびり

スピード感がなく、楽しいなどの感情を表現する時に使うと効果的です。

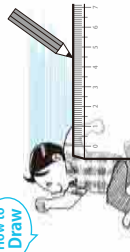


猛スピード

線をたくさん描くほど、速く走っているように表現できます。



How to Draw



①定規を使って、鉛筆でスピード線を下描きします。線の長さをランダムにすると、自然なスピード線に仕上がります。



②定規を使って、下描きしたスピード線をペンでぞっていきます。インクが乾いたことを確認して、鉛筆の線を消したら完成です。

ツヤバタと同様に、「抜き」を使うと、きれいなスピード線が描けます。
描き順 (左→右) 抜き終わりを細く

！ワンポイントアドバイス！

定規を使ってペンで線を描く時は、定規をひっくり返して使うと、紙(インク)の汚れが付きにくくなります。



ここに隙間があるのでインクが紙と定規の間に入ることを防ぎます。

集中線

注目させたい所に線を集中させることで、読者の視線を誘導します。また、感情を表現することもできます。

キャラクターに注目させる



キャラクターの意思を表現



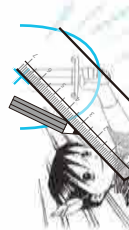
剣に注目させる



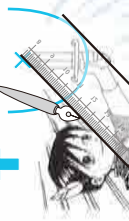
How to Draw



①鉛筆で、注目させたい所に×印を描きます。次に集中線をどこまで描くのかの範囲を決め、線を描きます。



②定規を×印にあてて、×印に向かって範囲線のあたりまで鉛筆で線を描いていきます。



③定規を使って、下描きした集中線をペンでなぞっていきます。インクが乾いたことを確認して、鉛筆の線を消したら完成です。



マンガで学ぶ

マンガ家アシスタント体験

制作時間：30分

教材

ワークシート（右ページ）、えんぴつ、消しゴム、筆ペン、インク、ペン先、ペン軸
※ペンはミリペンでも代用可

時間配分（例）

0分	20分	50分	60分
導入・説明	制作	振り返り	片付け

制作の流れ

1. まずは鉛筆で「ツヤベタ」「ふきだし」「流動線」「集中線」の下描きをしましょう。

2. 下描きが完成したら、ペンを使って消書していきます。

3. 全てのペン入れが終わったら、インクが乾いていることを確認して、鉛筆の線（下描き）を消します。

指導にあたってのワンポイントアドバイス

- ・マンガを描く時は、まず全ての下描きをし、その後ペン入れ（清書）していくと、原稿が汚れにくくなります。
- ・「ふきだし」や「流動線」は、全ページのサンプルに限らず、自由な発想で描かせましょう。

・ツヤベタを描いたり、定規を使ってペン入れする時は、前ページのワンポイントアドバイスを参考にしながら描くように促しましょう。

・インクが乾いていない状態で消しゴムをかける、インクが乾かぬで原稿を汚してしまいます。ティッシュや指先で軽く触れて、インクがしっかり乾いていることを確認してから消しゴムを掛けるように注意しましょう。

☆早く出来上がった人は、「ふきだし」の男の子の髪を塗ったり、オリジナルのマンガ表現を考えてみましょう。

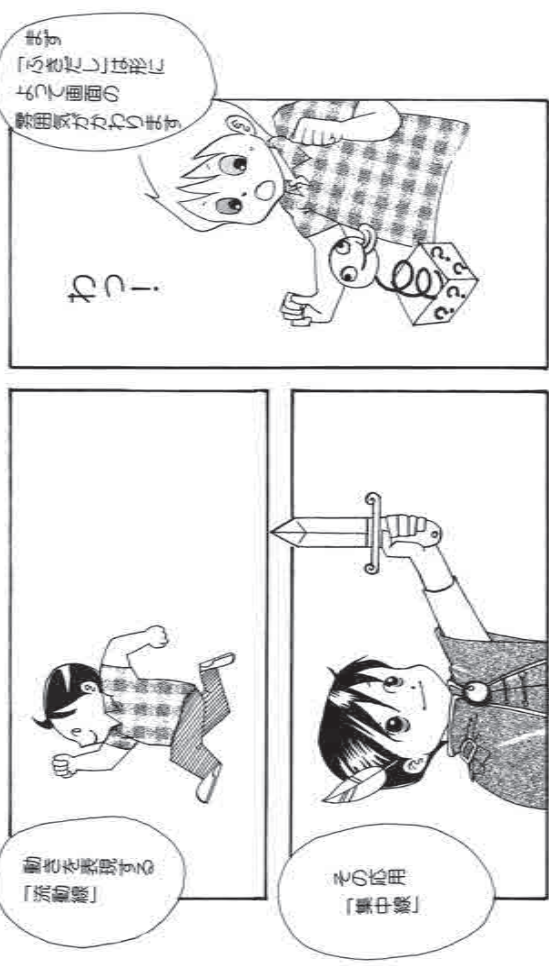
マンガの作画テクニックと表現論を学ぶ

「マンガ家アシスタント体験」は、穴埋め形式で構成されたワークシートを進めるだけでマンガ描けたような感覚になるワークショップです。そして、マンガの中に出てくる記号や効果などに特化した作業の中で、日本のマンガ表現が様々な記号の組み合わせによってできていることを学ぶことができます。

一 評価項目一

- 関心・意欲** マンガ表現に関心を持ち、主体的に工夫して表現しようとしている
- 発想力** それぞれの表現手法を生かしてキャラクターの状況の違いを考え、構想している
- 技能** 自分の表現意図に合うよう表現方法を工夫するなどして、創造的に表現している
- 鑑賞** キャラクターの状況を生かした表現の描き分けを感じ取り、自己の悪いや考えをもっている

マンガ家アシスタント体験



名前

原画ダッシュ出版物・展示紹介

別添

原画' (ダッシュ) 関連の出版物

- 『少女マンガの世界～原画' (ダッシュ) 10年の軌跡』 (日英版) の刊行



2011年11月26日 88P

所蔵している原画' (ダッシュ) の作品の一部を収録だけでなく、作家による座談会の記録なども収録。その概要をまとめたものも英訳されている。

- 原画' (ダッシュ) ガイドブック (英語版) の刊行



2012年9月刊行 32P

原画' (ダッシュ) についての基本的な説明や所蔵作家について英語のガイドブックを制作。

- 原画' (ダッシュ) ガイドブック (韓国語版) と (中国語版) の刊行



韓国語版 500 部
2014 年 3 月刊行 35 P
中国語版 1,000 部
2015 年 12 月刊行 35 P

原画' ダッシュを使用した展示報告

- ・2011 年度 東京・京都での展示「少女マンガの世界 原画' (ダッシュ) 10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2011/09/10.html>

- ・2012 年度 フランス・パリ/ポンピドゥーセンターでの展示「少女マンガの世界 原画' (ダッシュ) 10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2012/02/univers-des-mangas-pour-adolescentesplanete-manga-in-centre-pompidou.html>

- ・2012 年度 ハンガリー・ブタペストでの展示「少女マンガの世界 原画' (ダッシュ) 10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2012/03/post-9.html>

- ・2012 年度 オーストラリア・メルボルン/モナシュ大学での展示「少女マンガの世界 原画' (ダッシュ) 10 年の軌跡」

<http://imrc.jp/exhivision/2012/11/the-world-of-girls-manga.html>

・2013年度 京都での展示「原画' (ダッシュ) 展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく 展」

<http://imrc.jp/exhivision/2013/06/post-11.html>

・2014年度 東京での展示「原画' (ダッシュ) 展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく 展」

http://www.kyotomm.jp/event/exh/gengadash_tokyo2014.php

・2015年度 イギリス・ケンダルでの展示「Shojo Manga」

<http://www.kyotomm.jp/info/licaf2015.php>

・2015年度 京都での展示「原画' (ダッシュ) 展示シリーズ 青年マンガの世界展」

<http://www.kyotomm.jp/event/exh/dash2015.php>

原画ダッシュ目録一覧

原画'(ダッシュ)プロジェクト

GENGA' [DASH] PROJECT

● 原画'(ダッシュ)の特徴
FEATURES OF GENGA DASH

● 原画'(ダッシュ)作家一覧
AUTHORS

● 過去の展覧会
PAST EXHIBITIONS

● カテゴリトップへ戻る
BACK TO CATEGORY TOP

原画'(ダッシュ)作家一覧

AUTHORS

所蔵作家一覧

現在、本プロジェクトでは、主に「少女マンガ」の作品をアーカイブの対象とし、毎年2~3名の作家の作品の原画'(ダッシュ)制作に取り組んでいます。現在(2013年3月)では、500点以上の作品を所蔵し、コンスタントにアーカイブの範囲を広げています。

Featured Artists

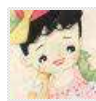
Presently the project has focused on building up an archive of artwork primarily from the genre of shojo (girls) manga, creating Genga'(Dash) of works by 2 to 3 artists per year. We continue to expand the archive which, as of March 2013, stands at over 500 works.

作家一覧

AUTHORS



● 竹宮 恵子
Takemiya Keiko



● 松本 かつぢ
Matsumoto Katsuji



● 上田 としこ
Ueda Toshiko



● わたなべ まさこ
Watanabe Masako



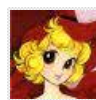
● 今村 洋子
Imamura Yoko



● 高橋 真琴
Takahashi Macoto



● 巴 里夫
Tomoe Sato



● 水野英子
Mizuno Hideko



● 牧 美也子
Maki Miyako



● あすな ひろし
Asuna Hiroshi



● 北島 洋子
Kitajima Yoko



● 上原 きみ子
Uehara Kimiko



● 佐藤 史生
Sato Shio



● 花郁 悠紀子
Kai Yukiko



● 藤井千秋
Fujii Chiaki

藤井千秋『原画'(ダッシュ)』目録

作品名／掲載年号／雑誌／出版社

1	「春さきの語らい」(四色折込口絵)カラー
	1950年(昭25年)4月号
	少女の友
	実業之日本社
2	カットイラスト4点
	1949年(昭24年)
	少女の友
	実業之日本社
3	「かるた会の夕」(付録 特製年賀はがき)カラー
	1950年(昭25年)1月号
	少女の友
	実業之日本社
4	「シュウベルトのセレナーデ」2色カラー
	1950年(昭25年)6月号
	少女の友
	実業之日本社
5	「舞踏会の帰り道」(口絵原画)カラー
	1949年(昭24年)8月号
	少女の友
	実業之日本社
6	「きせつのはなやき」カラー
	1950年(昭25年)12月号
	少女の友
	実業之日本社
7	「夕風」(口絵原画)カラー
	1951年(昭26年)8月号
	少女の友
	実業之日本社
8	「薫の花咲く丘」(口絵原画)カラー
	1951年(昭26年)4月号
	少女の友
	実業之日本社
9	「ドラニの夢」挿絵原画三井嫩子／編
	1950年(昭25年)10月号
	少女の友
	実業之日本社
10	「巴里祭」(折込口絵原画)カラー
	1954年(昭29年)7月号
	少女の友
	実業之日本社

11	「夢の中の小夜曲」(絵物語原画)カラー
	1953年(昭28年)8月号
	少女の友
	実業之日本社
12	「すみれの花さく丘」(口絵原画)カラー
	1953年(昭28年)4月号
	少女の友
	実業之日本社
13	「お人形の日に」(口絵原画)カラー
	1954年(昭29年)3月号
	少女の友
	実業之日本社
14	「ピーターパン」(口絵原画)カラー
	1954年(昭29年)5月号
	少女の友
	実業之日本社
15	「おでかけ」(折込口絵)カラー
	1958年(昭33年)5月号
	女学生の友
	小学館
16	「風の妖精」(付録表紙)カラー
	1966年(昭41年)4月号
	女学生の友
	小学館
17	「禁じられた手紙」原作:三木澄子
	1966~1967年(昭41~42年)
	女学生の友
	小学館
18	挿絵
	1970年頃(昭45年頃)
	ジュニアライフ
	旺文社
19	12月の詩画集「聖夜」挿絵原画
	1953年(昭28年)12月号
	少女の友
	実業之日本社
20	「インドの王女様」カラー
	1984年(昭59年)
	—
	—

21	「インドの王子様」カラー
	1984年(昭59年)
	—
	—
22	「樹里の思い出」カラー
	1978年(昭和53年)
	—
	—
23	「シンデレラ」(1) カラー
	1962年(昭37年)2月刊
	講談社世界絵童話全集
	講談社
24	「シンデレラ」(2) カラー
	1962年(昭37年)2月刊
	講談社世界絵童話全集
	講談社
25	「ふたりだけの海」(青い麦より)カラー 原作:コレット
	1968年(昭43年)6月号
	小説ジュニア
	集英社
26	未完成作品 カラー
	1985年(昭60年)
	—
	—
27	「にんぎょひめ」(小学館世界の童話) カラー
	1974年(昭49年)1月号(重版)
	—
	小学館
28	「ゴンドラ」(絶筆)カラー
	1985年(昭60年)
	—
	—
29	「ゴンドラ」(スケッチ)
	1985年頃(昭60年頃)
	—
	—
30	「紫の貴婦人」カラー
	1984年(昭59年)
	—
	—

31	「野菊の墓」
	1967年(昭42年)3月号
	美しい十代
	学習研究社

花村えい子原画ダッシュ目録

作品名／掲載年号／雑誌／出版社

1	「メリー・ポピンズ」(1)	11	「霧のなかの少女」(4)	21	ショウワノート マドレーヌ 表紙絵(2) カラー	31	
	1966年(昭和41年)		1966~1967年(昭和41~42年)		1970年代		2008~2009年
	なかよしブック		週刊マーガレット		ショウワノート		サスペリアミステリー
	講談社		集英社		ショウワノート		秋田書店
2	「メリー・ポピンズ」(2)	12	「霧のなかの少女」(5)	22	ショウワノート マドレーヌ 表紙絵(3) カラー	22	
	1966年(昭和41年)		1966~1967年(昭和41~42年)		1970年代		
	なかよしブック		週刊マーガレット		ショウワノート		
	講談社		集英社		ショウワノート		
3	「禁じられた遊び」(1)	13	「霧のなかの少女」(6)	23	ショウワノート マドレーヌ 表紙絵(4) カラー	23	
	1966年(昭和41年)		1966~1967年(昭和41~42年)		1970年代		
	なかよしブック		週刊マーガレット		ショウワノート		
	講談社		集英社		ショウワノート		
4	「禁じられた遊び」(2)	14	「霧のなかの少女」(7) カラー	24	「唇」 カラー	24	
	1966年(昭和41年)		1966~1967年(昭和41~42年)		1988年		
	なかよしブック		週刊マーガレット		ミステリーJour		
	講談社		集英社		双葉社		
5	「二十四の瞳」	15	「霧のなかの少女」(8) カラー	25	「花唐の賦」 カラー 原作:連城三紀彦	25	
	1966年(昭和41年)		1966~1967年(昭和41~42年)		1989年		
	なかよしブック		週刊マーガレット		ミステリーJour		
	講談社		集英社		双葉社		
6	「思い出のシンデレラ」(1)	16	「霧のなかの少女」(9) カラー	26	「春の滅び」 カラー 原作:皆川博子	26	
	1965年(昭和40年)		1966~1967年(昭和41~42年)		1998年		
	なかよしブック		週刊マーガレット		Hiミステリー		
	講談社		集英社		宙出版		
7	「思い出のシンデレラ」(2)	17	ショウワノート マドレーヌ 着せ替え (1) カラー	27	「能師の妻」 カラー 原作:連城三紀彦	27	
	1965年(昭和40年)		1970年代		1988年		
	なかよしブック		ショウワノート		ミステリJour		
	講談社		ショウワノート		双葉社		
8	「霧のなかの少女」(1)	18	ショウワノート マドレーヌ 着せ替え (2) カラー	28	「落窪物語」 カラー	28	
	1966~1967年(昭和41~42年)		1970年代		1977年		
	週刊マーガレット		ショウワノート		マンガ日本の古典② 単行本		
	集英社		ショウワノート		中央公論社		
9	「霧のなかの少女」(2)	19	ショウワノート マドレーヌ 着せ替え (3) カラー	29	「天河伝説殺人事件」 原作:内田康夫	29	
	1966~1967年(昭和41~42年)		1970年代		1991年		
	週刊マーガレット		ショウワノート		ヤングROSE		
	集英社		ショウワノート		角川書店		
10	「霧のなかの少女」(3)	20	ショウワノート マドレーヌ 表紙絵(1) カラー	30	「不機嫌家族」 原作:小池一夫	30	
	1966~1967年(昭和41~42年)		1970年代		1976~1978年		
	週刊マーガレット		ショウワノート		女性セブン		
	集英社		ショウワノート		小学館		

ちばてつや原画借用目録

作品名／掲載年号／雑誌名／出版社

1	「ママのバイオリン」(1)
	1958年6月号～1959年5月号
	少女クラブ
	講談社
2	「ママのバイオリン」(2)
	1958年6月号～1959年5月号
	少女クラブ
	講談社
3	「ママのバイオリン」(3)
	1958年6月号～1959年5月号
	少女クラブ
	講談社
4	「1・2・3と4・5・ロク」(1)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
5	「1・2・3と4・5・ロク」(2)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
6	「1・2・3と4・5・ロク」(3)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
7	「1・2・3と4・5・ロク」(4)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
8	「1・2・3と4・5・ロク」(5)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
9	「1・2・3と4・5・ロク」(6)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
10	「1・2・3と4・5・ロク」(7)
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社

11	「みそっかす」(1)二色カラー
	1966年～1967年
	週刊少女フレンド
	講談社
12	「みそっかす」(2)カラー
	1966年～1967年
	週刊少女フレンド
	講談社
13	「みそっかす」(3)
	1966年～1967年
	週刊少女フレンド
	講談社
14	「みそっかす」(4)
	1966年～1967年
	週刊少女フレンド
	講談社
15	「ユキの太陽」(1) カラー
	1963年
	週刊少女フレンド
	講談社
16	「ユキの太陽」(2) カラー
	1963年
	週刊少女フレンド
	講談社
17	「ユキの太陽」(3) カラー
	1963年
	週刊少女フレンド
	講談社
18	「ユキの太陽」(4) カラー
	1963年
	週刊少女フレンド
	講談社
19	「ユキの太陽」(5) カラー
	1963年
	週刊少女フレンド
	講談社
20	「ジャンボ♥リコ」
	1967年
	週刊少女フレンド
	講談社

21	「アリンコの歌」二色カラー
	1965～1966年
	週刊少女フレンド
	講談社
22	「テレビ天使」
	1968年
	週刊少女フレンド
	講談社
23	「パパのお嫁さん」
	1964年
	週刊マーガレット
	集英社
24	「1・2・3と4・5・ロク」(8)カラー
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
25	「1・2・3と4・5・ロク」(9)カラー
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
26	「1・2・3と4・5・ロク」(10)カラー
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
27	「1・2・3と4・5・ロク」(11)カラー
	1962年1月号～12月号
	少女クラブ
	講談社
28	「リナ」(1)原案：八木基克
	1960～1961年
	少女クラブ
	講談社
29	「リナ」(2) カラー原案：八木基克
	1960～1961年
	少女クラブ
	講談社
30	「リナ」(3) カラー原案：八木基克
	1960～1961年
	少女クラブ
	講談社

31	「ママのバイオリン」(4)二色カラー
	1958年6月号～1959年5月号
	少女クラブ
	講談社
32	「島っ子」
	1964年～1965年
	週刊少女フレンド
	講談社

平田弘史『原画'(ダッシュ)』目録

作品名／発表or連載年／掲載誌／出版社

1	貸本時代作品扉絵 カラー
	年代不明(1958~1960年代)
2	貸本「魔像」表紙画 2色カラー
	年代不明(1958~1960年代)
	『魔像』 日の丸文庫
3	「落城の譜」(1)
	1965年
	士魂物語14
	日の丸文庫
4	「落城の譜」(2)
	1965年
	士魂物語14
	日の丸文庫
5	「落城の譜」(3)
	1965年
	士魂物語14
	日の丸文庫
6	「落城の譜」(4)
	1965年
	士魂物語14
	日の丸文庫
7	「怪力の母」(1) カラー
	1995~1996年
	ミスターマガジン
	講談社
8	「怪力の母」(2) カラー
	1995~1996年
	ミスターマガジン
	講談社
9	「怪力の母」(3)
	1995~1996年
	ミスターマガジン
	講談社
10	「怪力の母」(4)
	1995~1996年
	ミスターマガジン
	講談社

11	「異風女 留伊」カラー
	1993年
	ミスターマガジン
	講談社
12	「弓道士魂」(1)
	1969年~1970年
	少年キング
	少年画報社
13	「弓道士魂」(2)
	1969年~1970年
	少年キング
	少年画報社
14	織田信長推定像
	2009年
	遊歩計 天下統一
	バンダイ
15	武田信玄推定像
	2009年
	遊歩計 天下統一
	バンダイ
16	「薩摩義士伝」(1) 『濃尾入国』 2色カラー
	1977~1982年
	『増刊ヤングコミック』『週刊漫画ゴラク』
	少年画報社／日本文芸社
17	「薩摩義士伝」(2) 『飯盗人』 2色カラー
	1977~1982年
	『増刊ヤングコミック』『週刊漫画ゴラク』
	少年画報社／日本文芸社
18	「薩摩義士伝」(3)
	1977~1982年
	『増刊ヤングコミック』『週刊漫画ゴラク』
	少年画報社／日本文芸社
19	「薩摩義士伝」(4)
	1977~1982年
	『増刊ヤングコミック』『週刊漫画ゴラク』
	少年画報社／日本文芸社
20	「太刀持ち右馬之介」
	1977年2/19号
	増刊ヤングコミック
	少年画報社

21	「秘砲抱え大筒」(1)
	1987年
22	「秘砲抱え大筒」(2)
	1987年
23	「おのれらに告ぐ」(1) 2色カラー
	1968年 1/9号
	コミックMagazine
	芳文社
24	「おのれらに告ぐ」(2) 2色カラー
	1968年
	コミックMagazine
	芳文社
25	「おのれらに告ぐ」(3) 2色カラー
	1968年
	コミックMagazine
	芳文社
26	「刀返し斬法」(1)
	1968年9月24日号
	コミックMagazine
	芳文社
27	「刀返し斬法」(2)
	1968年9月24日号
	コミックMagazine
	芳文社
28	「それがし乞食にあらず」
	1970年
	サンデー毎日増刊号
	毎日新聞社
29	「仕末妻」
	1970年4/9・23号
	現代コミック
	双葉社
30	「首代引受人」 2色カラー
	1973年7/16~11/16号
	劇画ベストセラー
	KKベストセラー

31	「約束手形」(1)
	1971年
	コミックMagazine 芳文社
32	「約束手形」(2)
	1971年
	コミックMagazine
	芳文社

ながやす巧『原画(ダッシュ)』目録

作品名/掲載年号/雑誌/出版社

1	「愛と誠」(1)カラー 原作:梶原一騎 1973年(昭和48年) 少年マガジン 19号 講談社	11	「沙流羅」(2) 予告イラスト 見開き(12と合わせ) 原作:大友克洋 1993年(平成5年) ヤングマガジン 24号 講談社	21	「鉄道員」(6) 原作:浅田次郎 1999年(平成11年) アフタヌーン 9月号 講談社	31	「壬生義士伝」(9) スケッチ 原作:浅田次郎 2004年(平成16年) 準備稿 設定資料
2	「愛と誠」(2)カラー 原作:梶原一騎 1973年(昭和48年) 少年マガジン 53号 講談社	12	「沙流羅」(3) 予告イラスト 見開き(11と合わせ) 原作:大友克洋 1993年(平成5年) ヤングマガジン 24号 講談社	22	「鉄道員」(7) 原作:浅田次郎 1999年(平成11年) アフタヌーン 9月号 講談社	32	「壬生義士伝」(10) スケッチ 原作:浅田次郎 1998年(平成10年) 準備稿 設定資料
3	「愛と誠」(3)カラー 原作:梶原一騎 1974年(昭和49年) 少年マガジン 50号 講談社	13	「沙流羅」(4) 『盗掘の街』 扉絵 カラー 1990年(平成2年) ヤングマガジン 4・5号 講談社	23	「壬生義士伝」(1)カラー 原作:浅田次郎 2007年(平成19年) コミックチャージ 17号 角川書店	33	「鉄道員」(8) スケッチ 原作:浅田次郎 1998年(平成10年) 準備稿 設定資料
4	「愛と誠」(4) 原作:梶原一騎 1975年(昭和49年) 少年マガジン 13号 講談社	14	「沙流羅」(5) 『未来の街』 ⑩扉絵 カラー 2003年(平成16年) ヤングマガジン 16号 講談社	24	「壬生義士伝」(2)カラー 原作:浅田次郎 2007年(平成19年) コミックチャージ 17号 角川書店		
5	「潮騒伝説」(1)カラー 原作:松山善三 1982年(昭和57年) コミクトム 3月号～ 潮出版	15	「その人は昔」 カラー 原作:松山善三 (1974年7月)制作 単行本 表紙画 講談社	25	「壬生義士伝」(3) 原作:浅田次郎 2008年(平成20年) コミックチャージ 角川書店		
6	「潮騒伝説」(2) 原作:松山善三 1982年(昭和57年) コミクトム 4月号 潮出版	16	「鉄道員」(1) カラー 原作:浅田次郎 1999年(平成11年) アフタヌーン 9月号	26	「壬生義士伝」(4) 原作:浅田次郎 2008年(平成20年) コミックチャージ 角川書店		
7	「Dr.クマひげ」(1) 原作:史村翔 1985年(昭和60年) ヤングマガジン 2号 講談社	17	「鉄道員」(2) スケッチ 原作:浅田次郎 1998年(平成10年) 準備稿 スケッチ	27	「壬生義士伝」(5) 原作:浅田次郎 2008年(平成20年) コミックチャージ 角川書店		
8	「Dr.クマひげ」(2) 原作:史村翔 1986年(昭和60年) ヤングマガジン 4号 講談社	18	「鉄道員」(3) カラー 原作:浅田次郎 1999年(平成11年) アフタヌーン 9月号 講談社	28	「壬生義士伝」(6) 原作:浅田次郎 2012年(平成24年) 別冊少年マガジン 3月号 講談社		
9	「Dr.クマひげ」(3)カラー 原作:史村翔 1985年(昭和60年) ヤングマガジン 14号 講談社	19	「鉄道員」(4) カラー 原作:浅田次郎 1999年(平成11年) アフタヌーン 9月号 講談社	29	「壬生義士伝」(7) 原作:浅田次郎 2012年(平成24年) 別冊少年マガジン 3月号 講談社		
10	「沙流羅」(1) 『天使の街』 ⑨ 原作:大友克洋 1992年(平成4年) ヤングマガジン 16号 講談社	20	「鉄道員」(5) 原作:浅田次郎 1999年(平成11年) アフタヌーン 9月号 講談社	30	「壬生義士伝」(8) スケッチ 原作:浅田次郎 2006年(平成18年) 準備稿 設定資料		

村上もとか『原画'(ダッシュ)』目録

作品名/掲載年号/雑誌/出版社

1	「熱風の虎」カラー
	1976年 - 1977年
	週刊少年ジャンプ
	集英社
2	「ドロファイター」
	1979年 - 1981年
	週刊少年サンデー
	小学館
3	「岳人列伝」
	1980年
	少年ビッグコミック(小学館)
	B4
4	「六三四の剣」(1) 2色カラー
	1981年 - 1985年
	週刊少年サンデー
	小学館
5	「六三四の剣」(2)
	1981年 - 1985年
	週刊少年サンデー
	小学館
6	「六三四の剣」(3)
	1981年 - 1985年
	週刊少年サンデー
	小学館
7	「風を抜け!」
	1986年 - 1988年
	週刊少年サンデー
	小学館
8	「獣剣伝説」カラー
	1988年
	ヤングサンデー
	小学館
9	「ヘヴィ」
	1989年 - 1990年
	週刊少年サンデー
	小学館
10	「NAGISA」カラー
	1990年
	ヤングサンデー
	小学館

11	「SIREN」カラー
	1991年
	ヤングサンデー
	小学館
12	「龍-RON-」(1)
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
13	「龍-RON-」(2)
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
14	「龍-RON-」(3) 2色カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
15	「龍-RON-」(4)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
16	「龍-RON-」(5)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
17	「龍-RON-」(6)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
18	「龍-RON-」(7)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
19	「龍-RON-」(8)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
20	「龍-RON-」(9)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館

21	「龍-RON-」(10)カラー
	1991年 - 2006年
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
22	「ミコ・ヒミコ」
	1992年 - 1994年
	小学六年生
	小学館
23	「メロドラマ」(1)カラー
	1998年
	モーニング
	講談社
24	「メロドラマ」(2)
	1998年
	モーニング
	講談社
25	「JIN-仁-」(1)
	2000年 - 2010年
	スーパージャンプ
	集英社
26	「JIN-仁-」(2)カラー
	2000年 - 2010年
	スーパージャンプ
	集英社
27	「JIN-仁-」(3)カラー
	2000年 - 2010年
	スーパージャンプ
	集英社
28	「JIN-仁-」(4)カラー
	2000年 - 2010年
	スーパージャンプ
	集英社
29	「JIN-仁-」(5)カラー
	2000年 - 2010年
	スーパージャンプ
	集英社
30	「JIN-仁-」(6)カラー
	2000年 - 2010年
	スーパージャンプ
	集英社

31	「フィチン再見」(1)
	2013年 -
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
32	「フィチン再見」(2)
	2013年 -
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
33	「フィチン再見」(3)
	2013年 -
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
34	「フィチン再見」(4)
	2013年 -
	ビッグコミックオリジナル
	小学館
35	「フィチン再見」(5)
	2013年 -
	ビッグコミックオリジナル
	小学館

1	「展覧会ポスター カラー」 2012年 企画展《「泉鏡花」という名の幻想(ファンタジー)》 金沢近代文学館
2	「雨柳堂夢咄」(1)カラー 単行本④カバー 1997年 ネムキ 朝日新聞出版
3	「雨柳堂夢咄」(2)カラー 2006年7月号 ネムキ 朝日新聞出版
4	「雨柳堂夢咄」(3)カラー 2001年5月号 ネムキ 朝日新聞出版
5	「雨柳堂夢咄」(4)カラー 単行本⑥カバー 1998年 ネムキ 朝日新聞出版
6	「千波万波」カバー カラー 2010年 朝日新聞出版 朝日新聞出版
7	「レディシノワズリ」カラー 単行本①カバー 2011年 flowers 小学館
8	「蔵のある家」カラー 単行本カバー 2014年 flowers 小学館
9	「パーフェクト・ジェントルマン」(1)カラー 単行本カバー 1988年 プチフラワー 小学館
10	「燕雀庵夜咄」カラー 単行本カバー 1989年 朝日新聞社

11	「真緒の蔭」カラー 1991年11号 Mystery I 清泉社
12	「秋霖の忌」カラー 1991年16号 Mystery I 1991年Vol.16 清泉社
13	「牡丹灯笼」カラー 単行本カバー 1990年 小学館
14	「光の庭・風の立つ影」カ ラー 単行本カバー 1987年 プチフラワー 小学館
15	「バビロンの恋人」カラー 1996年8月 小説麗人 竹書房
16	「レディシノワズリ」カラー 単行本②イラスト 2013年 flowers 小学館
17	「ヴァイルヘルム・某日 九つの 命の魔法」(1)2色カラー 2004年5月号 flowers 小学館
18	「ヴァイルヘルム・某日 九つ の命の魔法」(2)2色カラー 2004年5月号 flowers 小学館
19	「女神さまと私」カラー 単行本①カバー 2009年 flowers 小学館
20	「活字倶楽部」カラー 表紙絵 1997年7月 活字倶楽部 雑草社

21	「玉藻の前」カラー 単行本カバー 2009年 朝日新聞出版
22	「夜叉ヶ池(鏡花夢幻)」(1) 1994年22号 眠れぬ夜の奇妙な話 朝日ソノラマ
23	「夜叉ヶ池(鏡花夢幻)」(2) 1994年22号 眠れぬ夜の奇妙な話 朝日ソノラマ
24	「雨柳堂夢咄」(5) 1991年2号 眠れぬ夜の奇妙な話 朝日ソノラマ
25	「雨柳堂夢咄」(6) 1991年2号 眠れぬ夜の奇妙な話 朝日ソノラマ
26	「異国の花守」(1) 1995年11月号 プチフラワー 小学館
27	「異国の花守」(2) 1995年11月号 プチフラワー 小学館
28	「化鳥」 2005年4号 幽 メディアファクトリー
29	「パーフェクト・ジェントルマン」(2) 1988年6月号 プチフラワー 小学館
30	「雨柳堂夢咄」(7) <31と合わせて見開き> 2007年1月号 ネムキ 朝日新聞出版

31	「雨柳堂夢咄」(8) <30と合わせて見開き> 2007年1月号 ネムキ 朝日新聞出版
----	---

メディア掲載リスト・記事一覧

メディア(新聞、雑誌、TV、WEB等)記事掲載件数

単位(件)

	2011年度 平成23年度	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度	合 計
TV	12	7	7	2	7	35
ラジオ	8	5	8	2	2	25
新聞	124	100	72	73	41	410
雑誌/情報誌	121	52	74	77	33	357
WEB	87	58	94	81	40	360
その他(海外メディア含む)	11	2	5	3	3	24
合 計	363	224	260	238	126	1211

2011年度 内訳

20130919作成(中村)

TV

1	能越ケーブルネット 週間ニュース ひみ	4月3日	●出張ワークショップ
2	KBS京都 ほじボジたまご	5月4日	●山田章博展
3	KBS京都 京のまち	6月19日	●模国かずおイベント開催告知
4	NHK MAGネット	7月9日	●吉田戦車イベント
5	MBS ちんぷいぷい	10月28日	●赤塚不二夫マンガ大学展
6	NHK おはよう日本	11月15日	●赤塚不二夫マンガ大学展
7	NHK おはよう日本	11月18日	●赤塚不二夫マンガ大学展
8	KBS京都 京のまち	11月27日	●少女マンガの世界 原画ダッシュ10年の軌跡
9	KBS京都 ほじボジたまご	2月22日	●KyotoMaGiC
10	KBS京都 やのぼんの生活情報部	2月22日	●その他
11	NHK京都 京610	3月22日	●マグニチュード・ゼロ
12	NHK ニュースウォッチ9	3月23日	●マグニチュード・ゼロ

ラジオ

13	エフエム京都 SUNNY SIDE BOLCONY	4月19日	●マンガクッキング
14	エフエム京都 SUNNY SIDE BOLCONY	4月25日	●マンガクッキング 他 KMF2011
15	KBS京都 桂塩鯛のサークルタウン 桂まん私のラジオカー中継	5月7日	●ベルサイユのバラ特別展、原画展、山田展、
16	ラジオ大阪 ちよっとお出かけ！新・発・見	10月16日	●赤塚不二夫マンガ大学展
17	エフエム京都 αモーニング京都	10月27日	●赤塚不二夫マンガ大学展
18	NHKラジオ第一 NHKジャーナル	10月31日	●赤塚不二夫マンガ大学展(ネオ狂言)
19	KBS京都 桂塩鯛のサークルタウン 桂まん私のラジオカー中継	11月5日	●赤塚不二夫マンガ大学展
20	KBS京都 森谷威夫のお世話になります！！	3月5日	●マグニチュード・ゼロ

新聞

21	京都新聞 日版	4月1日	●池田理代子 ベルサイユのばら原画展
22	読売新聞	4月1日	●赤塚不二夫を語るのだ!!
23	朝日新聞	4月9日	●池田理代子 ベルサイユのばら原画展
24	中日新聞	4月10日	●池田理代子 ベルサイユのばら原画展
25	朝日新聞	4月13日	●池田理代子 ベルサイユのばら原画展
26	京都新聞	4月19日	●マンガクッキング 事前告知
27	京都新聞	4月25日	●マンガクッキング 当日
28	朝日新聞	4月25日	●マンガクッキング 当日
29	朝日新聞	4月7日	●研究室執筆コラム
30	朝日新聞	4月14日	●研究室執筆コラム
31	朝日新聞	4月21日	●研究室執筆コラム
32	朝日新聞	4月28日	●研究室執筆コラム
33	京都新聞	5月1日	●池田理代子 ベルサイユのばら原画展 ●山田章博展
34	高知新聞	5月1日	●山田章博展
35	朝日新聞	5月25日	●山田章博展
36	中日新聞	5月22日	●山田章博展
37	京都新聞	5月15日	●模国かずおイベント
38	読売新聞	5月10日	●マンガクッキング 当日
39	朝日新聞	5月20日	●吉田戦車イベント
40	産経新聞	5月30日	●吉田戦車イベント
41	朝日新聞	5月12日	●研究室執筆コラム
42	朝日新聞	5月19日	●研究室執筆コラム
43	朝日新聞	5月26日	●研究室執筆コラム
44	京都新聞	6月1日	●山田章博展
45	中日新聞	6月2日	●模国かずおイベント
46	京都新聞	6月2日	●吉田戦車展示
47	朝日新聞	6月2日	●研究室執筆コラム
48	毎日新聞	6月4日	●模国かずおイベント
49	朝日新聞	6月4日	●五人五色展
50	朝日新聞	6月9日	●研究室執筆コラム
51	京都新聞	6月11日	●五人五色展
52	朝日新聞	6月16日	●研究室執筆コラム
53	朝日新聞	6月23日	●研究室執筆コラム
54	朝日新聞	6月30日	●研究室執筆コラム
55	朝日新聞	7月7日	●研究室執筆コラム
56	朝日新聞	7月14日	●研究室執筆コラム
57	朝日新聞	7月21日	●研究室執筆コラム
58	朝日新聞	7月28日	●研究室執筆コラム
59	京都新聞 1日版	8月1日	●仮面ライダー アートギャラリー展
60	朝日新聞	8月4日	●研究室執筆コラム
61	朝日新聞	8月11日	●研究室執筆コラム
62	京都新聞	8月14日	●マンガ雑誌が読める部屋
63	朝日新聞 夕刊	8月17日	●マンガカフェ「お坊さんマンガの世界」
64	赤旗新聞	8月17日	●原画ダッシュ東京展
65	朝日新聞	8月18日	●研究室執筆コラム
66	朝日新聞	8月25日	●研究室執筆コラム
67	読売新聞 夕刊	8月27日	●入門マンガ学 吉村さんインタビュー対応記事
68	朝日新聞	9月1日	●研究室執筆コラム
69	朝日新聞	9月8日	●研究室執筆コラム
70	朝日新聞	9月15日	●研究室執筆コラム
71	朝日新聞	9月22日	●研究室執筆コラム
72	京都新聞	9月24日	●対決！まんが王国！展
73	毎日新聞	9月25日	●対決！まんが王国！展
74	読売新聞	9月28日	●対決！まんが王国！展
75	朝日新聞	9月28日	●対決！まんが王国！展
76	産経新聞	9月29日	●マンガ雑誌が読める部屋
77	朝日新聞	9月29日	●研究室執筆コラム
78	毎日新聞	10月4日	●対決！まんが王国！展
79	朝日新聞	10月6日	●研究室執筆コラム
80	京都新聞	10月12日	●13人のドイツコミック作家展
81	朝日新聞	10月13日	●研究室執筆コラム
82	朝日新聞	10月17日	●赤塚不二夫マンガ大学展
83	朝日新聞	10月20日	●研究室執筆コラム
84	京都新聞	10月23日	●赤塚不二夫マンガ大学展
85	朝日新聞	10月27日	●研究室執筆コラム
86	京都新聞	10月29日	●赤塚不二夫マンガ大学展
87	京都新聞 夕刊	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
88	京都新聞 1日版	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
89	朝日新聞	11月5日	●赤塚不二夫マンガ大学展
90	朝日新聞	11月11日	●長谷邦夫講演会「ギャグマンガクロナル」
91	京都新聞	11月15日	●赤塚不二夫マンガ大学展

雑誌・情報誌

92	毎日小学生新聞	11月15日	●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展
93	朝日新聞夕刊A+1	11月16日	●赤塚不二夫マンガ大学展
94	京都新聞	11月18日	●長谷邦夫講演会「ギャグマンガクロニクル」
95	京都新聞	11月25日	●赤塚不二夫マンガ大学
96	朝日新聞	11月25日	●越境する カワイイ! 可愛い! Kawaii!
97	毎日新聞	11月27日	●少女マンガの世界
98	朝日新聞	11月17日	●研究室執筆コラム
99	朝日新聞	11月24日	●研究室執筆コラム
100	中日新聞	11月27日	●赤塚不二夫マンガ大学展
101	朝日新聞	11月28日	●被曝の現実 漫画に託す
102	赤旗新聞	12月4日	●赤塚不二夫マンガ大学展
103	京都新聞夕刊	12月5日	●少女マンガの世界
104	京都新聞	12月8日	●赤塚不二夫マンガ大学展
105	日本経済新聞	12月13日	●原画ダッシュプロジェクト10年を振り返って
106	毎日新聞夕刊	12月14日	●赤塚不二夫マンガ大学展
107	朝日新聞夕刊A+1	12月14日	●赤塚不二夫マンガ大学展
108	産経新聞	12月22日	●アートの社会的有用性
109	朝日新聞	12月23日	●マンガスタイル・ノースアメリカ展
110	朝日新聞	12月1日	●研究室執筆コラム
111	朝日新聞	12月8日	●研究室執筆コラム
112	朝日新聞	12月15日	●研究室執筆コラム
113	朝日新聞	12月22日	●研究室執筆コラム
114	読売新聞	1月5日	●少女マンガの世界
115	朝日新聞	1月5日	●研究室執筆コラム
116	京都新聞	1月8日	●赤塚不二夫マンガ大学展の福永信の記事について
117	中日新聞	1月8日	●少女マンガの世界
118	京都新聞	1月10日	●マンガスタイル・ノースアメリカ展
119	朝日新聞	1月12日	●研究員執筆コラム
120	京都新聞	1月15日	●マンガスタイル・ノースアメリカイベント
121	朝日新聞	1月19日	●研究員執筆コラム
122	朝日新聞	1月20日	●少女マンガの世界
123	京都新聞	1月23日	●アートの社会的有用性
124	夕刊フジ	1月25日	●マンガスタイル・ノースアメリカイベント
125	毎日新聞夕刊	1月28日	●原画ダッシュ作品の海外巡回
126	朝日新聞	1月26日	●研究員執筆コラム
127	夕刊フジ	1月31日	●マンガスタイル・ノースアメリカイベント
128	朝日新聞	2月2日	●研究員執筆コラム
129	朝日新聞	2月9日	●研究員執筆コラム
130	月刊ウエンディ	2月15日	●原画ダッシュ
131	朝日新聞	2月16日	●研究員執筆コラム
132	朝日新聞	2月23日	●研究員執筆コラム
133	京都新聞	2月23日	●原画ダッシュ
134	朝日新聞	2月24日	●マグニチュード・ゼロ
135	朝日新聞	3月1日	●研究員執筆コラム
136	京都新聞	3月6日	●マグニチュード・ゼロ
137	朝日新聞	3月8日	●研究員執筆コラム
138	中日新聞	3月11日	●マグニチュード・ゼロ
139	朝日新聞 夕刊	3月13日	●マグニチュード・ゼロ
140	京都新聞 夕刊	3月13日	●LLマンガ研究について吉村センター長コメント
141	朝日新聞	3月22日	●研究員執筆コラム
142	朝日新聞	3月23日	●Kyoto MaGiC
143	読売新聞	3月29日	●Kyoto MaGiC
144	朝日新聞	3月29日	●研究員執筆コラム
145	月刊Yomiっこ 5月号 vol.113	3月25日	●原画「展示シリーズ わたなべまさこと花郁悠紀子 幻想の旅
146	月刊Yomiっこ 4月号	4月1日	●わたなべまさこと花郁悠紀子 幻想の旅
147	スルッと関西 遊びマップ	4月1日	●わたなべまさこと花郁悠紀子
148	ウーマンライフ 草津版	4月8日	●赤塚不二夫のことを語るのだ!!
149	Quanto5月号	5月1日	●山田章博展
150	市民しんぶん5月号	5月1日	●山田章博展
151	Discover Japan 6月号	5月6日	●研究員監修。元気になるマンガ特集
152	GALAC5月号	5月6日	●伊藤遊研究員執筆
153	ウーマンライフ 京都北版	5月20日	●模図かずおイベント
154	Kyoto Style 6月号	5月29日	●模図かずおイベント
155	月刊Yomiっこ6月号 vol.114	6月1日	●山田章博展
156	ハイパーホビー 6月号	6月1日	●池田理代子 ベルサイユのぼら原画展 ●わたなべまさこと花郁悠紀子 幻想の旅 ●山田章博展
157	Quanto6月号	6月1日	●山田章博展
158	京都ぼど	6月1日	●模図かずおイベント
159	市民しんぶん6月号	6月1日	●山田章博展
160	ウーマンライフ 京都南版 vol.113	6月3日	●ミュージアム入場料改定について
161	リビング京都 中央	6月4日	●吉田戦車イベント
162	GALAC6月号	6月6日	●倉持研究員執筆
163	ウーマンライフ 草津版 vol.85	6月10日	●模図かずおイベント
164	ウーマンライフ 阪神版 vol.124	6月10日	●模図かずおイベント
165	ウーマンライフ 京都北版 vol.77	6月17日	●五人五色展
166	ウーマンライフ 姫路版 vol.125	6月23日	●五人五色展
167	ウーマンライフ 京阪北版 vol.146	6月23日	●五人五色展
168	ぱふ	7月1日	●山田章博展 ●模図かずおイベント
169	Quanto 7月号	7月1日	●吉田戦車イベント ●池田理代子 ベルサイユのぼら展 ●原画ダッシュ展
170	ハイパーホビー 7月号	7月1日	●山田章博展 ●吉田戦車イベント ●五人五色展 ●模図かずおイベント
171	季刊エス 7月号	7月1日	●山田章博展
172	Richer 8月号	7月5日	●坂面ライター アートギャラリー展 ●赤塚不二夫展
173	GALAC7月号	7月6日	●猪俣研究員執筆
174	ネムキ★7月号 vol.125	7月13日	●五人五色展
175	GALAC8月号	8月6日	●吉村和真先生執筆
176	ハイパーホビー9月号	9月1日	●坂面ライター アートギャラリー展 ●原画ダッシュ東京展

177	市民しんぶん	9月1日	●ニュー・フランジュKYOTO ●MM施設(学生記者取材) ●仮面ライダー アートギャラリー展 ●13人のドイツ・コミック作家展 ●対決! まんが王国! 展
178	GOGO土曜塾	9月1日	●仮面ライダー アートギャラリー展 ●13人のドイツ・コミック作家展 ●対決! まんが王国! 展
179	GALAC9月号	9月6日	●伊藤研究員執筆
180	シティリビング	9月9日	●13人のドイツコミック作家展
181	Quanto 10月号	10月1日	●13人のドイツコミック作家展
182	ハイパーホビー10月号	10月1日	●13人のドイツコミック作家展
183	GOGO土曜塾10月号	10月1日	●13人のドイツ・コミック作家展 ●対決! まんが王国! 展 ●国民文化祭 マンガアートフェスティバル
184	ガクシン10月号	10月1日	●13人のドイツコミック作家展
185	月刊Yomiっこ 10月号 vol.118	10月1日	●13人のドイツコミック作家展
186	Meets Regional 11月号	10月1日	●対決! まんが王国! 展
187	ホットベツバー 10月号	10月1日	●13人のドイツコミック作家展
188	Yomiっこ 11月号	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展 ●13人のドイツコミック作家展
189	関西ウォーカー 10月5日~10月18日号	10月5日	●カフェ「えむえむ」
190	GALAC10月号	10月6日	●倉持研究員執筆
191	関西ウォーカー 10月19日号~11月1日	10月18日	●赤塚不二夫マンガ大学展(国民文化祭)
192	SAVVY 12月号	10月22日	●赤塚不二夫マンガ大学展
193	Leaf 12月号	10月25日	●赤塚不二夫マンガ大学展
194	Numero TOKYO2011	10月28日	●赤塚不二夫マンガ大学展
195	Quanto 11月号	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展 ●赤塚不二夫マンガ大学展 ●対決! まんが王国! 展
196	ハイパーホビー11月号	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展 ●赤塚不二夫マンガ大学展 ●対決! まんが王国! 展
197	市民しんぶん11月号	11月1日	●少女マンガの世界 ●メディア芸術祭京都 パラレルワールド
198	GOGO土曜塾11月号	11月1日	●メディア芸術祭京都展 ●国民文化祭2011 マンガアートフェスティバル
199	K PRESS 11月号	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
200	Meets Regional 12月号	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
201	Yomiっこ 12月号	11月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
202	関西ウォーカー 11月2日~11月15日	11月2日	●赤塚不二夫マンガ大学展(ネオ狂言)
203	サンデー毎日	11月6日	●赤塚不二夫マンガ大学展
204	GALAC11月号	11月6日	●猪俣研究員執筆
205	コンプティーク 12月号	11月10日	●赤塚不二夫マンガ大学展
206	カジカジ 11 12	11月11日	●少女マンガの世界
207	go baan 105	11月15日	●赤塚不二夫マンガ大学展
208	オトナファミ	11月20日	●赤塚不二夫マンガ大学展
209	HOT PEPPER 12月号	11月25日	●赤塚不二夫マンガ大学
210	ザ・淀川	11月25日	●少女マンガの世界
211	リビング京都 中央	11月26日	●少女マンガの世界
212	Numero TOKYO1・2合併号	11月28日	●赤塚不二夫マンガ大学展
213	装苑1	11月28日	●赤塚不二夫マンガ大学
214	Pretty	11月28日	●少女マンガの世界
215	京阪神の近くて、いい旅 電車&ウォーク 12月号	11月	●赤塚不二夫マンガ大学
216	旅こよみ 12月号	11月	●赤塚不二夫マンガ大学
217	ハイパーホビー12月号	12月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展 ●少女マンガの世界
218	KPRESS 12月号	12月1日	●赤塚不二夫マンガ大学 ●少女マンガの世界
219	Yomiっこ 1月号	12月1日	●マンガスタイル・ノースアメリカ
220	おふたいむ 1月号	12月1日	●少女マンガの世界
221	ガクシン1月号	12月1日	●少女マンガの世界
222	GALAC12月号	12月6日	●吉村和真先生執筆
223	NHKステラ 12月3日~9日	12月9日	●赤塚不二夫マンガ大学展
224	関西ウォーカー 12月7日~20日号	12月7日	●赤塚不二夫マンガ大学展
225	Ginza 1月号	12月12日	●赤塚不二夫マンガ大学展
226	週刊金曜日	12月16日	●赤塚不二夫マンガ大学展
227	リビング京都	12月17日	●マンガスタイル・ノースアメリカ
228	AERA 12月19日号	12月19日	●「けいおん!」についての伊藤研究員のインタビュー
229	女性自身 1月3・10日 合併号	12月20日	●食マンガについて伊藤研究員コメント
230	関西ウォーカー 12月21日~1月5日	12月21日	●マンガスタイル・ノースアメリカ ●マンガスタイル・ノースアメリカ
231	市民しんぶん1月号	1月1日	●開館5周年記念入場料割引キャンペーン
232	Quanto 1月号	1月1日	●少女マンガの世界
233	ハイパーホビー 1月号	1月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
234	KPRESS1月号	1月1日	●少女マンガの世界
235	MeetsRegional 2月号	1月4日	●少女マンガの世界
236	関西ウォーカー 1月5日~1月24日号	1月5日	●マンガスタイル・ノースアメリカ
237	GALAC1月号	1月6日	●伊藤遊研究員執筆
238	シティリビング 1/20号	1月20日	●マンガスタイル・ノースアメリカ
239	ホットベツバー 2月号	1月28日	●マンガスタイル・ノースアメリカ
240	ハイパーホビー2月号	2月1日	●少女マンガの世界
241	月刊Yomiっこ 2月号	2月1日	●マンガスタイル・ノースアメリカ
242	GALAC2月号	2月6日	●倉持研究員執筆
243	関西ウォーカー 3月29日~3月13日	2月29日	●マグニチュード・ゼロ
244	市民しんぶん3月号	3月1日	●Kyoto MaGiC ●マグニチュード・ゼロ/絵師100人展 京都篇/食マンガ
245	リビング京都中央	3月3日	●マグニチュード・ゼロ
246	GALAC3月号	3月6日	●猪俣研究員執筆
247	SPRING 4月号	3月23日	●マグニチュード・ゼロ
248	ファミリーウォーカー 春号	3月24日	●MM施設 ●Kyoto MaGiC
249	Numero TOKYO May	3月28日	●マグニチュード・ゼロ
250	Kyoto Vistors Guide April	4月1日	●池田理代子 ベルサイユのばら原画展 ●わたなべまさこと花都悠紀子
251	香港 信報	8月18日	●岩下研究員寄稿記事
252	Kyoto Vistors Guide November	11月	●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展
253	Japan Times	3月1日	●マグニチュード・ゼロ
254	Japan Times	3月8日	●マグニチュード・ゼロ
255	NHKworld	3月22日	●マグニチュード・ゼロ
256	la Croix	3月13日	●マグニチュード・ゼロ
257	横山隆一記念館HP	4月1日	●山田章博展

Web

258	DigiStyle 京都	4月1日	●山田章博展
259	インドア派の外歩きガイド	4月3日	●赤塚不二夫を語るのだ!!
260	京都で遊ぼうArt	4月7日	●赤塚不二夫を語るのだ!!
261	メイドイン京都	4月9日	●赤塚不二夫を語るのだ!!
262	ドコモコンシェル	4月7日	●赤塚不二夫を語るのだ!!
263	DigiStyle 京都	4月15日	●マンガクッキング
264	コミックナタリー	4月12日	●マンガクッキング
265	コミックナタリー	4月10日	●山田章博展
266	京都おでかけミュージアム	5月2日	●山田章博展
267	DigiStyle 京都	5月13日	●榎図かずおイベント
268	じゃらんネット	5月10日	●山田章博展
269	JRおでかけネット	5月10日	●山田章博展
270	京都で遊ぼうArt	5月30日	●五人五色展
271	京都で遊ぼうArt	5月30日	●吉田戦車イベント
272	Yahoo!地域情報	5月10日	●山田章博展
273	朝日.com	5月27日	●五人五色展
274	コミックナタリー	5月19日	●吉田戦車イベント
275	コミックナタリー	5月23日	●五人五色展
276	デイリーポータルZ	5月9日	●マンガクッキング
277	京都新聞ウェブ	6月2日	●吉田戦車イベント
278	コミックナタリー	6月9日	●榎図かずおイベント
279	京都新聞ウェブ	6月11日	●五人五色展
280	DigiStyle京都	6月28日	●仮面ライダー アートギャラリー展
281	DigiStyle京都	8月19日	●ドイツコミック作家展
282	DigiStyle京都	8月22日	●すがやみつるトークショー
283	コミックナタリー	8月16日	●原画ダッシュ東京展
284	学研 広報ブログ	8月10日	●原画ダッシュ東京展
285	漫画家協会	8月22日	●原画ダッシュ東京展
286	新宿経済新聞	8月17日	●原画ダッシュ東京展
287	Yahoo!地域情報	8月17日	●原画ダッシュ東京展
288	学研 広報ブログ	8月26日	●原画ダッシュ東京展
289	京都で遊ぼうArt	9月5日	●ドイツコミック作家展
290	日本漫画家協会HP	9月5日	●対決! まんが王国展
291	ドコモコンシェル	9月22日	●対決! まんが王国展
292	アニメ! アニメ!	9月1日	●ドイツコミック作家展
293	DigiStyle 京都	9月11日	●対決! まんが王国展
294	アニメ! アニメ!	9月13日	●赤塚不二夫マンガ大学展
295	DigiStyle 京都	9月13日	●赤塚不二夫マンガ大学展
296	コミックナタリー	9月22日	●対決! まんが王国展
297	日本漫画家協会HP	9月26日	●赤塚不二夫マンガ大学展
298	Fashionsnap.com	9月21日	●赤塚不二夫マンガ大学展
299	文化庁メディア芸術プラザ	9月27日	●対決! まんが王国展
300	asahi.com	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
301	coca cola park	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
302	excite	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
303	nifty 旅行	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
304	日本旅行	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
305	OCN 全国おでかけ情報	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
306	おでかけ旅ガイド	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
307	Yahoo!地域情報	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
308	myfavoritekansai	10月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
309	フジオ・プロ HP	10月4日	●赤塚不二夫マンガ大学展
310	Leaf ウェブ	10月18日	●赤塚不二夫マンガ大学展
311	DigiStyle京都	10月20日	●少女マンガの世界 原画ダッシュ10年の軌跡
312	DigiStyle京都	10月21日	●長谷邦夫講演会
313	kalonsenet	10月21日	●赤塚不二夫マンガ大学展
314	kalonsenet	10月21日	●赤塚不二夫マンガ大学展
315	riffigin magazine kyoto	10月6日	●赤塚不二夫マンガ大学展
316	インターネットミュージアム	10月25日	●赤塚不二夫マンガ大学展
317	Lmaga.jp	10月26日	●赤塚不二夫マンガ大学展
318	るるぶmobile	11月4日	●赤塚不二夫マンガ大学展
319	ドコモコンシェル	11月24日	●少女マンガの世界 原画(ダッシュ)10年の軌跡
320	Qnic	11月11日	●赤塚不二夫マンガ大学展
321	京都で遊ぼうArt	11月17日	●長谷邦夫講演会
322	cinra.net	11月22日	●赤塚不二夫マンガ大学展
323	livedoor	11月23日	●マンガスタイル ノースアメリカ
324	livedoor	11月23日	●少女マンガの世界
325	ocn 大人の趣味生活	11月23日	●マンガスタイル ノースアメリカ
326	ギャラリー中野ブログ	11月25日	●少女マンガの世界
327	DigiStyle 京都	11月28日	●マンガスタイル ノースアメリカ
328	メディア芸術カレントコンテンツ	12月2日	●マンガスタイル ノースアメリカ
329	アニメ! アニメ!	12月11日	●マンガスタイル ノースアメリカ
330	artgene	12月13日	●少女マンガの世界
331	JRおでかけネット	12月24日	●マンガスタイル ノースアメリカ
332	京都で遊ぼうArt	12月27日	●マンガスタイル ノースアメリカ
333	Lmaga.jp	12月28日	●マンガスタイル ノースアメリカ
334	コミックナタリー	1月12日	●マンガスタイル ノースアメリカ
335	DigiStyle 京都	2月9日	●マグニチュード・ゼロ
336	鳥丸経済新聞	2月15日	●マグニチュード・ゼロ
337	日本漫画家協会HP	2月17日	●食マンガイベント
338	フランス人ジャーナリストブログ	2月20日	●マグニチュード・ゼロ
339	cinra.net	2月23日	●マグニチュード・ゼロ
340	digiStyle 京都	2月27日	●食マンガイベント
341	京都で遊ぼうアート	3月1日	●マグニチュード・ゼロ
342	ドコモコンシェル	3月1日	●マグニチュード・ゼロ
343	京都で遊ぼうアート	3月3日	●マグニチュード・ゼロ
344	文化庁メディア芸術プラザ	3月5日	●マグニチュード・ゼロ
345	Lmaga.jp	3月6日	●マグニチュード・ゼロ
346	コミックナタリー	3月6日	●マグニチュード・ゼロ
347	コミックナタリー	3月7日	●食マンガイベント
348	読むナビ	3月16日	●マグニチュード・ゼロ
349	インターネットミュージアム	3月21日	●マグニチュード・ゼロ
350	JRおでかけネット	3月30日	●マグニチュード・ゼロ
351	じゃらんネット	3月30日	●マグニチュード・ゼロ
352	Yahoo!地域情報	3月30日	●マグニチュード・ゼロ
353	広報ひみ5月号	4月末	●広見市出張ワークショップ

その他

354	第26回国民文化祭・京都2011	8月22日～	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展 ●対決！まんが王国！展 ●13人のドイツ・コミック作家展 ●メディア芸術祭京都「パラレルワールド・京都」 ●Kyoto CMEX 2011
355	東京都電機健康保険組合	8月31日	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展 ●対決！まんが王国！展
356	京阪 みやこ漫遊チケット	9月中頃	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展
357	秋休み 家族でエンジョイ ガイドブック 2011	9月	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●13人のドイツ・コミック作家展 ●赤塚不二夫マンガ大学展 ●対決！まんが王国！展
358	おいけフェスタ2011 パンフレット	10月中頃	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展(国文祭)
359	京都府発行 国民文化祭2011冊子	10月	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●赤塚不二夫マンガ大学展(国文祭)
360	京都市交通局発行「沿線だより」	12月	●赤塚不二夫マンガ大学展
361	Friendly December 2011	12月1日	●赤塚不二夫マンガ大学展
362	日独交流150周年記念冊子	12月	<ul style="list-style-type: none"> ●MM施設 ●日マン独イベント
363	SELECT CUBE 2012 SPRING Vol.11	3月末	●マグニチュード・ゼロ

TV

1	KBS京都 京のまち	7月8日	●LLマンガ研究会
2	山陰放送 ニュース	7月15日	●鳥取わらべ館でのマンガ家アシスタントWS
3	NHK鳥取 ニュース	7月15日	●鳥取わらべ館でのマンガ家アシスタントWS
4	山陰放送 午後7時～8時からの放送内	8月8日	●国際まんが博(鳥取市)「原画ダッシュコーナー」紹介
5	山陰中央テレビ 午前10時30分～の放送内	9月29日	●国際まんが博(鳥取市)「原画ダッシュコーナー」紹介
6	KBS京都 ニュース	11月11日	●レジス・ロワゼル×エマニュエル・ルパージュ～フランス・コミックスの世界
7	NHK京都 京いちにち おでかけライブコーナー	3月6日	●スケッチラベル展

ラジオ

8	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	4月7日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
9	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	6月2日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
10	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	8月25日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
11	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	10月20日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
12	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	12月1日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー

新聞

13	大阪民主新報	4月1日	●マグニチュード・ゼロ
14	朝日新聞	4月5日	●研究員執筆コラム
15	朝日新聞	4月12日	●研究員執筆コラム
16	朝日新聞 夕刊	4月17日	●小池一夫トークショー キャラクターマンガの神髄
17	京都新聞	4月18日	●マンガクッキング
18	朝日新聞	4月19日	●研究員執筆コラム
19	中日新聞	4月22日	●小池一夫トークショー キャラクターマンガの神髄
20	北海道新聞 夕刊	4月23日	●マグニチュード・ゼロ
21	京都新聞	4月25日	●小池一夫トークショー キャラクターマンガの神髄
22	朝日新聞	4月26日	●小池一夫トークショー キャラクターマンガの神髄
23	中日新聞	4月26日	●研究員執筆コラム
24	朝日新聞	4月26日	●研究員執筆コラム
25	朝日新聞 夕刊 A+1	5月2日	●マグニチュード・ゼロ
26	夕刊フジ	5月2日	●マンガクッキング
27	朝日新聞	5月10日	●研究員執筆コラム
28	朝日新聞(夕刊)	5月16日	●フランス・ボンビドゥセンターのWSと展示参加猪俣研究員執筆記事
29	朝日新聞	5月17日	●研究員執筆コラム
30	中日新聞	5月24日	●研究員執筆コラム
31	朝日新聞	5月24日	●研究員執筆コラム
32	京都新聞	5月29日	●ジェラルディン・コジアック展
33	朝日新聞	5月31日	●研究員執筆コラム
34	京都新聞	6月4日	●国際学術会議
35	朝日新聞	6月7日	●研究員執筆コラム
36	京都新聞	6月8日	●杉井ギサブロー「グスコープドリの伝記」試写会
37	京都新聞	6月11日	●杉井ギサブロー「グスコープドリの伝記」試写会
38	朝日新聞	6月14日	●研究員執筆コラム
39	中日新聞	6月19日	●伊藤研究員へのインタビュー
40	朝日新聞	6月21日	●研究員執筆コラム
41	朝日新聞	6月28日	●研究員執筆コラム
42	中日新聞	6月28日	●研究員執筆コラム
43	朝日新聞	7月5日	●研究員執筆コラム
44	京都新聞	7月10日	●第4回国際学術会議
45	朝日新聞	7月12日	●研究員執筆コラム
46	京都新聞 夕刊	7月13日	●ジェラルディン・コジアック展 ●えむえむ夏休みマンガ自由研究
47	朝日新聞	7月27日	●研究員執筆コラム
48	中日新聞	7月26日	●研究員執筆コラム
49	公明新聞	8月1日	●アニメーション監督 杉井ギサブローの世界展
50	朝日新聞	8月2日	●研究員執筆コラム
51	朝日新聞	8月9日	●研究員執筆コラム
52	朝日新聞 夕刊	8月15日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
53	朝日新聞 夕刊	8月16日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
54	朝日新聞	8月16日	●研究員執筆コラム
55	京都新聞 夕刊	8月17日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
56	京都新聞	8月19日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
57	毎日新聞	8月19日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
58	朝日新聞	8月23日	●研究員執筆コラム
59	中日新聞	8月23日	●研究員執筆コラム
60	京都新聞 夕刊	8月25日	●荻原征弥・ベルネ原画展
61	熊本日日新聞	8月27日	●熊本近代文学館でのシンポジウム(吉村さん出演)
62	読売新聞	8月27日	●入門漫画学
63	山陽新聞	8月30日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
64	朝日新聞	8月30日	●研究員執筆コラム
65	京都新聞 夕刊	8月31日	●荻原征弥・ベルネ原画展
66	京都新聞 1日版	9月1日	●荻原征弥・ベルネ原画展 ●ガイナックス流アニメ作法
67	朝日新聞	9月6日	●研究員執筆コラム
68	朝日新聞	9月13日	●研究員執筆コラム
69	朝日新聞	9月20日	●研究員執筆コラム
70	中日新聞	9月27日	●研究員執筆コラム
71	朝日新聞	9月27日	●研究員執筆コラム
72	朝日新聞	10月11日	●研究員執筆コラム
73	朝日新聞	10月18日	●研究員執筆コラム
74	朝日新聞	10月25日	●研究員執筆コラム
75	中日新聞	10月25日	●研究員執筆コラム
76	朝日新聞	11月1日	●研究員執筆コラム
77	朝日新聞	11月8日	●研究員執筆コラム
78	朝日新聞	11月15日	●研究員執筆コラム
79	産経新聞(東京版)	11月22日	●震災マンガについての倉持研究員対応
80	朝日新聞	11月22日	●研究員執筆コラム
81	中日新聞	11月22日	●研究員執筆コラム
82	朝日新聞	11月29日	●研究員執筆コラム
83	朝日新聞	12月6日	●研究員執筆コラム
84	朝日新聞	12月20日	●研究員執筆コラム
85	朝日新聞	12月13日	●研究員執筆コラム
86	毎日新聞	12月26日	●中沢啓治さん死去について吉村さんコメント
87	中国新聞	12月26日	●中沢啓治さん死去について吉村さんコメント
88	読売新聞	12月27日	●中沢啓治さん死去について吉村さんコメント
89	朝日新聞	12月27日	●研究員執筆コラム
90	中日新聞	12月27日	●研究員執筆コラム
91	朝日新聞	1月10日	●研究員執筆コラム

雑誌・情報誌

92	京都新聞	1月26日	●猪俣研究員インタビュー
93	朝日新聞	1月17日	●研究員執筆コラム
94	朝日新聞	1月24日	●研究員執筆コラム
95	朝日新聞	1月31日	●研究員執筆コラム
96	中日新聞	1月24日	●研究員執筆コラム
97	朝日新聞	2月7日	●研究員執筆コラム
98	朝日新聞	2月14日	●研究員執筆コラム
99	朝日新聞	2月21日	●研究員執筆コラム
100	中日新聞	2月28日	●研究員執筆コラム
101	朝日新聞	2月28日	●研究員執筆コラム
102	朝日新聞	3月7日	●研究員執筆コラム
103	京都新聞	3月15日	●スケッチトラベル展
104	朝日新聞	3月14日	●研究員執筆コラム
105	朝日新聞	3月21日	●研究員執筆コラム
106	毎日新聞	3月21日	●堀江信彦氏講演会
107	朝日新聞夕刊	3月27日	●寺田克也ココ10年展
108	京都新聞	3月31日	●マンガクッキング6杯目
109	朝日新聞	3月28日	●研究員執筆コラム
110	中日新聞	3月28日	●研究員執筆コラム
111	京都新聞	3月29日	●寺田克也ココ10年展
112	朝日新聞	3月29日	●研究員執筆コラム
113	ハイパーホビー 4月号	4月1日	●マグニチュード・ゼロ
114	GALAC4月号	4月6日	●伊藤研究員執筆
115	モルゲン	4月9日	●マグニチュード・ゼロ
116	市民しんぶん5月号	5月1日	●めざせ！イラストレーター ●京都北山吹奏楽演奏会 ●ジュラルディン・コジアック展
117	ハイパーホビー5月号	5月1日	●マグニチュード・ゼロ
118	ふれあいエスプ 5月号	5月1日	●MM施設
119	GALAC5月号	5月6日	●倉持研究員執筆
120	ダ・ヴィンチ 5月号	5月6日	●研究員コラム
121	関西日仏学館 2012 夏のプログラム	6月	●ジュラルディン・コジアック展
122	ハイパーホビー 6月号	6月1日	●マグニチュード・ゼロ
123	ダ・ヴィンチ 6月号	6月	●研究員コラム
124	ガクシン7月号	7月1日	●ジュラルディン・コジアック展
125	GALAC7月号	7月6日	●杉本研究員執筆
126	ガクシン8・9月号	7月10日	●ジュラルディン・コジアック展 ●えむえむ夏休みマンガ自由研究
127	ダ・ヴィンチ 7月号	7月	●研究員コラム
128	市民しんぶん8月号	8月1日	●杉井ギサブローの世界展 ●荻原・ベルネ 原画展
129	月刊生涯学習 8月号	8月1日	●吉村センター長執筆記事
130	GALAC8月号	8月6日	●伊藤研究員執筆
131	ダ・ヴィンチ 8月号	8月	●研究員コラム
132	ダ・ヴィンチ 9月号	9月	●研究員コラム
133	GALAC 9月号	9月1日	●「モーレツイタリア家族」について倉持研究員執筆
134	Yomiこ 9月号	9月1日	●海獣とタマンイ〜五十嵐大介の世界 ●荻原征弥・BELNE原画展
135	市民しんぶん9月号	9月1日	●ガイナックス流アニメ作法
136	メディア芸術ニュースレター 6	9月28日	●表北九州マンガミュージアム専門研究員インタビュー記事
137	秋びあ 関西版	9月30日	●鳥取マンガ博出展原画ダッシュ展
138	ガクシン	10月1日	●荻原征弥・BELNE原画展
139	GALAC10月号	10月6日	●猪俣研究員執筆
140	GALAC11月号	11月6日	●杉本研究員執筆
141	Cityliving	11月9日	●フランス人コミックス作家トークショー
142	GALAC 12月号	12月6日	●「ブラックジャックによるしく展」について伊藤研究員執筆
143	ドラえもんひびくクイズ もののはじまり	12月24日	●資料画像提供
144	GALAC1月号	1月6日	●倉持研究員執筆
145	第18回ミュージアムロード	1月中ごろ	●MM施設 ●寺田克也展 ●Kyoto MaGiC展
146	GOGO土曜塾2月号	2月1日	●Kyoto MaGiC ●寺田克也ココ10年展
147	月刊ぶらざ	2月1日	●猪俣研究員インタビュー（岐阜県のフリーペーパー）
148	ウルトラジャンプ 3月号	2月19日	●寺田克也ココ10年展
149	オトナファミ	2月20日	●寺田克也ココ10年展
150	SFマガジン 3月号	3月1日	●寺田克也ココ10年展
151	ハイパーホビー3月号	3月1日	●寺田克也ココ10年展
152	GALAC3月号	3月6日	●杉本研究員執筆
153	TOKK 3月号	3月1日	●スケッチトラベル展
154	月刊カット	3月19日	●スケッチトラベル展
155	KPRESS 3月号	3月1日	●スケッチトラベル展 ●スケッチトラベル展 ●寺田克也ココ10年展 ●Kyoto MaGiC展覧会
156	市民しんぶん 3月号	3月1日	●寺田克也ココ10年展
157	BRUTUS 2013 S/S FASHION ISSUE	3月15日	●寺田克也ココ10年展
158	旅と鉄道 5月号	3月21日	●スケッチトラベル展
159	美術手帖 4月号	3月18日	●寺田克也ココ10年展 ●スケッチトラベル展
160	日本の近代4 1905~1924 「国際化」の中の帝国日本	3月25日	●図版協力
161	関西ウォーカー 3月27日~4月16日号	3月27日	●MM施設 ●寺田克也ココ10年展
162	リビング京都中央	3月30日	●スケッチトラベル展
163	HOT PEPPER 4	3月29日	●スケッチトラベル展
164	メディア芸術ニュースレター	3月25日	●杉本ジェンカ研究員出演イベント、伊藤研究員コラム
165	モーニングマガジンウェブ	4月19日	●うえやまどちのマンガクッキング
166	nippon.com	4月20日	●マグニチュード・ゼロ
167	nippon.com	4月25日	●ジャクリーヌ・ベルント先生インタビュー
168	コミックナタリー	5月11日	●日本漫画家協会特別賞
169	時事通信	5月11日	●日本漫画家協会特別賞
170	毎日.com	5月11日	●日本漫画家協会特別賞
171	まんたんウェブ	5月11日	●日本漫画家協会特別賞
172	産経新聞	5月11日	●日本漫画家協会特別賞
173	アニメ！アニメ！	5月18日	●マンガワールズ サブカルチャー・日本・ジャパロロジー
174	毎日.com	5月18日	●マンガワールズ サブカルチャー・日本・ジャパロロジー
175	神戸新聞	5月18日	●マンガワールズ サブカルチャー・日本・ジャパロロジー

Web

176	Digi Style京都	5月21日	●ジェラルディン・コジアック展
177	インターネット・ミュージアム	5月29日	●ジェラルディン・コジアック展
178	Leafウェブ	5月31日	●杉井ギサプロードキュメンタリー試写会
179	Lumino.jp	5月31日	●杉井ギサプロードキュメンタリー試写会
180	びあ関西版	5月31日	●杉井ギサプロードキュメンタリー試写会
181	京都新聞ウェブ	6月3日	●国際学術会議
182	Yahoo!ニュース	6月22日	●日本漫画家協会授賞式
183	オリオン	6月22日	●日本漫画家協会授賞式
184	Digi Style京都	7月20日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
185	京都で遊ぼうART	7月27日	●アニメーション監督 杉井ギサプロードの世界
186	京都で遊ぼうART	8月13日	●海獣とタマシイ～五十嵐大介の世界
187	をちこち	8月20日	●ハンガリーでのマンガ講義
188	Digi Style京都	10月2日	●デンマークセミナー
189	Digi Style京都	10月4日	●フランスコミックスの世界
190	Yahoo!ニュース	10月27日	●デンマークセミナー
191	アニメ!アニメ!	11月9日	●デンマークセミナー
192	アニメ!アニメ!	11月10日	●デンマークセミナー
193	毎日.jp	11月10日	●フランス人コミックス作家トークショー
194	夏目房之介ブログ	11月11日	●フランス人コミックス作家トークショー
195	cinranet	1月15日	●寺田克也ココ10年展
196	DigiStyle京都	1月15日	●寺田克也ココ10年展
197	インターネットミュージアム	1月15日	●寺田克也ココ10年展
198	コミックナタリー	1月17日	●寺田克也ココ10年展
199	Yahoo!ニュース	1月24日	●手から手へ展
200	日本漫画家協会HP	1月25日	●寺田克也ココ10年展 ●Kyoto MaGiC ●スケッチトラベル展
201	Fashionsnap.com	1月27日	●スケッチトラベル展
202	コミックナタリー	2月6日	●スケッチトラベル展
203	JDN	2月12日	●スケッチトラベル展
204	Pretty on line	2月20日	●スケッチトラベル展
205	京都で遊ぼうART	3月6日	●スケッチトラベル展
206	コミックナタリー	3月7日	●堀江信彦イベント
207	ドコモ コンシェルジュ	3月14日	●寺田克也ココ10年展
208	朝日新聞ウェブ	3月15日	●寺田克也ココ10年展
209	ファミ通	3月15日	●寺田克也ココ10年展
210	Lmaga. Jp	3月16日	●スケッチトラベル展
211	130E	3月16日	●寺田克也ココ10年展
212	コミックナタリー	3月16日	●寺田克也ココ10年展
213	Yahoo!ニュース	3月26日	●マンガクッキング6杯目
214	烏丸経済新聞	3月26日	●マンガクッキング6杯目
215	BOOK ASAHI. COM	3月29日	●寺田克也ココ10年展
216	BOOK ASAHI. COM	3月29日	●寺田克也ココ10年展
217	MONDO	5月	●吉村センター長インタビュー記事
218	KHAMIS	9月27日	●ブルネイでのマンガWS開催について
219	Borneo Bulletin	9月27日	●ブルネイでのマンガWS開催について
220	Borneo Bulletin	9月28日	●ブルネイでのマンガWS開催について
221	THE BRUNEI TIMES	9月28日	●ブルネイでのマンガWS開催について
222	NHK WORLD NEWSLINE	11月9日	●その他
223	ひゅーまんらいと	9月1日	●京都人権文化講座〈第47期・第4回〉吉村さん
224	熊本近代文学館報	3月30日	●吉村センター長出演イベント

その他

TV

1	NHK広島 フェイス	6月28日	●はだしのゲン掲載のジャンプ資料撮影協力
2	KBS京都 フェイス	7月22日	●オペラ座ダンサー来館
3	NHK クローズアップ現代	7月30日	●6/28放送のNHK広島の映像利用
4	KBS京都 ほじボジたまご	8月23日	●辰巳ヨシヒロトークショー
5	NHK クローズアップ現代	10月30日	●やなせたかし史特集番組に倉持研究員インタビュー
6	KBS京都 フェイス	10月31日	●小野佐世男展について伊藤研究員インタビュー
7	読売テレビ スッキリ!!	1月22日	●小野佐世男展

ラジオ

8	KBS京都 森谷威夫のお世話になります	4月2日	●寺田克也ココ10年展 ●スケッチトラベル展
9	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	4月13日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
10	KBS京都 森谷威夫のお世話になります	8月14日	●辰巳ヨシヒロトークショー
11	KBS京都 遠藤奈美の週間シネMAX	8月23日	●辰巳ヨシヒロトークショー
12	J-WAVE HELLO WORLD	12月30日	●倉持研究員インタビュー
13	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	12月14日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
14	NHK第1放送 かんさい土曜ほっとタイム「土曜マンガ博物館」	2月15日	●吉村センター長レギュラー番組コーナー
15	FM802 Saturday Amusic Island	3月8日	●手から手へ展について小川研究員インタビュー

新聞

16	産経新聞夕刊	4月1日	●吉村先生執筆記事(クール・ジャパンの実像)
17	京都新聞夕刊	4月26日	●京都で視えるんです!
18	中日新聞	4月25日	●研究員執筆
19	朝日新聞	4月26日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
20	京都新聞	5月5日	●吉村センター長の納所小学校出張マンガ教室
21	朝日新聞夕刊A+1	5月8日	●寺田克也 ココ10年展
22	SANKEI EXPRESS 5/27	5月27日	●寺田克也 ココ10年展
23	中日新聞	5月23日	●研究員執筆
24	山陽新聞夕刊	5月31日	●寺田克也 ココ10年展
25	朝日新聞	5月31日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
26	産経新聞	6月1日	●寺田克也 ココ10年展
27	山陽新聞夕刊	6月7日	●寺田克也 ココ10年展
28	京都新聞夕刊	6月28日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
29	山陽新聞	6月28日	●寺田克也 ココ10年展
30	中日新聞	6月27日	●研究員執筆
31	朝日新聞	6月28日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
32	京都新聞	7月17日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
33	京都新聞夕刊	7月19日	●バレエ・マンガ展 ●出張バレエ教室
34	週刊読書人	7月19日	●その他
35	中日新聞	7月21日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
36	読売新聞	7月24日	●緒星大二郎原画展
37	中日新聞	7月25日	●研究員執筆
38	SANKEI EXPRESS 7/29	7月29日	●バレエ・マンガ展
39	朝日新聞夕刊 A+1	7月31日	●バレエ・マンガ展
40	朝日新聞	8月2日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
41	朝日新聞夕刊 A+1	8月7日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
42	京都新聞	8月16日	●緒星大二郎原画展
43	毎日新聞	8月16日	●辰巳ヨシヒロトークショー
44	朝日新聞	8月21日	●緒星大二郎原画展
45	読売新聞夕刊	8月22日	●バレエ・マンガ展
46	中日新聞	8月22日	●研究員執筆
47	朝日新聞	8月30日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
48	朝日新聞夕刊	9月4日	●バレエ・マンガ展
49	毎日新聞夕刊	9月5日	●辰巳ヨシヒロトークショー
50	京都新聞	9月7日	●吉村センター長インタビュー
51	朝日新聞夕刊	9月11日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
52	朝日新聞夕刊	9月18日	●バレエ・マンガ展
53	日本経済新聞	9月19日	●KyotoMaGiC公募
54	毎日新聞	9月19日	●花村えい子×ちばてつや×竹宮恵子座談会イベント
55	中日新聞	9月26日	●研究員執筆
56	朝日新聞	9月27日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
57	朝日新聞	9月28日	●ピカドン研究会
58	SANKEI EXPRESS 10/7	10月7日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
59	朝日新聞夕刊	10月16日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
60	中日新聞	10月24日	●研究員執筆
61	朝日新聞	11月1日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
62	京都新聞	11月19日	●小野佐世男展
63	中日新聞	11月28日	●研究員執筆
64	朝日新聞	11月29日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
65	朝日新聞夕刊	12月25日	●小野佐世男展
66	朝日新聞	12月27日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
67	毎日新聞	1月10日	●小野佐世男展
68	SANKEI EXPRESS	1月13日	●小野佐世男展
69	京都新聞	1月16日	●ジェンガ研究員インタビュー記事
70	中日新聞	1月23日	●研究員執筆
71	朝日新聞	1月31日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
72	朝日新聞(夕刊)	2月7日	●小野佐世男展
73	京都新聞(夕刊)	2月14日	●Kyoto MaGiCファッションショー
74	中日新聞	2月27日	●研究員執筆
75	朝日新聞(夕刊)	2月28日	●手から手へ展
76	朝日新聞(夕刊)	2月28日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
77	京都新聞	3月1日	●手から手へ展 ●KyotoMaGiC展覧会
78	山陽新聞	3月6日	●手から手へ展
79	山陽新聞	3月7日	●ヌーベル・バンド・デジネ展
80	朝日新聞	3月7日	●手から手へ展
81	朝日新聞(夕刊)	3月7日	●手から手へ展
82	京都新聞	3月8日	●手から手へ展
83	朝日新聞(夕刊)	3月14日	
84	大阪民主新報	3月16日	●手から手へ展
85	SANKEI EXPRESS	3月24日	●手から手へ展
86	中日新聞	3月27日	●研究員執筆
87	朝日新聞夕刊	3月28日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」
88	産経新聞 夕刊	3月26日	●Kyoto MaGiC

雑誌・情報誌

89	Yomiつこ	4月1日	●スケッチトラベル展
90	季刊エス	4月1日	●寺田克也ココ10年展 ●スケッチトラベル展
91	SFマガジン 4月号	4月1日	●寺田克也ココ10年展
92	市民しんぶん4月号	4月1日	●スケッチトラベル展関連イベント ●うえやまとちのマンガクッキング6杯目 ●怪談トークショー
93	ガクシン 5月号	4月10日	●寺田克也ココ10年展 ●Kyoto MaGiC展覧会

94	AVIVA	4月15日	●スケッチトラベル展
95	SFマガジン 5月号	5月1日	●寺田克也ココ10年
96	月刊アフタヌーン	5月1日	●寺田克也ココ10年
97	市民しんぶん 5月号	5月1日	●寺田克也ラクガキングLIVE
98	美術手帖 5月号	5月1日	●スケッチトラベル展
99	SFマガジン 6月号	6月1日	●寺田克也ココ10年
100	イラストレーション 6月号	6月1日	●寺田克也ココ10年
101	Yomiっこ	5月1日	●スケッチトラベル展
102	月刊Mdn 6月号	5月7日	●寺田克也 ココ10年展
103	関西ウォーカー5/22~6/4	5月22日	●スケッチトラベル展
104	HOTPEPPER 5月号	4月26日	●寺田克也 ココ10年展
105	市民しんぶん6月号	6月1日	●なつかしの昭とおもちゃ展 ●原画(ダッシュ)展
106	京ごよみ 6月号	5月15日	●スケッチトラベル展 ●寺田克也 ココ10年展 ●Kyoto MaGiC展
107	関西ウォーカー6/5~6/18	6月5日	●寺田克也 ココ10年展
108	京ごよみ7月号	6月15日	●原画ダッシュ 凛々しく 可愛らしく
109	Leaf mini vol.17	6月13日	●寺田克也 ココ10年展
110	ガクシン 7月号	6月10日	●原画ダッシュ 凛々しく 可愛らしく
111	SAVVY 8月号	6月22日	●寺田克也 ココ10年展 ●原画ダッシュ 凛々しく 可愛らしく ●諸星大二郎原画展:不熟1970-2012 ●バレー・マンガ ~永遠なるうつくしさ~
112	新潮45 7月号	6月18日	●寺田克也ココ10年展
113	月刊フラワーズ 8月号	6月28日	●バレー・マンガ展
114	京ごよみ8月号	6月25日	●原画ダッシュ 凛々しく 可愛らしく ●バレー・マンガ展
115	ダンサーズ NO.38	7月1日	●バレー・マンガ展
116	ガクシン8・9月号	7月1日	●バレー・マンガ展 ●諸星大二郎原画展
117	ハイパーホビー8月号	8月1日	●諸星大二郎原画展
118	月刊Yomiっこ 8月号	7月1日	●諸星大二郎原画展 ●原画ダッシュ 凛々しく 可愛らしく
119	市民しんぶん7月号	7月1日	●諸星大二郎原画展 ●バレー・マンガ展
120	Leaf 9月号	7月25日	●バレー・マンガ展広告
121	市民しんぶん8月号	8月1日	●水沢めぐみトークショー ●辰巳ヨシヒロトークショー
122	K PRESS 8月号	8月1日	●バレー・マンガ展
123	Yomiっこ 9月号	8月1日	●諸星大二郎原画展
124	リビング京都中央	8月24日	●バレー・マンガ展
125	オトナファミ10月号	8月20日	●MM施設 ●原画ダッシュ展 ●絵師展02
126	バレーリーナへの道vol95	8月31日	●バレー・マンガ展
127	HOTPEPPER 9月号	8月30日	●バレー・マンガ展
128	K PRESS 9月号	9月1日	●バレー・マンガ展
129	ハイパーホビー9月号	9月1日	●諸星大二郎原画展
130	市民しんぶん9月号	9月1日	●花村えいこ×ちばてつや×竹宮恵子座談会 ●絵師展02
131	kotoba No.13	9月6日	●呉先生による京都とマンガ
132	SWAN MAGAZINE Autumn	9月11日	●バレー・マンガ展
133	ガクシン 10月号	9月15日	●原画ダッシュ展
134	AERA No.38	9月16日	●バレー・マンガ展
135	大学時報	9月20日	●伊藤研究員執筆
136	ハイパーホビー10月号	10月1日	●諸星大二郎原画展
137	ダンスマガジン10月号	10月1日	●バレー・マンガ展
138	京ごよみ12月号	11月	●小野佐世男展
139	ハイパーホビー11月号	11月1日	●原画ダッシュ展示 凛々しく 可愛らしく
140	Kansaiscene	11月1日	●小野佐世男展
141	TOKK 12月号	12月1日	●小野佐世男展
142	Yomiっこ1月号	1月1日	●小野佐世男展
143	KPRESS 1月号	1月1日	●小野佐世男展
144	マーガレット 3・4合併号	1月5日	●Kyoto MaGiCファッションショー募集
145	別冊マーガレット 2月号	1月13日	●Kyoto MaGiCファッションショー募集純広告
146	Leaf 2014.3	1月25日	●手から手へ展
147	Yomiっこ 2月号	2月1日	●小野佐世男展
148	市民しんぶん2月号	2月1日	●Kyoto MaGiCファッションショー
149	KPRESS 2月号	2月1日	●小野佐世男展
150	GOGO土曜塾 2月号	2月1日	●えむえむワークショップ「グラフィグを作ろう！」
151	ぼど(山科版、醍醐・六地蔵版、伏見・大手筋版、宇治北版、宇治南	2月7日	●手から手へ展
152	シティリビング2月7日号	2月7日	●KyotoMaGiCファッションショー
153	マーガレット No.5 2月20日発売号	2月20日	●Kyoto MaGiC
154	機関紙編集者クラブ	2月20日	●手から手へ展
155	関西ウォーカー 2/26~3/11	2月26日	●手から手へ展
156	Número TOKYO	2月27日	●手から手へ展
157	Yomiっこ 3月号	3月上旬	●手から手へ展
158	ハイパーホビー3月号	3月1日	●手から手へ展
159	リビング京都中央	3月1日	●手から手へ展
160	マーガレット No.7	3月20日	●KyotoMaGiC
161	ザ・淀川	3月25日	●手から手へ展
162	HOT PEPPER 4	3月28日	●手から手へ展
163	コミックナタリー	4月12日	●寺田克也ココ10年
164	ドコモコンシェルジュ	4月16日	●マンガクッキング
165	Morning Manga	4月17日	●マンガクッキング
166	ドコモコンシェルジュ	4月19日	●Meiイベント
167	コミックナタリー	4月19日	●マンガクッキング
168	コミックナタリー	4月23日	●寺田克也ココ10年
169	京つう	4月24日	●Meiイベント
170	Dat	4月26日	●寺田克也ココ10年
171	Gooニュース	4月26日	●寺田克也ココ10年
172	ITmedia News	4月26日	●寺田克也ココ10年
173	Yahoo!ニュース	4月26日	●寺田克也ココ10年
174	マイナビニュース	4月26日	●寺田克也ココ10年
175	Plima!	4月26日	●寺田克也ココ10年
176	SankeiBiz	4月26日	●寺田克也ココ10年
177	毎日新聞	5月22日	●まんが王国とっとり
178	Yahoo!ニュース	6月14日	●諸星大二郎原画展
179	Digitstyle京都	6月24日	●諸星大二郎原画展
180	京都で遊ぼうArt	6月25日	●諸星大二郎原画展
181	京都で遊ぼうArt	6月25日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
182	コミックナタリー	6月30日	●バレー・マンガ展

Web

183	日本漫画家協会HP	7月1日	●バレエ・マンガ展 ●諸星大二郎原画展
184	ダ・ヴィンチ ウェブ	7月6日	●バレエ・マンガ展
185	コミックナタリー	7月10日	●諸星大二郎原画展
186	DigiStyle京都	7月12日	●バレエ・マンガ展
187	ecrii	7月12日	●諸星大二郎原画展
188	萩尾望都作品目録	7月14日	●バレエ・マンガ展
189	Café Blue Comics	7月15日	●バレエ・マンガ展
190	cinranet	7月17日	●諸星大二郎原画展
191	京都新聞ウェブ	7月17日	●原画ダッシュ展示シリーズ 凛々しく 可愛らしく
192	鳥丸経済新聞	7月23日	●バレエ・マンガ展
193	コミックナタリー	7月30日	●辰巳ヨシヒロトークショー
194	アニメ！アニメ！	8月1日	●辰巳ヨシヒロトークショー
195	京都で遊ぼうART	8月3日	●バレエ・マンガ展
196	The Japan News	9月8日	●バレエ・マンガ展
197	日本漫画家協会HP	9月19日	●MaGiC公募
198	日本経済新聞ウェブ	9月19日	●MaGiC公募
199	コミックナタリー	9月20日	●MaGiC公募
200	コミックナタリー	10月17日	●小野佐世男展
201	インターネットミュージアム	10月24日	●小野佐世男展
202	アパホテル	10月22日	●小野佐世男展
203	朝日新聞デジタル	10月22日	●小野佐世男展
204	BIGLOBE旅行	10月22日	●小野佐世男展
205	exciteシーズン	10月22日	●小野佐世男展
206	nifty旅行	10月22日	●小野佐世男展
207	日本旅行	10月22日	●小野佐世男展
208	おでかけ旅ガイド	10月22日	●小野佐世男展
209	ゆこゆこ	10月22日	●小野佐世男展
210	スポットサーチ	10月22日	●小野佐世男展
211	Walkerplus	10月22日	●小野佐世男展
212	yahooloco	10月22日	●小野佐世男展
213	ザック	10月22日	●小野佐世男展
214	ジャパンポータル	11月1日	●小野佐世男展
215	京都で遊ぼうArt	11月1日	●小野佐世男展
216	アニメ！アニメ！	12月1日	●ガイマン賞決まる
217	アパホテル	12月21日	●MaGiCファッションショー
218	朝日デジタル	12月21日	●MaGiC展覧会
219	exciteシーズン	12月21日	●MaGiC展覧会
220	こどもと遊ぼう	12月21日	●MaGiC展覧会
221	nifty旅行	12月21日	●MaGiC展覧会
222	スポットサーチ	12月21日	●MaGiCファッションショー
223	朝日デジタル	12月21日	●MaGiCファッションショー
224	BIGLOBE旅行	12月21日	●MaGiCファッションショー
225	exciteシーズン	12月21日	●MaGiCファッションショー
226	kidsnet	12月21日	●MaGiCファッションショー
227	こどもと遊ぼう	12月21日	●MaGiCファッションショー
228	livedoor	12月21日	●MaGiCファッションショー
229	nifty旅行	12月21日	●MaGiCファッションショー
230	おでかけ旅ガイド	12月21日	●MaGiCファッションショー
231	スポットサーチ	12月21日	●MaGiCファッションショー
232	ゆこゆこ	12月21日	●MaGiCファッションショー
233	ザック	12月21日	●MaGiCファッションショー
234	JRおでかけネット	1月7日	●MaGiC展覧会
235	じゃらんネット	1月7日	●MaGiC展覧会
236	Yahoo!loco	1月7日	●MaGiC展覧会
237	ダ・ヴィンチ 電子ナビ	1月14日	●ガイマン賞決まる
238	netlabo	1月14日	●Kyoto MaGiC
239	アニメ！アニメ！	1月15日	●マンガ学会開催決定
240	JRおでかけネット	1月20日	●手から手へ展
241	Yahoo!loco	1月20日	●手から手へ展
242	スッキリ！HP	1月22日	●小野佐世男展
243	JRおでかけネット	2月3日	●手から手へ展
244	じゃらんネット	2月4日	●手から手へ展
245	Yahoo!loco	2月4日	●手から手へ展
246	DigiStyle京都	2月16日	●竹富×都留
247	MyFavoriteKansai	2月17日	●手から手へ展
248	山猫翻訳クラブ	2月17日	●手から手へ展
249	アメンバーニュース	2月20日	●トキワ荘プロジェクト
250	アニメ！アニメ！	2月20日	●トキワ荘プロジェクト
251	コミックナタリー	2月14日	●MaGiCファッションショー
252	cinranet	3月5日	●ヌーベルBD
253	朝日新聞デジタル	3月7日	●手から手へ展
254	コミックナタリー	3月14日	●マンガクッキング
255	netlabo	3月16日	●マンガクッキング
256	ITmedia News	3月17日	●原画 文房堂ギャラリー
257	Kawaii! Japan's culture of cute	4月1日	●研究員とのインタビュー
258	KYOTO VISTOR'S GUIDE 6	6月1日	●寺田克也 ココ10年展
259	ノルウェーの新聞	9月11日	●出張ワークショップ
260	Kyoto Visitor's Guide 12	12月1日	●小野佐世男展
261	THE 世界一展 チラシ	4月	●吉村センター長出演の梅北グラウンフロント梅田の講演イベントの配布チラシ

その他

TV

ラジオ

新聞

1	KBS京都 京都新聞ニュース	6月28日	●マンガ学会シンポジウム
2	KBS京都 ほしボジたまご	8月12日	●土田世紀全原画展
3	KBS京都 森谷威夫のお世話になります!!	11月3日	●青池保子華麗なる原画の世界
4	MBCラジオ モーニング・スマイル 明石屋 行ってみ犬使・食べ大	11月17日	●青池保子華麗なる原画の世界
5	朝日新聞(夕刊)	4月4日	●手から手へ展
6	京都新聞	4月5日	●ヌーベル・バンド・デシネ展
7	京都新聞	4月12日	●Kyoto MaGiC展覧会
8	読売新聞	4月21日	●うえやまどちのマンガクッキング 7杯目
9	朝日新聞(夕刊)	4月25日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」吉村センター長
10	朝日新聞(夕刊)	4月25日	●手から手へ展
11	神戸新聞	5月6日	●手から手へ展
12	朝日新聞	5月8日	●土田世紀全原画展
13	朝日新聞(夕刊)	5月9日	●手から手へ展
14	毎日新聞	5月9日	●倉持研究員インタビュー
15	山陽新聞	5月16日	●なかよしフェスタ
16	毎日新聞(夕刊)	5月17日	●倉持研究員インタビュー
17	読売新聞(全国版)	5月18日	●藤矢研究員インタビュー
18	SANKEI EXPRESS	5月19日	●Kyoto MaGiC展覧会
19	京都新聞	5月20日	●美味しんぼに関する館長コメント+吉村学部長コメント
20	中日新聞	5月22日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」伊藤研究員
21	京都新聞	5月25日	●なかよしフェスタ
22	朝日新聞(夕刊)	5月26日	●土田世紀全原画展
23	朝日新聞(夕刊)	5月30日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」伊藤研究員
24	朝日新聞(夕刊)	6月5日	●土田世紀全原画展
25	朝日新聞(夕刊)	6月5日	●土田世紀全原画展
26	読売新聞	6月17日	●マンガ学会シンポジウム
27	京都新聞	6月20日	●土田世紀全原画展
28	京都新聞(夕刊)	6月20日	●マンガ学会シンポジウム
29	朝日新聞(夕刊)	6月20日	●土田世紀全原画展
30	中日新聞	6月26日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」伊藤研究員
31	朝日新聞(夕刊)	6月27日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」雑賀研究員
32	朝日新聞	6月30日	●マンガ学会シンポジウム
33	京都新聞	6月30日	●マンガ学会シンポジウム
34	読売新聞	6月30日	●マンガ学会シンポジウム
35	赤旗新聞	7月2日	●土田世紀全原画展
36	北海道新聞(夕刊)	7月4日	●土田世紀全原画展
37	読売新聞	7月8日	●マンガ学会シンポジウム
38	北海道新聞(夕刊)	7月11日	●研究員執筆
39	朝日新聞(夕刊)	7月18日	●マンガ学会シンポジウム
40	読売新聞	7月21日	●館長昆虫教室
41	中日新聞	7月22日	●マンガ学会シンポジウム
42	中日新聞	7月24日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」伊藤研究員
43	SANKEI EXPRESS	7月28日	●土田世紀全原画展
44	京都新聞 1日版	8月1日	●土田世紀全原画展
45	朝日新聞(夕刊)	8月1日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」伊藤研究員
46	読売新聞	8月20日	●土田世紀全原画展
47	北海道新聞	8月22日	●マーガレット展について倉持研究員コメント
48	朝日新聞(夕刊)	8月29日	●土田世紀全原画展
49	愛媛新聞	8月下旬/9月	●なかよしフェスタ
50	中日新聞	8月28日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」伊藤研究員
51	朝日新聞(夕刊)	8月29日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」吉村センター長
52	東京新聞	9月14日	●MM施設 他
53	中日新聞	9月25日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」伊藤研究員
54	京都新聞	9月26日	●インバウンド観光 シンポジウム
55	朝日新聞(夕刊)	9月26日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」倉持研究員
56	秋田さきがけ	10月1,2,3日	●土田世紀全原画展シンポジウム
57	朝日新聞(夕刊)	10月31日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」雑賀研究員
58	京都新聞	11月1日	●青池保子華麗なる原画の世界
59	京都新聞	11月20日	●伊藤研究員インタビュー
60	SANKEI EXPRESS	11月24日	●青池保子華麗なる原画の世界
61	京都新聞(夕刊)	11月28日	●ニコラス・マラー展
62	朝日新聞(夕刊)	11月28日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」倉持研究員
63	朝日新聞(夕刊)	12月5日	●ニコラス・マラー展
64	読売新聞	12月22日	●倉持研究員インタビュー
65	中日新聞	12月25日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」雑賀研究員
66	朝日新聞(夕刊)	12月26日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」吉村センター長、伊藤・倉持・雑賀研究員
67	京都新聞	1月1日	●ニコラス・マラー展
68	京都新聞	1月5日	●ニコラス・マラー展
69	朝日新聞	1月9日	●ニコラス・マラー展
70	京都新聞(夕刊)	1月16日	●青池保子華麗なる原画の世界
71	朝日新聞(夕刊)	1月23日	●震災マンガ
72	中日新聞	1月29日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」雑賀研究員
73	朝日新聞(夕刊)	1月30日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」伊藤研究員
74	中日新聞	2月26日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」倉持研究員
75	朝日新聞(夕刊)	3月6日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」雑賀研究員
76	中日新聞	3月26日	●研究員執筆「中部マンガ研究所」伊藤研究員
77	朝日新聞(夕刊)	3月27日	●研究員執筆「いまだきマンガ塾」倉持研究員
78	Yomiっこ4月号	4月上旬	●ヌーベル・バンド・デシネ展
79	ハイパーホビー 4月号	4月1日	●手から手へ展
80	市民しんぶん 4月号	4月1日	●うえやまどちのマンガクッキング 7杯目
81	GOGO土曜塾 4・5月号	4月1日	●手から手へ展
82	京都行祭事情報誌 きょうの歳時記・美術館 2014春	4月1日	●ヌーベル・バンド・デシネ展
83	ぼど 山科/醍醐・六地藏/伏見・大手筋/宇治北/宇治南・城陽	4月4日	●うえやまどちのマンガクッキング 7杯目
84	日経REVIVE 4	4月5日	●手から手へ展
85	Day Art vol.11	4月15日	●ヌーベル・バンド・デシネ
86	ガクシン 5月号	4月15日	●ヌーベル・バンド・デシネ
87	関西ウォーカー 4/16~5/2	4月16日	●うえやまどちのマンガクッキング 7杯目
88	京ごよみ 5月号	4月25日	●Kyoto MaGiC展覧会
89	リビング京都中央	4月26日	●手から手へ展
90	マイル/ピッチ5巻	4月30日	●Kyoto MaGiC展覧会
91	おふたいむ 5月号	5月	●Kyoto MaGiC展覧会
92	Yomiっこ6月号	5月上旬	●土田世紀全原画展
93	市民しんぶん 5月号	5月1日	●手から手へ展キャラトーク ●即日漫画学校
94	ハイパーホビー 5月号	5月1日	●手から手へ展 ●原画グッズ展示
95	大人のおしやれ手帖	5月7日	●手から手へ展
96	Discover Japan	5月7日	●土田世紀全原画展
97	コンプティーク 6月号	5月10日	●土田世紀全原画展
98	ガジガジ	5月12日	●土田世紀全原画展

雑誌・情報誌

99	関西夏Walker	5月15日	●土田世紀全原画展
100	ガクシン 6月号	5月15日	●土田世紀全原画展
101	マーガレット 5月20日発売号	5月20日	●Kyoto MaGiC展覧会
102	エンタミクス 7	5月20日	●土田世紀全原画展
103	関西ウォーカー5/21~6/3	5月21日	●土田世紀全原画展
104	Leaf 7月号	5月25日	●土田世紀全原画展
			●なかよしフェスタ
105	京ごよみ 7月号	5月25日	●土田世紀全原画展
106	週刊少年サンデー 6月11日号	5月28日	●土田世紀全原画展
107	ハイパーホビー 6月号	6月1日	●手から手へ展
108	市民しんぶん6月号	6月1日	●土田世紀全原画展
109	子どもの文化	6月1日	●手から手へ展
110	リビング京都中央	6月7日	●なかよしフェスタ
111	モーニング No.26	6月12日	●土田世紀全原画展
112	ガクシン 7月号	6月15日	●なかよしフェスタ
			●土田世紀全原画展
113	Geen 7	6月25日	●なかよしフェスタ
			●土田世紀全原画展
114	ハイパーホビー 7月号	7月1日	●土田世紀全原画展
115	なかよし7月号	7月1日	●なかよしフェスタ
116	市民しんぶん7月号	7月1日	●土田世紀全原画展トークショー
117	Cut July	7月19日	●土田世紀全原画展
			●MM施設
	SAVVY 9月号	7月23日	●土田世紀全原画展
			●なかよしフェスタ
118	市民しんぶん8月号	8月1日	●なかよしフェスタ特別イベント
119	Meets Regional 9	8月1日	●土田世紀全原画展
120	京ごよみ10月号	8月25日	●京都「艦これ展」
121	京都文化祭典2014 パンフレット	9月	●ニュー・ブランジュ
122			●ニュー・ブランジュ
123	アンスティチュ・フランセ関西 フランス語講座・文化プログラム 秋	9月	●BD作家×ここの史代
124	ハイパーホビー 9月号	9月1日	●土田世紀全原画展
125	市民しんぶん9月号	9月1日	●京まふ第2会場(京都「艦これ展」)
126	ダ・ヴィンチ 9月	9月6日	●土田世紀全原画展
			●MM施設
127	京都アート&カルチャーMAP	9月12日	●土田世紀全原画展
128	国立国会図書館月報	9月20日	●原画タツシュ図録
129	Leaf 11	9月25日	●京都「艦これ展」
130	市民しんぶん 10月号	10月1日	●IKKI読書室
131	季刊エス	10月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
132	ガクシン11月号	10月15日	●京都「艦これ展」
			●青池保子 華麗なる原画の世界
133	きょうの歳時記・美術館 2014秋号	10月20日	●京都艦これ展
134	京ごよみ 12月号	10月25日	●青池保子 華麗なる原画の世界
135	ホットベッパ 11月号	10月31日	●青池保子 華麗なる原画の世界
136	電車&ウォーク 11月号	11月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
137	ハイパーホビー 11	11月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
138	TOKK 11月15日号	11月15日	●青池保子 華麗なる原画の世界
139	京ごよみ 1	11月25日	●青池保子 華麗なる原画の世界
140	Yomiっこ 1	12月上旬	●青池保子 華麗なる原画の世界
141	Yomiっこ 12月号	12月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
142	ハイパーホビー12月号	12月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
143	K PRESS 12	12月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
144	カジカジ1	12月12日	●ニコラス・マラー展
145	おふたいむ 1	12月15日	●ニコラス・マラー展
146	K PRESS 1	1月	●青池保子 華麗なる原画の世界
147	ハイパーホビー1月号	1月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
			●青池保子 華麗なる原画の世界
			●ニコラスマラー展
148	ガクシン2月号	1月5日	●ブラック・ジャック展
149	Yomiっこ 2月号	1月15日	●ニコラス・マラー展
150	ハイパーホビー2月号	2月1日	●青池保子 華麗なる原画の世界
			●医師たちのブラック・ジャック展
151	市民しんぶん3月号	3月1日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
152	関西ウォーカー 3/4-3/17	3月4日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
153	HOTPEPPER 4	3月27日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
154	Numero TOKYO MAY	3月28日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
155	コミックナタリー	4月15日	●土田世紀全原画展
156	yahooニュース	4月17日	●土田世紀全原画展
157	cinranet	4月18日	●土田世紀全原画展
158	DigiStyle京都	4月18日	●土田世紀全原画展
159	コミックプラス	4月28日	●なかよしフェスタ
160	DigiStyle京都	5月1日	●なかよしフェスタ
161	theatecafe	5月2日	●スーペル・バンド・デシネ展
162	コミックナタリー	5月6日	●即日漫画学校
163	まんたんウェブ	5月12日	●即日漫画学校
164	アメーバーニュース	5月12日	●土田世紀全原画展
165	アハホテル	5月12日	●土田世紀全原画展
166	朝日デジタル	5月12日	●なかよしフェスタ
167	朝日デジタル	5月12日	●土田世紀全原画展
168	biglobe	5月12日	●土田世紀全原画展
169	biglobe	5月12日	●なかよしフェスタ
170	デート通	5月12日	●なかよしフェスタ
171	デート通	5月12日	●土田世紀全原画展
172	enavita	5月12日	●なかよしフェスタ
173	exciteseason	5月12日	●土田世紀全原画展
174	fujifilmphotonma	5月12日	●なかよしフェスタ
175	子どもと遊ぼ	5月12日	●土田世紀全原画展
176	子どもと遊ぼ	5月12日	●なかよしフェスタ
177	まちこみzaq	5月12日	●土田世紀全原画展
178	まちこみzaq	5月12日	●なかよしフェスタ
179	nifty旅行	5月12日	●なかよしフェスタ
180	nifty旅行	5月12日	●土田世紀全原画展
181	おでかけ旅ガイド	5月12日	●土田世紀全原画展
182	すぼっとサーチ	5月12日	●なかよしフェスタ
183	すぼっとサーチ	5月12日	●土田世紀全原画展
184	ウォーカープラス	5月12日	●なかよしフェスタ
185	ウォーカープラス	5月12日	●土田世紀全原画展
186	yahooloco	5月12日	●なかよしフェスタ
187	yahooloco	5月12日	●土田世紀全原画展
188	ゆこゆこ	5月12日	●なかよしフェスタ
189	ゆこゆこ	5月12日	●土田世紀全原画展
190	コミックナタリー	5月18日	●なかよしフェスタ
191	itmedia	5月19日	●なかよしフェスタ
192	MuseumKyotoofGokomachi	5月22日	●Kyoto MaGiC展覧会
193	コミックナタリー	5月29日	●土田世紀全原画展

Web

194	Dokkaおでかけ関西	5月29日	●なかよしフェスタ
195	コミックナタリー	6月1日	●なかよしフェスタ
196	ネットラボ	6月3日	●なかよしフェスタ
197	朝日デジタル	6月4日	●土田世紀全原画展
198	DigiStyle京都	6月12日	●マンガ学会シンポジウム
199	manga style	6月18日	●土田世紀全原画展
200	DigiStyle京都	6月20日	●大らんこ展トークショー
201	京都新聞ウエブ	6月20日	●土田世紀全原画展
202	コミックナタリー	6月22日	●マンガ学会シンポジウム
203	朝日デジタル	6月30日	●マンガ学会シンポジウム
204	京都新聞ウエブ	7月3日	●大らんこ展トークショー
205	DigiStyle京都	7月18日	●プロフ・ベータートークショー
206	Lmaga.jp	7月18日	●土田世紀全原画展
207	HONZ	7月24日	●土田世紀全原画展
208	ダ・ヴィンチ	8月10日	●土田世紀全原画展
209	voice	8月10日	●土田世紀全原画展
210	マンガスタイル	8月14日	●土田世紀全原画展
211	コミックナタリー	8月19日	●IKKTトークショー
212	青池保子HP	8月20日	●青池保子 華麗なる原画の世界
213	なかよしHP	8月29日	●なかよしフェスタ
214	コミックナタリー	9月2日	●青池保子 華麗なる原画の世界
215	DigiStyle京都	9月8日	●青池保子 華麗なる原画の世界
216	じゃらん	10月5日	●青池保子 華麗なる原画の世界
217	itmedia	10月6日	●青池保子 華麗なる原画の世界
218	JRおでかけネット	10月6日	●青池保子 華麗なる原画の世界
219	yahooloco	10月6日	●青池保子 華麗なる原画の世界
220	ebookuser	10月8日	●青池保子 華麗なる原画の世界
221	コミックナタリー	10月9日	●BD作家×こうの史代
222	マイナビニュース	11月4日	●青池保子 華麗なる原画の世界
223	京都で遊ぼうART	11月4日	●青池保子 華麗なる原画の世界
224	京こよみウエブ	11月18日	●青池保子 華麗なる原画の世界
225	Lmaga.jp	11月19日	●青池保子 華麗なる原画の世界
226	MuseumKyotoofGokomachi	11月21日	●青池保子 華麗なる原画の世界
227	cinranet	12月2日	●ニコラス・マラー展
228	cinranet	2月14日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
229	アニメアニメ	2月16日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
230	fashionheadaline	2月16日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
231	マイフェイバリット関西	3月1日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
232	コミックナタリー	3月2日	●うえやまとちのマンガクッキング 8杯目
233	コミックナタリー	3月6日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
234	JDN	3月22日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
235	JDN	3月25日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
236	スピンス広報物	4月末	●Kyoto MaGIC展覧会
237	映画「マザー」	9月27日～	●資料協力
238	小林清親図録	2月20日	●資料提供協力

その他

2015年度内訳

9月まで20151214作成/9月以降20160521作成(中村)

TV	1	KBS京都 ニュース	6月6日	●マンガと戦争展
	2	テレビ大阪 なんでも鑑定団	6月9日	●小林清親資料提供
	3	Fジテレビ 直撃LIVE! クッディ	6月23日	●倉持研究員へ質問
	4	NHK京都 ニュース	6月29日	●マンガと戦争展
	5	関西テレビ ゆうがたLive!ワンダー	8月10日	●マンガと戦争展
	6	NHK おはよう日本!	8月14日	●擬人化キャラ
	7	読売テレビ かんさい情報ネット ten.	8月14日	●マンガと戦争展
	8	eo光チャンネル 家族でココイコ!	11月6日	●伊藤研究員が案内
	9	KBS京都 目で聴くテレビ	11月14日	●咲花洋一イベント
	10	NHK京都 京いちにち	12月10日	●水木しげる追悼コーナーについて伊藤研究員インタビュー
	11	NHK BS1 Cool Japan発掘! かつこいいニッポン	12月13日	●忍者マンガ
	12	読売テレビ かんさい情報ネット ten.	12月23日	●水木しげる追悼について吉村副学長インタビュー
	13	CS タカラヅカ・スカイ・ステージ 特命すみれリサーチ	12月1日	●正ちゃんの冒険について雑賀研究員インタビュー
	14	FM802 SATURDAY AMUSIC ISLANDS MORNING EDITION	5月30日	●ぶちマンガ家体験!!2
	15	NHKラジオ第一 お知らせ	6月複数回	●マンガと戦争展
ラジオ	16	NHKワールド・ジャパン 『Japaneseポップカルチャーマガジン』『K	10月10日	●倉持研究員インタビュー
	17	京都新聞	4月4日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
	18	京都新聞(夕刊)	4月10日	●うえやまとちのマンガクッキング
	19	朝日新聞(夕刊)	4月24日	●伊藤研究員執筆「いまだきマンガ塾」
	20	京都新聞(夕刊)	4月24日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
	21	産経新聞	5月4日	●倉持研究員執筆「マンガと地域」コラム
	22	SANKEI EXPRESS	5月4日	●中国連環画展
	23	朝日新聞(夕刊)	5月11日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
	24	朝日新聞(夕刊)	5月22日	●中国連環画展
	25	産経新聞	5月27日	●マンガと戦争展
	26	読売新聞	5月28日	●中国連環画展
	27	朝日新聞(夕刊)	5月29日	●雑賀研究員執筆「いまだきマンガ塾」
	28	山陽新聞	6月	●マンガと戦争展
	29	産経新聞(山陰)	6月1日	●マンガと地域
	新聞	30	神戸新聞(夕刊)	6月4日
31		京都新聞	6月6日	●マンガと戦争展
32		日本経済新聞	6月6日	●マンガと戦争展
33		毎日新聞	6月9日	●マンガと戦争展
34		大阪日日新聞	6月9日	●マンガと戦争展
35		大阪日日新聞	6月10日	●マンガと戦争展
36		朝日新聞(夕刊)	6月12日	●マンガと戦争展
37		大阪日日新聞	6月13日	●マンガと戦争展
38		京都新聞(夕刊)	6月19日	●中国連環画展
39		朝日新聞(夕刊)	6月26日	●中国連環画展
40		朝日新聞(夕刊)	6月26日	●倉持研究員執筆「いまだきマンガ塾」
41		京都新聞	6月27日	●萩尾望都 原画展
42		京都新聞折込	7月1日	●マンガと戦争展
43		読売新聞	7月9日	●マンガと戦争展
44		毎日小学生新聞	7月11日	●マンガと戦争展
45	SANKEI EXPRESS	7月13日	●マンガと戦争展	
46	朝日新聞(夕刊)	7月17日	●諸星大二郎原画展	
47	京都新聞	7月20日	●小林よしのり×呉智英対談	
48	読売新聞	7月22日	●マンガと戦争展	
49	朝日新聞(夕刊)	7月24日	●吉村センター長執筆「いまだきマンガ塾」	
50	毎日新聞	7月30日	●マンガと戦争展	
51	京都新聞	8月1日	●日韓文化交流プロジェクト	
52	県民福井	8月7日	●マンガと戦争展	
53	朝日新聞	8月28日	●伊藤研究員執筆「いまだきマンガ塾」	
54	読売新聞	8月30日	●第7回国際学術会議	
55	朝日新聞	9月25日	●雑賀研究員執筆「いまだきマンガ塾」	
56	京都新聞	9月26日	●国際学術会議	
57	読売新聞	9月27日	●国際学術会議	
58	琉球新報	10月2日	●倉持研究員インタビュー	
59	読売新聞	10月4日	●倉持研究員インタビュー	
60	産経新聞	10月17日	●江戸からたどる大マンガ史展	
61	京都新聞	11月23日	●天野喜孝×オリヴィエールドロワ対談	
62	読売新聞	11月26日	●江戸からたどる大マンガ史展	
63	朝日新聞	11月27日	●倉持研究員執筆「いまだきマンガ塾」	
64	朝日新聞(福岡)	11月28日	●MMIについて吉村副学長インタビュー	
65	朝日新聞(福岡)	11月29日	●MMIについて吉村副学長インタビュー	
66	日本経済新聞	11月29日	●江戸からたどる大マンガ史展	
67	読売新聞	12月4日	●原画ダッシュ展示シリーズ青年マンガの世界	
68	公明新聞	12月23日	●江戸からたどる大マンガ史展	
69	朝日新聞	12月25日	●いまだきマンガ塾	
70	SANKEI EXPRESS	1月4日	●原画ダッシュ展示シリーズ青年マンガの世界	
71	山陽新聞	1月8日	●江戸からたどる大マンガ史展	
72	読売新聞	1月1日、3日、	●MM施設	
73	京都新聞	1月9日	●江戸からたどる大マンガ史展	
74	中日子どもウィークリー	1月9日	●らびまる子ちゃん人気について倉持研究員インタビュー	
75	京都新聞	1月16日	●江戸からたどる大マンガ史展	
76	京都民報	1月17日	●江戸からたどる大マンガ史展	
77	朝日新聞	1月29日	●伊藤研究員執筆「いまだきマンガ塾」	
78	日本経済新聞	2月2日	●江戸からたどる大マンガ史展	
79	朝日新聞	3月25日	●雑賀研究員執筆「いまだきマンガ塾」	
雑誌・情報誌	80	市民しんぶん4月号	4月1日	●マンガクッキング ●知られざる中国連環画
	81	HOT PEPPER 5	4月24日	●知られざる中国連環画
	82	京ごよみ6月号	4月25日	●中国連環画展
	83	Yomiっこ	5月1日	●知られざる中国連環画
	84	市民しんぶん5月号	5月1日	●連環画シンポジウム ●中国連環画展
	85	SAVVY 7	5月23日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ ●マンガと戦争展 ●RIM-PANIMATION ●大マンガ史展 ●原画ダッシュ展
	86	京ごよみ7月号	5月25日	●中国連環画展 ●中国連環画 ●横山裕ー
	87	大阪市町村共済広報誌「カフェプラザ」夏号	6月	●MM施設 ●マンガと戦争展
	88	市民しんぶん6月号	6月1日	●マンガと戦争展
	89	Yomiっこ 7	6月1日	●マンガと戦争展

90	ブレーン 6	6月1日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
91	Kpress6	6月1日	●中国連環画展
92	おふたいむ6	6月1日	●中国連環画展
93	関西ウォーカー 6/3~6/16	6月3日	●マンガと戦争展 ●MM施設
94	関西ウォーカー 6/17~6/30号	6月17日	●萩尾望都原画展
95	別冊太陽 没後100年 小林清親	6月22日	●その他
96	Leaf 8月号	6月25日	●マンガと戦争展
97	コンプエース8月号	6月26日	●夏特WS2015
98	ファッションと密室 横山裕ー	6月30日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
99	K PRESS 7	7月1日	●マンガと戦争展
100	市民しんぶん7月号	7月1日	●ゆかたウィーク ●諸星大二郎原画展
101	Yomiっこ8月号	7月1日	●イリスデムイ展
102	ぼど 京都版	7月3日	●イリスデムイ展
103	リビング京都 中央	7月4日	●イリスデムイ展
104	歴史群像8月号	7月6日	●マンガと戦争展
105	関西ウォーカー7/15~7/28	7月15日	●諸星大二郎原画展
106	Couleur.(クルール)8月号	7月15日	●MM施設 ●マンガと戦争展
107	ザ・淀川 8月号	7月25日	●マンガと戦争展
108	京ごよみ9月号	7月25日	●マンガと戦争展
109	MOE 9	8月3日	●マンガと戦争展
110	ロケーションジャパン8月号	8月15日	●マンガと戦争展
111	関西ウォーカー8月19日~9月1日	8月19日	●MM施設 ●マンガと戦争展
112	美術の窓8	8月20日	●マンガと戦争展
113	Can Cam 11月号	9月23日	●倉持研究員インタビュー
114	Felice 10	10月1日	●雑賞、ユニー研究員のお薦めマンガ
115	京ごよみ12月号	10月25日	●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界
116	京都非公開文化財 特別公開案内冊子	10月30日	●江戸からたどる大マンガ史展
117	市民しんぶん11月号	11月1日	●江戸からたどる大マンガ史展 ●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界
118	ぼど 京都版	11月6日	●江戸からたどる大マンガ史展
119	関西ウォーカー	11月11日	●江戸からたどる大マンガ史展
120	京ごよみ1月号	12月1日	●江戸からたどる大マンガ史展
121	ハイパーホビーキャラクターランド	12月1日	●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界
122	Yomiっこ	12月1日	●江戸からたどる大マンガ史展
123	京ごよみ 2月号	12月	●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界 ●江戸からたどる大マンガ史展
124	おふたいむ 1	12月	●江戸からたどる大マンガ史展
125	市民しんぶん12月号	12月	●平田弘史サイン会 ●講演会「江戸戯画と現代マンガ」
126	なごみ 12月号	12月1日	●江戸からたどる大マンガ史展
127	K PRESS 12月号	12月1日	●江戸からたどる大マンガ史展
128	リビング京都	12月12日	●江戸からたどる大マンガ史展
129	BRUTUS	12月15日	●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界
130	HOT PEPPER 1	12月18日	●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界
131	ジェイアール京都伊勢丹折込	12月下旬	●江戸からたどる大マンガ史展
132	KPRESS 1月号	1月1日	●江戸からたどる大マンガ史展
133	ザ・淀川	1月1日	●江戸からたどる大マンガ史展
134	2015完成・実践シリーズ(塾内限り)	2月	●所蔵資料画像貸出
135	Yomiっこ 2	2月1日	●原画タツシュ展示シリーズ青年マンガの世界
136	「戦後70年:もうひとつの1940年代美術」展関連企画シンポジウム」	3月8日	●所蔵資料画像貸出
137	クリエイターズステーション	4月8日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
138	関西アートビート	4月25日	●中国連環画展
139	京都で遊ぶArt	4月30日	●中国連環画展
140	DigiStyle京都	5月11日	●マンガと戦争展
141	コミックナタリー	5月12日	●マンガと戦争展
142	京阪ネット	5月14日	●中国連環画展
143	JDN	5月18日	●マンガと戦争展
144	ウォーカープラス	5月18日	●マンガと戦争展
145	cinranet	5月19日	●マンガと戦争展
146	日本漫画家協会	5月19日	●マンガと戦争展
147	It media eBOOK user	5月19日	●マンガと戦争展
148	アバホテル	5月19日	●マンガと戦争展
149	朝日デジタルニュース	5月19日	●マンガと戦争展
150	テート通	5月19日	●マンガと戦争展
151	日本旅行	5月19日	●マンガと戦争展
152	おでかけ旅ガイド	5月19日	●マンガと戦争展
153	すぽっとサーチ	5月19日	●マンガと戦争展
154	まちこみZAQ	5月19日	●マンガと戦争展
155	yahoologo	5月19日	●マンガと戦争展
156	ゆこゆこ	5月19日	●マンガと戦争展
157	マンガまとめ	5月22日	●萩尾望都原画展
158	萩尾望都作品目録	5月22日	●萩尾望都原画展
159	マイナビニュース	5月22日	●萩尾望都原画展
160	アートアニュアルオンライン	5月22日	●マンガと戦争展
161	カレントアウェアネスポータル	5月25日	●マンガと戦争展
162	日本漫画家協会	5月25日	●マンガと戦争展
163	産経新聞ニュース	5月27日	●マンガと戦争展
164	朝日新聞デジタルニュース	6月3日	●マンガと戦争展
165	日本経済新聞	6月5日	●マンガと戦争展
166	産経ニュース	6月8日	●マンガと戦争展
167	ABRADEMI	6月16日	●マンガと戦争展
168	JRおでかけネット	6月19日	●マンガと戦争展
169	関西アートビート	6月22日	●萩尾望都原画展
170	関西アートビート	6月22日	●イリスデムイ展
171	関西アートビート	6月22日	●マンガと戦争展
172	京まなびネット	6月22日	●マンガと戦争展
173	コミックナタリー	7月2日	●諸星大二郎原画展
174	関西アートビート	7月11日	●諸星大二郎原画展
175	Anime fun	7月12日	●琳派オマージュ展
176	シドニーイベント	8月1日	●江戸戯画展 at Sydney
177	アバホテル	10月3日	●青年マンガの世界
178	朝日デジタル	10月3日	●青年マンガの世界
179	ビッグロープ	10月3日	●青年マンガの世界
180	日本旅行	10月3日	●青年マンガの世界
181	おでかけ旅ガイド	10月3日	●青年マンガの世界
182	すぽっとサーチ	10月3日	●青年マンガの世界
183	ウォーカープラス	10月3日	●青年マンガの世界

Web

184	yahooloco	10月3日	●青年マンガの世界
185	ゆこゆこ	10月3日	●青年マンガの世界
186	ザックおでかけガイド	10月3日	●青年マンガの世界
187	cinranet	10月25日	●江戸からたどる大マンガ史展
188	朝日デジタル	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
189	ビッグローブ	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
190	デート通	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
191	日本旅行	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
192	おでかけ旅ガイド	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
193	すぼっとサーチ	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
194	竹篋堂HP	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
195	ウォーカープラス	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
196	yahooloco	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
197	ザックおでかけ	10月20日	●江戸からたどる大マンガ史展
198	cinranet	10月25日	●江戸からたどる大マンガ史展
199	JRおでかけネット	10月28日	●青年マンガの世界
200	じゃらんネット	10月28日	●青年マンガの世界
201	The Asahishimbun	11月12日	●マンガと戦争展
202	京都で遊ぼうArt	11月13日	●江戸からたどる大マンガ史展
203	京都新聞	11月16日	●江戸からたどる大マンガ史展
204	おけいほんネット	11月16日	●江戸からたどる大マンガ史展
205	CHATTERBOX	12月14日	●青年マンガの世界
206	Lmaga.jp	12月24日	●江戸からたどる大マンガ史展
207	Japan News by Yomiuri Shimbun	1月27日	●江戸からたどる大マンガ史展
208	日本漫画家協会	3月8日	●マンガクッキング
209	Lmaga.jp	3月11日	●ねむり展
210	Comicon_Athenes	3月17日	●青年マンガの世界
211	Kansai Scene May	5月1日	●横山裕ーこれをネオ壁面と呼ぶ
212	Seoul Art Guide 07	7月	●マンガと戦争展
213	Asahi Weekly	8月2日	●マンガと戦争展
214	KYOTO VISTOR'S GUIDE8月号	8月1日	●マンガと戦争展
215	Asahi Weekly	8月2日	●マンガと戦争展
216	KYOTO VISTOR'S GUIDE9月号	9月1日	●マンガと戦争展
217	KYOTO VISTOR'S GUIDE12・1月号	12月1日	●青年マンガの世界
218	KYOTO VISTOR'S GUIDE2月号	2月1日	●青年マンガの世界

その他